緑と水の森林ファンド

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 12

里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～（洋野町　久慈平岳）
岩手県立 大野高等学校

公益社団法人　国土緑化推進機構

はじめに

昭和63年に3月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、33年余の歳月が経過しました。平成23年7月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の3つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公募事業（令和2年度）（令和元年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和4年3月
公益社団法人　国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド　刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成２年版　（１９９２.４）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成３・４年版（１９９４.８）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成５・６年版（１９９６.３）

緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ１　緑と水のサイエンス　（１９９６.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ２　緑と水のサイエンス　（２００１.７）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ３　緑と水のサイエンス　（２００４.６）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ４　緑と水のサイエンス　（２００７.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ５　緑と水のサイエンス　（２００９.５）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ６　緑と水のサイエンス　（２０１０.４）

緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１１.　３）
緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１２.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１２.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１５.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ８　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ９　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ10　（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ11　（２０２１.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ12　（２０２２.　３）

緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１３.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１４.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ８　（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ９　（２０２１.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ10　（２０２２.　３）

目　次

普及啓発

里山で自給生活体験に挑戦／NPO 法人 自然生活体験センター冒険家族……8
青少年への緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟……9
眺望山自然休養林を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会……10
里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～／岩手県立 大野高等学校……11
森・人・地域 再生シンポジウム in 遠野 2020 ／特定非営利活動法人 遠野エコネット……12
体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～／特定非営利活動法人 水守の郷・七ケ宿……13
自然にふれよう 山のがっこう／特定非営利活動法人 SCR……14
仮称「日本の森林の未来は森林活用・木材利用にある」／特定非営利活動法人 森林との共生を考える会……15
フォレストサポート・2020 ／ガールスカウト 山形県連盟……16
地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業／特定非営利活動法人 やみぞの森……17
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会……18
ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティアの育成／倉渕ヤマアジサイの会……19
「生物多様性のある里山の森づくり」／埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会……20
子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第 5 回）
／特定非営利活動法人 観照ボランティア協会……21
森林・林業に関する普及活動理解促進プログラム／一般社団法人 全国林業改良普及協会……22
地域型バイオマスの熱利用普及、熱需要等調査及び技術研修／特定非営利活動法人 農都会議……23
森林・水の生物多様性及び生態系サービスに関する普及啓発活動／一般社団法人 産業環境管理協会……25
健全な海岸林を将来に残すための啓発活動／公益財団法人 オイスカ……26
初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業／特定非営利活動法人 森づくりフォーラム……27
「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林 ESD）の推進／公益財団法人 Save Earth Foundation……28
森林社会学会創設のための連続講座運営事業／「森づくり政策」市民研究会……29
「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム／一般社団法人 TOBUSA……30
石けんを通して人や水環境を守るための啓蒙活動／石けんビレッジ……31
幼児教育等と森林インストラクターのマッチングシステムに関するフォーラムの開催
／一般社団法人 全国森林レクリエーション協会……32
都市部における若者による森林環境教育の実践／特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク……33
身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう／NPO 法人 くにたち農園の会……34
シンポジウム「グローバル森林新時代―森林減少 ゼロ・SDGs・循環型社会を目指して―」
／「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会……35
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り／一般社団法人 全国森の循環推進協議会……36
命の水を育む銀杏峰を癒しの森に／里山銀杏峰を愛する会……37
奥河口湖の生態系保全と持続可能な観光を体験する親子向け自然観察会
／奥河口湖長崎山さくらの里公園づくり協議会……38
山が育てた命・先人の希望を受け継ぎ、いかそう。／特定非営利活動法人 F.O.P……39
小枝アートづくりで森と木が大好きになるプロジェクト／公益社団法人 静岡県林業会議所……41
梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育プログラム／梨の木里山づくりの会……42
小学校授業での森林体験学習／特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会……43
地域産木材利用促進啓発事業／特定非営利活動法人 京都森林・木材塾……44

木育 森の恵み発信プロジェクト／やまぐに（林業女子会＠京都）……45
森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』
／一般社団法人 森のようちえんどろんこ園……47
森のようちえんがまきおこす「能勢の森の守人を育てるプロジェクト」／きららの森のいえ……48
地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業／NPO 法人 サウンドウッズ……50
森林生態系から考える ESD ワークショップ～憩いの場学校林の活用を通して地域課題を考える～
／奈良教育大学附属中学校……52
森のようちえん×行政と自治体× SDGs ／森のようちえん ウイズ・ナチュラ……53
しまね自然子育てセミナー／森のようちえん全国交流フォーラム in しまね 実行委員会……55
森林を活用したプレーパーク活動／特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら……56
保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進／公益社団法人 島根県緑化推進委員会……57
おかやま木育活動（木工・自然クラフト体験・森林環境学習）／おかやま木育クラブ……58
里山保全の普及啓発事業／ NPO 法人 倭文の郷……59
「とくしま木づかいフェア 2020」の開催／とくしま木づかい県民会議……60
海ギャラ Chill Out ～竜串に東大から遍路小屋が旅して来る～／海ギャラ Chill Out 実行委員会……61
オンライン連続講座「生き物豊かな森づくりを目指して」／ふくおか森づくりネットワーク……62
2017 年九州北部豪雨後の景観づくりによるコミュニティ再生／平榎復興委員会……63
森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ／特定非営利活動法人 森林をつくろう……65
森と水を学ぶ面白塾／九州森林インストラクター会……66
第 25 回九州森林フォーラム in 熊本県小国町～森林を守り、活かすために：市町村による森林行政の可能性と
悩みを共有しよう～／ NPO 法人 九州森林ネットワーク……68
観察会を通じて森への理解を深めよう！／スマイリー……70
産学連携による横断的な森林環境教育／ NPO 法人 こどものけんちくがっこう……71
女性目線の森林セラピー事業／特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク……72
R2 年度森林ボランティアの日活動 in「馬事公苑の森」／鹿児島県森林ボランティア連絡会……74
母子家庭の親子の森林体験パート２／特定非営利活動法人 ひばり倶楽部……75
「守る・楽しむ・創る・育てる」森の体験／特定非営利活動法人 NPO エキスパートバンク……76
元気な森の農山村を育てる事業／特定非営利活動法人 もりびと……77

調査研究

森林 ESD 指導者に求められる教育的力量の可視化と評価及び養成プログラムへの活用に係る実証的研究
／全国社会教育職員養成研究連絡協議会……80
穂木調達も含めた林業用苗木生産工程におけるボトルネックの把握－宮崎県を事例に－
／一般財団法人 林業経済研究所……82
防草麻シートによる防草効果及び敷設功定調査／諸県の下刈りを楽にする会……84

活動基盤整備

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」／学校法人 尚絅学院……86
大学生を対象とした森林環境教育プログラム／特定非営利活動法人 Peace Field Japan……87
「子ども樹木博士」のネットワーク化による森林環境教育の推進／子ども樹木博士認定活動推進協議会……89
安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業／モリダス……90
きのこを育てて森とつながろう！里山と人をつなぐ「鬼無里・原木きのこファンクラブ」
／特定非営利活動法人 まめってぇ鬼無里……91

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川／奈良県森林ボランティア連絡協議会……92
徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議……93
令和２年度　森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク……94
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟……95
子どもリーダー企画の自然体験事業／特定非営利活動法人 たんぽぽ……96

国際交流

気候変動対応と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での森林減少阻止と住民土地権尊重支援の意義を伝えるセミナー実施／熱帯林行動ネットワーク……98

令和元年度・事業期間延長分

普及啓発

「医師と歩く森林セラピーロード」／ International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)……100
初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業／特定非営利活動法人 森づくりフォーラム……101
健康と木材・木造施設を考えるシンポジュウム（仮称）の開催／一般社団法人 木のいえ一番振興協会……102
乳幼児親子のための森でいっぱいあそぼう／ NPO 法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟……103
箕面国有林勝尾寺園地「箕面ふれあいの森」における森林 ESD 促進に向けた実践活動～ガイドマップ作成と環境教育プログラムの実施～／大阪森林インストラクター会……104
森とともに SDGs ／特定非営利活動法人 コアラッチ……106
五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業／特定非営利活動法人 ふくつ子どもステーション すてっぷ……107

調査研究

民有林における森林管理のリスクマネジメントに関する調査研究／筑波大学生命環境系……108
「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証／ Momo 統合医療研究所……110
森のようちえんによる森林環境教育・自然保育の教育効果とその検証／富山福祉短期大学 幼児教育学科……112
「島根の未来の森林の担い手はここに！」作成事業／銀林の恵み林活プロジェクト実行委員会……115
市町村が主導する森林・林業教育の推進体制に関する調査研究／鹿児島大学農学部……116
スマート林業実現のための要素技術開発に関する調査・研究／鹿児島大学 農学部 森林計画学研究室……118

活動基盤整備

「木と森の子育て実践とその支援を担うボランティアの養成事業」／ NPO 法人 木づかい子育てネットワーク……120
ぎふ森 遊びと育ち 交流会／ぎふ森 遊びと育ち ネットワーク……121
「びわ湖の森と自然を活用した保育・幼児教育」基盤整備事業／びわ湖の森のようちえん 滋賀森のようちえんネットワーク……122

芦生をフィールドとした森林環境教育の実施・定着に向けた学社融合型推進体制の構築～由良川流域の小学校での活用をめざして～／一般社団法人 芦生もりびと協会……124

国際交流

連続セミナー「森林減少と地球温暖化・生物多様性」の開催及び温暖化防止に資する森林保全の在り方に関する情報収集／地球・人間環境フォーラム……125

普　及　啓　発

里山で自給生活体験に挑戦

NPO 法人　自然生活体験センター冒険家族
〒044-0077　倶知安町字比羅夫 145-2

1．活動の概要

里山の森林資源を活用し次世代に繋ぐ自給生活体験活動を行う。

先人が残した生活技術や知恵を使い、食材の確保と調理また間伐材で炭作りキノコ作りをします。

2．活動の成果

近くの森に食べられるキノコやウド、アズキナなど自然の食材がある事。

先人たちやアイヌの方たちの採食文化を知る機会となった。

山や森に入るには様々注意する事や危険と隣り合わせであることを知る機会となった・ナイフ・ナタ・ノコ・火・道具の使い方を学ぶことで安全に使えるようになった。

3．参加者の声

『身近な所に食べられる草やきのこ、ブドウがある事にびっくりした。』

『木を伐ったり削ることが怖かったけど、楽しかった。』

『火おこしで白樺の皮がこんなに燃えるなんて知らなかった・・・』

自然から学ぶことが想像以上に多く、子供たち目線は新たな興味発見をする。目的を決めてもズレていく面白さがある。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 6 日	5 月 8 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		秋の森恵：キノコや野草を採り料理して頂く	春の森：雪解けの森で山野草探し火おこし調理して頂く。		8 月 10 日森入門編・10 月 3 日 ,4 日キャンプはコロナにより中止となりました・
参加者数	県　内 計	子ども　9 人 大人　1 人 10 人	4 人 人 4 人	13 人 1 人 14 人	
実　施　場　所		北海道　倶知安町			

青少年への緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟
〒030-0813　青森市松原 1-16-25

1．活動の概要

県内の緑の少幼年団育成強化を図るため、森林公園や地域の里山を活用して、野外教室や木工教室、交流会を実施し、次代を担う青少年の森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意義を学ぶ。また、緑の少幼年団に団服や図書を支給し、さらなる意識の高揚を図る。

2．活動の成果

県内 4 地区 7 箇所で緑の少年団交流集会を開催した。

地域の里山や県民環境林を活用し、参加した子供達が森林の多面的機能や地球温暖化防止等に重要な役割を果たしている事を学び、さらなる緑化意識の高揚を図った。

3．参加者の声

・枝打ちや間伐体験をして林業の大変さを知った。
・山で鹿の被害が多いことを学んだ。
・山の木をどのようにして搬出されるか学んだ。
・木の種類や葉っぱについて学習した。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 27 日～ 8 月 27 日	9 月 6 日	11 月 3 日～ 11 月 15 日	計	備考
事業量	箇　所	4 箇所	1 箇所	2 箇所	7 箇所	
参加者数	県　内 計	51 人 51 人	35 人 35 人	62 人 62 人	148 人 148 人	
実　施　場　所		青森県　今別町・三戸町・新郷村・弘前市・むつ市・青森市				

眺望山自然休養林を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会
〒038-0002　青森県青森市沖館 3-2-17

１．活動の概要

青森市郊外にある眺望山自然休養林を活用して、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について地域市民、小学校児童を対象に森林セラピー体験活動を実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに役立てることを目的に実施した。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨーガ講師、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市森林博物館においてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで眺望山自然休養林西口コース一入り口に移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐし出発。山頂までの１．５時間、途中、せせらぎでマイナスイオンを浴びながら水の流れに耳を澄まし、青森ヒバに囲まれてマットに寝ころび瞑想をするなどでリラックスしながら山頂着。山頂広場ではヨーガ講師による指導でしばしの間深呼吸や心身のリフレッシュ。途中、ヒノキ、カラマツ人工林について森林インストラクターが説明。昼食休憩後、東口コースを森林インストラクターによる青森ヒバ当についての説明を解説を挟みながら下山。

バスで森林博物館に戻った後、森林浴後の血圧測定、ストレス度チェックを実施するとともにクロモジ茶を味わいながら森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

なお、今回の体験会開催に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、案内や当日の対応としてマスクの着用、手指の消毒、除菌シートの活用のほか、スタッフのフェースシールド着用、３密、近接の注意等について徹底した。

２．活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は３回目であるが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨーガ講師及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピストによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンド助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

参加者からは「大変楽しかった。次回も是非参加したい。」等の感想が多く寄せられた。

３．参加者の声

参加者からは「大自然の中でのヨガ体験等とても有意義。山肌に寝ころび、木々の遊技を感じ取れるサイレントな時間が最高。五感が癒された。青森ヒバを知る。(少年団員)ヨーガが良かった。山頂でのお弁当がおいしかった。自然のことをたくさん知った。」等の感想が寄せられた。

実績報告取りまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業内容	ストレス度チェックを取り入れた森林浴	9 月 6 日		1 日のみの実施
参加者数	県　内	22 人	22 人	
	県　外	0 人	0 人	
	計	22 人	22 人	
実　施　場　所		青森県　青森市　青森市森林博物館、眺望山自然休養林		

里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～

岩手県立大野高等学校
〒028-8802　岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

１．活動の概要

自然環境の復活や保全をとおして、青少年を対象に森林環境教育を促進することを目的としている。全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが発生しやすい里山の環境づくりを進め、秋の収穫を目指しながら、環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約１５ｋｍに位置する久慈平岳（標高 706.3m）の山麓に広がる約１ｈａの里山を地元の方から借り受け、外部の指導者の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて１７年目（準備段階１年を含む）となる。

また、整備で生じた間伐材を有効活用して栽培したシイタケ・ナメコの管理・収穫をとおして、持続可能な環境教育を継続した。

２．活動の成果

里山整備に取り組むことにより、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考えることができた。また、地域の活性化や未来についても考える機会となった。

地域住民との協働から、地域社会の一員であることを自覚し、郷土愛が喚起されるとともに、自己有用感を育むことができた。

３．参加者の声

「初めてマツタケを採れた。落ち葉や木の枝を拾い、育ちやすいように努力した甲斐があった。」
「里山整備は急斜面と力作業で大変だったが丁寧に取り組んだ。秋の収穫を期待している」
「里山は、自然に任せながらも、人が手入れすることで維持されていくことが分かった。」

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 2 日	11 月 13 日	6 月 19 日	6 月 29 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		収穫祭 (マツタケ狩り)	ナメコ収穫	里山事前 整備 (PTA 参加)	里山整備 (全校参加)		
参加者数	県　内 県　外 計	95 人 人 95 人	20 人 人 20 人	8 人 人 8 人	85 人 人 85 人	208 人 人 208 人	
実　施　場　所		岩手県　洋野町					

森・人・地域　再生シンポジウム in 遠野 2020

特定非営利活動法人　遠野エコネット
〒029-0661　岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛 19-530

1．活動の概要

薄れてしまった山主を含めた多くの市民の森林への関心を高め、林業や木材産業を地域再生の柱とすることを目的に、8 月 29 日（土）にシンポジウムを開催し、東北各地から 131 名が参加。森林ジャーナリストの田中淳夫氏と東北大学名誉教授の清和研二氏が講演、岩手大学教授の真坂一彦氏も加わりパネルディスカッションも行った。8 月 30 日（日）には、フィールドワーク「持続可能な森づくり」も開催し、28 名が参加した。

2．活動の成果

講演では、林業における問題点と目指すべき森づくりについて理解を深めた。またパネルディスカッションでは、林業や森づくりの課題を解決するために議論を行い、未来の目指すべき森づくりについて参加者と共有できた。また、翌日のフィールドワークでは、森林の調査を行い、その後テーブルを囲んで持続可能な森づくりの検討ができた。このシンポジウムをきっかけとして、東北の豊かな森づくりのネットワーク構築を図りたい。

3．参加者の声

林業から森林業へという考え方に共鳴。これからの山づくりへの示唆があった。森からの恵みを利用しながら森を維持していく社会の仕組みができたらいい。（大船渡市・60 代男性）/ それぞれが異なる立場から今後の森林のあり方について検討されていて、一度に多様な考え方を知ることができバランスが良かったし、大変勉強になった。（仙台市・20 代女性）/ 森林づくりには、森林生態学が深く関わっていることが具体的な事例で分かりやすく説明してもらえた。（盛岡市・60 代男性）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 29 日	8 月 30 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森・人・地域　再生シンポジウム in 遠野 2020 第 1 部講演、第 2 部パネルディスカッション	森・人・地域　再生シンポジウム in 遠野 2020 第 3 部フィールドワーク・ワークショップ		
参加者数	県　内 県　外 計	118 人 13 人 131 人	19 人 9 人 28 人	137 人 22 人 159 人	
実　施　場　所		岩手県　遠野市　あえりあ遠野交流ホール及び市内山林他			

体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～

特定非営利活動法人　水守の郷・七ケ宿
〒989-0532　宮城県刈田郡七ケ宿町字根添 26-1

1．活動の概要

宮城県民 183 万人の水瓶七ヶ宿湖を有する七ヶ宿町の当法人が管理する山林 1.6ha 並びに七ヶ宿湖をフィールドに地域の四季の素材を活かしたプログラムを開発し、毎月第 3 日曜日通年で森林体験学習を実施した。森は持続可能な資源であり温暖化ガスの吸収源でもある。また水源酒養、土砂等の流出防止、生物多様性の保全など多様な生態系サービスを提供してくれる。自然と共に山がっこも進化を重ね今年度も四季の森を生かしたプログラムを改編し、地域の旬と食文化を交えながら参加者自らが主体的に活動を行えるよう事前準備に力を入れた。野外炊飯では森のエネルギーを利用し火を上手に使うことにより災害時のスキルアップにつながるよう指導した。今年度は 3 月に宮城県が COVID19 の感染拡大により緊急事態宣言を受け自粛要請に従い山がっこを中止した。感染防止対策を順守するという趣旨のお手紙を子供たちにお手紙として提出してもらうことでスタッフ合意が得られた為密を避け、家族単位でプログラムを実施するという形で 4A より再開した。想定外の感染拡大となった COVID19 は終息に向かうことなく今年度も予定していた回数を実施することは出来なかったが、With コロナでの森林体験活動が見えてきた一年となった。

2．活動の成果

With コロナで 4 家族限定とした森林体験活動。この一年でスタッフそれぞれがやりべきことを理解し主体的に動くようになり毎回スムーズに事業を実施することが出来た。参加者も常連化することなくロコミで広がりを見せ、新鮮に活動を行うことが出来た。また参加者同士も密を避けた中でコミュニケーションをとり子供たちは一日だけのお友達と仲良く作業出来ていた。これまでにとらわれずという SDGS の理念を受けて常に考え続け変化しながら新しい様式の「山がっこ」は進化を続けている。

専属のスタッフが付いて個別にメニューを進めていくことで参加者はじっくりとそれぞれのペースで活動が出来るようになったと感じている。

3．参加者の声

・すごいなあ森にはいろんな生き物がいるんだね
・秋に来た時には茶色かったところが一面緑色になっててびっくりしました。
・家では食べ物の好き嫌いがあって野菜を食べないのにここに来たら「美味しい」ってもくもく食べるのが不思議です。
・森にはいろんな木があるけれど一番大きな木（櫨の木）は根っこが太くて地面から盛り上がっていてすごい力強い感じがした。
・杉の木を切って倒したときの大きな音にびっくりした。そのあとみんなで杉の皮をむいて椅子にした。皮をむくと杉ってツルツルしていてとってもきれいだった。

実績報告とりまとめ表

月　日	事業内容	参加者	月　日	事業内容	参加者
7 月 19 日	間伐体験、杉苗の林床整備	22 人	1 月 17 目	餅つき体験、凧作り凧揚げ	21 人
8 月 16 日	親水体験、沢登り	14 人	2 月 21 日	笹刈り、笹小屋作り	24 人
9月22、23日	森の音楽祭	185 人	4 月 18 日	自分の木を見つけよう、竹飯盒	17 人
10 月 18 日	木の実を食べる、草木染め	22 人	5 月 16 日	熊佐々刈り、笹巻づくり	16 人
11 月 15 日	ツリークライミング、植菌	38 人	6 月 20 日	飯盒でパン、杉苗の林床整備	21 人
12 月 20 日	鎌倉作り、きりたんぽ鍋	15 人	参加者	県内合計	395 人

自然にふれよう　山のがっこう

特定非営利活動法人　SCR
〒981-3341　宮城県富谷市成田 7-23-21

1．活動の概要

・目的　山の日を記念し、地元の森林公園のウォーキングコースの道標を間伐材を使い製作し設置などの森林づくりを行う。参加者が森林を身近に感じてもらい、山に感謝する一日にすることを目的とする。
・内容　森林教室・森の案内板製作と設置、公園内の散策と観察、記念の餅まき。

2．活動の成果

・地域の自然豊かな環境を知り、活用するとともに、家族で山の恵みに感謝する活動につながった。
・資源の杉を使った案内板製作体験は、森林資源有効利用と、地球環境に負荷をかけない「持続可能な再生資源活動」になり、森を知り、森林環境に興味をもつこともできた。
・大亀山森林公園を活用することで、自然環境について興味をもつ場をこれからも継続していきたい。

3．参加者の声

・コロナ禍で、実家に帰省することもできず、子どもの夏休みの良い思い出となった。
・大亀森林公園の事がわかり、これからも出かけて森を大切にしていきたい。
・おやつ、富谷の水にお餅と細やかな配慮、お楽しみを入れてくれてとても楽しむ事ができた
・暑い日でしたが、体操も気持ちよかった。
・スタッフが優しかった。

績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 10 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然にふれよう 山のがっこう	森林教室 案内板製作 森の観察 案内板設置		
参加者数	県　内 県　外 計	48 人 0 人 48 人	48 人 0 人 48 人	
実　施　場　所		宮城県　富谷市		

仮称「日本の森林の未来は森林活用・木材利用にある」

特定非営利活動法人　森林との共生を考える会
〒982-0834　仙台市太白区青山 2-28-27

1．活動の概要

2011 年の東北地方を襲った、東日本大震災から 10 年が過ぎ、復興は進みましたが、人の暮らしから森林や木を身近に感じる暮らしから遠い状況が続いているのではないかと感じました。

その状況が続いた中で、登山やきれいな風景としての山は人々の心を癒してくれていましたが、森林利用や木材利用は依然としてあまり語られていませんでした。

そこで当会の理念として掲げている多くの人々に森林や木材利用のことを伝える活動をしようということでフォーラムを開催することとした。

企画をし申請を出した後にコロナウイルスの感染が広がり、どうしたら開催の主旨を多くの人々に伝えることが出来るかを考え、会場はなるべく多くの人が往来する場所とし、パンフレットもフォーラムに参加できない人にも森林利用や木材利用をわかっていただくものを作ることに心がけた。

2．活動の成果

・コロナ禍の中での開催であったが、開催した会場は広く、人の往来のある場所を一部区切って行われる会場で、会場内に入らない人にも興味をもってもらうことが出来た。
・パンフレットとして作成した冊子を事前に会場 2 か所に置いたが、フォーラム開催時にはすべてなくなっていた。また冊子は東北の森林や木材の研究機関や全国の森林関連機関に郵送または宅急便で送った。冊子は会場に来れない人にも、森林利用や木材利用について十分伝わる内容で有ったと思う。

3．参加者の声

・クオリティの高いフォーラムでした。
・森林・林業のこともわからない人にも理解できる内容でした。
・パンフレットは素晴らしく旅行業界の冊子よりきれいで、よくできている。^
・良くできた冊子であるまた、きれいな出来栄えであるなど多くの感想を寄せていただいた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	フォーラム	5 月 29 日		
参加者数	県　内 県　外 計	42 人 5 人 47 人	42 人 5 人 47 人	
実　施　場　所		宮城県　仙台市　青葉区		

フォレストサポート・2020

ガールスカウト　山形県連盟
〒990-0031　山形県山形市十日町 1-6-6
山形県保健福祉センター 4F

1．活動の概要

目的：2015 年に植樹をした「ガールスカウトの森」の下刈りなどの手入れをし、森をささえてそだてる森づくりに取組む。また、森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深める。

内容：育樹活動（葛の根駆除・下刈り・補植）
森林体験学習（バードウォッチング・きのこの収穫・森のクラフト：紙すきでハガキつくり）

2．活動の成果

・森づくり活動（下刈り・葛の駆除）により地域の里山保全に寄与出来た。
・育樹活動を通して「育樹」の大切さを学び、「美しい豊な自然」を守るために、地球規模での環境問題に関心を持つともに、環境保全に寄与する態度を養うことができた。
・一昨年、昨年と菌打ちしたきのこが今年は大収穫で大喜び！また、森には沢山の鳥、動物が住んでいる事を知り、自然を大切にする気持ちが一層育まれ、子どもたちの健全な成長に寄与できた。
・ライブな活動（森林体験学習）では鳥の声を聞き分け、きのこや自然の物に触れ五感が、そして“ケナフ”を使ってのクラフトでは感性が養われた。
・一般参加者と協働した事によって、会員はもとより一般参加者の皆様にも、自然体験の意義・大切さを理解していただいた。とともに「森づくり」への関心を促すことに寄与できた。
・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、木が育つまで継続していきたい。

3．参加者の声

・葛の根は固かったけど二人で協力してやったのでよかった。（小低学年）
・なめこはぬるぬるしていておどろきました。（小低学年）
・紙すきでハガキ作りは、わからないところは教えあってできた。国語の授業で“伝統工芸”を勉強していて丁度よかった。なかなかできない体験をして誇らしかった。（小高学年）
・カエルやカナヘビを見つけられて楽しかった（小高学年）
・森には何十種類もの鳥が住んでいる。耳を澄ますと色々な鳴き声が聞こえてきた。（中学生）
・5 年目になる活動に参加でき良かった。5 年前と木々が成長したのは勿論のこと、自分自身も成長したと思う。ガールスカウトの森が、多くの人々の成長を見守る森になってほしい（高校生）
・目を閉じて感じた鳥の声がステキだった。3 ～ 4 種類聞き分けることができた（成人）
・作業をしたことによって、なめこの成長や森の恵みに感謝する気持ちが芽生えた。（成人）
・コロナ禍で外出もままならない中、山でのびのびと活動ができた。この体験学習が自然に興味をもつきっかけになればいいなと思った。（一般参加者）
・継続していくことで、森への親しみを感じていくのではないかと思う（成人）

実績報告とりまとめ

実施時期		8/7 10/1 11/2	10/26 10/30	11 月 8 日		11/28	令和 3 年 1/26	計	備考
事業量又は事業内容		事前準備	現地踏査	＜育樹活動＞ ・葛の根駆除 ・下刈り	＜森林体験学＞ ・バードウォッチング ・きのこの収穫 ・森のクラフト	捕植活動 カツラ：4 本 山栗：6 本	報告書整理		
参加者数	県内 県外 計	8 人 0 人 8 人	8 人 0 人 8 人	92 人 0 人 92 人		5 人 0 人 5 人	8 人 0 人 8 人	121 人 0 人 121 人	
実施場所		山形市　蔵王みはらしの丘地内（ガールスカウトの森） 山形市立みはらしの丘小学校多目的ホール							

地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業

特定非営利活動法人　やみぞの森
〒310-0011　茨城県水戸市三の丸 1-3-2
茨城県林業会館 4F

1．活動の概要

(1) ＤＩＹ塾：地域に根ざした木工技術の普及拡大を図るため、県産のヒノキ間伐材を利用して、専門技術指導者の下で一般に向け毎月 1 回、年間 12 回のＤＩＹ塾を開催し、家具づくりなどを支援した。

(2) 小冊子制作：森林の役割や森を生かす様々な活動を紹介することにより、環境意識の啓発と木材利用の普及促進を図る小冊子を制作し、イベント会場やＤＭで多方面へ配付した。

(3) 広報誌発行：森林環境保全のため実施している活動の情報発信を目的とした広報誌（ニュースペーパー）を発行し、Web 上にも公開した。

2．活動の成果

(1) 木工技術の習得のため、専門技術者より基本から順序を踏んで指導を受けた結果、参加者全員がテーブル、小椅子、棚などを自力で作れるまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。

(2) 小冊子等の印刷物や Web 配信など、さまざまなアプローチによる情報発信は、一般の方の森林環境に対する理解を深め、環境教育としての効果も期待できる。

3．参加者の声

・DIY は初めてだったが、現役の専門技術者が丁寧に指導してくれて安心して参加できた。
・DIY 塾で自宅の居間用に作ったテーブルは、家族にも大好評で自慢の作品である。
・森林保全の活動全体が分かりやすくまとめられた冊子は、子どもの環境学習にも使える。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7/1 ～ 6/30	5/1 ～ 6/30	3/1 ～ 3/20	計	備考
事業量 又は 事業内容		DIY 塾 ・毎月第 2 日曜日 ・9:00 ～ 15:00 ・年間 12 回実施	冊子制作 ・企画構成 ・文案 ・デザイン ・入稿、印刷	広報誌制作 ・企画構成 ・入稿 ・印刷 ・配付		
参加者数	県　内 県　外 計	136 人 12 人 148 人	33 人 0 人 33 人	8 人 0 人 8 人	177 人 12 人 189 人	
実　施　場　所		茨城県　笠間市、水戸市、つくば市				

森はともだち　楽しくまなぼう　森友　楽校

ぐんま森林インストラクター会
〒371-0846　群馬県前橋市元総社町 739-5

1．活動の概要

森林教室・自然観察会、森づくり体験、ゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

2．活動の成果

自然観察等をすることにより自然のすばらしさを実感し、その維持、保全の必要性を認識した。森林整備などの実作業を取り入れ、幅広い森林環境教育を行なう。

3．参加者の声

・樹木や草花などの名前、特徴を学ぶことができ、たいへん勉強になりました。
・樹木が発する揮発性物質･フトンチッドが人間の体に良いことなど、自然の中で活動する効用や、その自然を保護する必要性を実感しました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2年7月18日	8月29日	9月26日	10月10日	3年1月30日	2月13日	5月8日	5月23日	6月5日	6月26日	計	備考
事業量													
参加者数	県内 県外 計	新型コロナのため中止	新型コロナのため中止	9人 0人 9人	荒天中止	15人 0人 15人	19人 0人 19人	25人 0人 25人	新型コロナのため中止	13人 0人 13人	28人 0人 28人	109人 0人 109人	
実施場所 群馬県		尾瀬・尾瀬沼	榛名富士	谷川岳山麓	玉原高原	前橋市嶺公園	草津町天狗山	赤城山	サンデン	玉原高原	伊香保		

ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティアの育成

倉渕ヤマアジサイの会
〒370-0886　群馬県高崎市下大島町 36-2

1．活動の概要

ヤマアジサイの森の調査をすることで、山のボランティアを育成することを目的としました。

9 月はヤマアジサイの花のない季節ですが、山では虫も少なくなるのでボランティア活動に参加するにはよい季節です。まず、会場で講師からボランティア活動等の話を聞いてもらいました。それから森に行き参加者を二班に分けて、別のルートを歩いて調査をしてもらいました。

今回は初めてなので、わかりやすいツルアジサイ、イワガラミ、タマアジサイとヤマアジサイの数を数えてもらいました。

昼食は、はまゆう山荘名物の海軍カレーを食べました。

昼食後、お楽しみとしてボッチャとアジサイのしおりづくりをしました。

2．活動の成果

今回は子どもや高齢者も参加していましたので、アジサイの数を数える調査は負担のないボランティア活動となりました。今後のデータとして活用できるので、今後もこのような活動を実施していきたいと思います。

3．参加者の声

・楽しかったので、また参加させて下い。
・花の時期に参加させてください。
・季節の花が見られたので良かった。
・いろいろな人が参加していて話ができてよかった。
・森がきれいだったので歩きやすかった。
・アジサイの仲間でツルのものがあるので驚いた。
・もう少し森の調査の時間を取ってもよかったと思う。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森の調査とボランティア育成	9 月 19 日		
参加者数	県　内 県　外 計	50 人 人 50 人	50 人 人 50 人	
実　施　場　所		群馬県　高崎市		

「生物多様性のある里山の森づくり」

埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会
〒330-0064　埼玉県さいたま市浦和区岸町3-8-45
埼玉県立浦和第一女子高等学校内

１．活動の概要

・同窓生から現役高校生まで世代を超えて自然を学び、うっそうとした里山を整備、再生する。さらに専門家の指導の下、地域本来の植生を取り戻し、地域の人々に憩いの場を提供する事を目的とする。
・下草刈り、除伐、間伐等の森林整備を行い、現地に自生する絶滅危惧種・準絶滅危惧種である植物を保護。間伐した木材を活用して、コースター等を作成、配布し、森林活動の展示と合わせ、自然環境への関心を高める。
・森のパンフレットを作成・活用し、現地及び現地周辺地域への興味を促す。

２．活動の成果

・紫陽花の剪定を行う事で、毎年相当量の花を咲かせ、森を訪れる人の憩いの場となっている。
・台風や昨今の突発的な豪雨等の被害による枯損木を適切に処理する事で、敷地内の整備活動の際や近隣の山々を含めた散策をする方々が安全に滞在する事が出来るようになった。
・コロナ禍に於いて、なかなか現地で現役高校生等大勢と共に作業が出来ない中、少人数で行う作業風景や現地の様子を母校展示コーナーで紹介したり、森のパンフレットを配布することにより、多くの方に関心をもってもらえた。

３．参加者の声

・いつ来ても爽やかな空気を感じられる居心地の良い森で癒される。（４０代活動参加者）
・倒木や、倒れそうな危険など定期的に整備されていて、安全に過ごせる場所だと思う。（５０代活動参加者）
・近隣の散策の最中にたまたま通りかかったけれど、鬱蒼とした周辺に比べて見晴らしがよく、風通しもよく、さわやかに青空も見え、一休みしたくなる場所で驚いた。（６０代散策していた方）
・活動中に見知らぬ人が通りかかり挨拶を交わす事が出来て居心地の良い場所を作れている意義を感じられた。（６０代活動参加者）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和２年 ７月 24 日	令和３年 ７月 10 日	令和３年 10 月 18 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		林内整備活動	林内整備活動 及び 樹名板の確認	枯損木の選別 及び農林公社様 との打ち合わせ		
参加者数	県　内 県　外 計	10 人 ―人 10 人	6 人 ―人 6 人	5 人 ―人 5 人	21 人 ―人 21 人	
実　施　場　所		埼玉県　寄居町				

子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第５回）

特定非営利活動法人　観照ボランティア協会
〒270-1132　千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

１．活動の概要

７月 10 日（土曜日）、11 日（日曜日）、環境先進国北欧で開発されたメソッドにより、子どもたちに森林及び持続可能な環境の重要性をわかりやすく伝えられる人材養成を目的とした環境教育「リーダー養成講座」を開催。開催場所は自然豊かな新宿御苑で、講師は森のムッレ教室リーダーであり、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の２人が担当。

今回の講座は「自然の中での子どもの成長」テーマに、「森のようちえん」園長の葭田昭子氏の特別講演より開始。

リーダー養成講座は１日目に新宿御苑でのフィールドワーク、２日目は受講生によるグループワーク、またレクチャールームで１日目には「自然活動と子どもの成長」、２日目には「なぜ野外教育なのか、スエーデンの野外教育から学ぶ」の講義を実施した。

２．活動の成果

コロナまん延防止期間だったが、管轄の環境省より少人数での実施することとの条件付きで利用許可が得られ、自然豊かなで最適なフィールの新宿御苑で開催することができた。

１日目は新宿御苑の樹木、草花を観察、自然の仕組み（水の循環、生態系ピラミッド）の子どもたちへの伝え方を実施。２日目はフィールドで２つのチームより、光合成、物質循環をテーマにパフォーマンス行ったが、子どもに伝えようとするアイディアと工夫に満ちていた。

３．参加者の声

参加者全員から「大変良かった」との評価を得た。五感を使った体験ができ、心が動く時間と学びになりました。スエーデンなど北欧の保育を、自分の仕事（保育士）にどう取り入れようか考えながら学びことができた。いのちの循環のパフォーマンスを通して、感じたことを子どもたに伝えていこうと思えたなどの感想が寄せられ、今後環境リーダーとして子どもたちへ伝えていくことは十分に期待できる。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 10 日	7 月 11 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		レクチャールームでの自然の中での子どもの成長をテーマに特別講演を実施。講座は新宿御苑での自然観察及びレクチャールームで自然活動と子どもの成長を講義	レクチャールームでなぜ野外教育なのか、スエーデンの野外教育から学ぶ」テーマに講義。午後には新宿御苑で受講生によるパフォーマンスを実施。		
参加者数	県　内 県　外 計	8 人 4 人 12 人	8 人 4 人 12 人	16 人 8 人 24 人	
実　施　場　所		東京都　新宿区			

森林・林業に関する普及活動理解促進プログラム

一般社団法人　全国林業改良普及協会
〒107-0052　東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

1．活動の概要

インターネット配信により林業関係者を含む国民各層による森林整備の推進に向けて、森林所有者、市民等に対する普及啓発活動の効果的な実施を促進する講演を行い、森林整備等の重要性など、広く国民の理解が得られるようにする。

2．活動の成果

全国一律に影響を受けた訳ではなく、地域や産業差もあった。森林・林業・木材産業の活性化と森林整備の推進は、各層産業と森林所有者のみならず、広く国民の理解が必要であることが確認されるとともに林業業界を取り巻く課題の解決に繋がることが大いに期待できた。

普及活動事例として、森林と中山間地域をテーマに優良取組事例の発表があり、全国各地の中山間地域で実施可能であり、中小企業の活性化が担い手労働人口の確保につながり、森林整備の推進に大きく貢献すると期待できた。

インターネット利用したオープンプログラムを拡充、実施したことで、これまで以上に森林、林業並びに森林整備の推進に対して、広く国民の理解が得られることが期待される。

3．参加者の声

・森林・林業・木材産業の発展と、それを支えるためには森林整備が必要だと感じた。
・中山間地域では中小企業しかなく、全国各地で同様の取り組みができる。
・中山間地域の活性化が、地域経済に必要だと痛感した。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	無料動画配信サイト (Youtube)	2020/9/14 に登録		
参加者数	計	226 回再生 (7 月 30 日)	226 回再生	
実　施　場　所		インターネット配信		

地域型バイオマスの熱利用普及、熱需要等調査及び技術研修

特定非営利活動法人　農都会議
〒105-0013　東京都港区浜松町 2-2-15

1．活動の概要

（活動の目的）

地域材の有効活用となるバイオマスのエネルギー利用を図るため、地域の熱需要とバイオマス熱利用例を調査し、熱利用技術の研修と、熱利用を啓発するシンポジウム等を実施。

（事業実施状況）

①『バイオマス熱利用の理論と実践』出版記念講演会でバイオマス熱利用技術の啓発を行う。

②地域型バイオマスフォーラム第 2 回で全国へ向けて化石燃料と木質バイオマス燃料の違いを啓発、政策提言等公表、熱利用形態の調査実施。

③久慈市出前講座と熱利用施設見学でバイオマス熱利用技術の普及と人材研修、熱利用調査実施。

④オープンセミナーでバイオマス普及の課題を整理し熱利用拡大を訴え続けていくことを確認。

2．活動の成果

バイオマス熱利用の課題が明確になり、新技術の普及を幅広い層に向けて情報発信できた。木質バイオマス熱利用の技術・理論の整理はできたが、課題は優良事例の基準を浸透させ、広く普及していくこと。今後も WEB セミナーや地方セミナーを着実に継続したい。

3．参加者の声

⑴古くて新しい未利用エネルギーという日本の再エネ普及拡大の切り札として、地球温暖化を逆手に取り普及させて頂きたい。

⑵是非、熱利用ロードマップの策定を実現して下さい。

⑶バイオマス熱利用の導入後失敗事例集を作成して頂きたい。

⑷一番のネックは安価な燃料の安定供給と考えていたが、仕組み全体がうまくいっていない現状を理解。

⑸コンサルを行ってまして悩ましいのは機材の単価と燃料単価です。国産機器を開発し、事業促進を図ってほしい。

⑹当市ではバイオマス発電に伴う排気熱を利用し、更に付加価値をつけるためにはどうすれば良いかを模索している。発電事業は地域の未利用材や製材所の端材や樹皮等、本来廃棄や林地残材として扱われる物を無駄なく使い切る取組をすることで地域の付加価値向上を目的としており、FIT 制度終了後も継続して発電事業を実施したいと考えている。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業内容	出版記念講演会	10 月 15 日			
参加者数	都　内 都　外 計	約 30 人 約 43 人 73 人	人 人 人	約 30 人 約 43 人 73 人	
実　施　場　所		東京都　千代田区			
実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業内容	地域型バイオマスフォーラム第 2 回	2 月 15 日			
参加者数	オンライン参加計	401 人	人	401 人	
実　施　場　所		Zoom によるオンライン開催			
実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業内容	久慈市出前講座	4 月 8 日	4 月 9 日		
参加者数	県　内 県　外 計	13 人 13 人 26 人	5 人 8 人 13 人	18 人 21 人 39 人	
実　施　場　所		岩手県　久慈市			
実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業内容	オープンセミナー	4 月 23 日			
参加者数	オンライン参加計	95 人	人	95 人	
実　施　場　所		Zoom によるオンライン開催			
実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業内容	反省会	6 月 30 日			
参加者数	オンライン参加計	4 人	人	4 人	
実　施　場　所		Zoom によるオンライン開催			

森林・水の生物多様性及び生態系サービスに関する普及啓発活動

一般社団法人　産業環境管理協会
〒101-0044　東京都千代田区鍛冶町 2-2-1

1．活動の概要

今年 10 月に開催が延期された COP15（生物多様性枠組条約第 15 回締約国会議）で合意されるポスト 2020 年目標への関心の高まりや、森林や水は SDGs の目標に掲げられていることを踏まえ、森林・水の生物多様性及び生態系サービスをテーマにシンポジウムを開催しました。参加者からの質問を受け付け、双方向型で開催しました。

コロナ禍であり感染対策を十分行っての開催としましたが、緊急事態宣言期間の延長により直前で来場を控える参加者がいるなど実施面で苦慮しましたが、参加者の満足度は高いという結果でした。Zoom を併用したことから、北海道、四国など全国各地から参加がありました。

2．活動の成果

オンライン参加者にも資料を送付しており、所属組織（企業や自治体等）内で資料・情報の共有が期待され、多くの方々に SDGs と森林・水等を結び付けた取り組みの参考にしてもらえるなど、普及面での効果が期待できる結果となりました。

今後シンポジウムで取りあげてほしいテーマは「生物多様性」、「再生可能エネルギー（木質バイオマスなど)」、「海洋プラスチックごみ」、「企業の森などの森林を活用した活動事例」との回答が多く、幅広いテーマに関心があることが分かりました。情報等を継続して提供していくための普及啓発活動の必要性を強く認識しました。

3．参加者の声

参加者へのアンケートを実施しましたが、96%が「大変よかった・よかった」と回答しており、参加者にとっても有益なシンポジウムであったことがうかがえます。

「森林の役割がよく理解できた」、「とても分かりやすく興味深い内容であった」、「新鮮な情報も得られて満足」、「自社での取り組みの参考になる」といった感想が多数あり、地域や企業などで森林保全や森林の活用、さらには SDGs の目標達成のための活動に役立ててもらえることが期待できます。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		6 月 11 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム開催		
参加者数	県　内 県　外 計	39 人 68 人 107 人	39 人 68 人 107 人	
実　施　場　所		東京都　港区／ Zoom		

健全な海岸林を将来に残すための啓発活動

公益財団法人　オイスカ
〒168-0063　東京都杉並区和泉 2-17-5

1．活動の概要

東日本大震災直後からの名取市の海岸林復旧は育林途上にある。津波から 11 年が経過し、震災の記憶が薄れつつあるが、一方で、自然災害が大規模化、多発化する中で日本全国の沿岸地域において、宮城県をはじめ全国での活動報告会、プロジェクトの進捗報告書の配布、パネル展、看板を通じ、海岸林が防災・減災に果たす役割を訴求した。

コロナ禍のため､対面式の活動報告会の企画､実施が難しく､大阪での 1 回の実施にとどまったが、98 人の参加があった。プロジェクト進捗報告書や記録誌を作成し、支援者へのお礼を伝えるとともに、全国の支援者に送付。また、パネル展示では、イラストなどを用い、見やすさ分かりやすさへの工夫を凝らし、プロジェクトの進捗状況のみならず、防災・減災に果たす役割についても伝えた。植栽地に隣接する公園内への啓発用看板の設置では、未就学児が多く訪れる公園の設計となっていることから、イラストを用い、海岸林が果たす役割についてわかりやすく表現した。

2．活動の成果

海岸防災林が地域に育まれ、守られていくためには、その重要性が市民に認識されていることが求められる。報告会の実施､進捗報告書､プロジェクト記録誌の作成､パネル展示を重ねたことで、重要性を広く訴求する事ができ、全国の海岸林への関心を高めることができた。また、高校生を中心に、若い世代にも海岸林を地域で守り育てていかなければならないという気運も生まれている。名取市の植栽現場でのボランティア活動の受入れを継続し、知識のみではない体験を伴う活動として将来の海岸林保全につなげていきたい。

3．参加者の声

(参加者からいただいた質問と感想)

・育林途上で間伐を実施するのであれば最初から本数を減らして植えられるのではないか？
・海沿いのにぎわいを取り戻し、若い世代に繋げていくため、地元のＮＰＯと連携しながら小学校の遠足の機会を活用してゴミ拾いをするなど、教育と連携してはどうだろうか？
・植栽地でクロマツの活着率を高めるためにどのような工夫をしているのか？
・そもそもなぜクロマツを植栽するのか、他の樹種ではダメなのか？
・海岸林が 50 年 100 年先まで維持管理されていくためには、この 10 年どのような施策を考えているのか？また、間伐材を使ったグッズやチップの生産販売など、この場所でお金を生むようにしていかなければ維持管理できないのではないか？
・津波災害だけでなく、自然災害の発生後、どのように地域を再生していくのかにつながる話のように思う

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		R3 年 9 月 18 日	備考
事業量 又は 事業内容	報告会	@大阪市	
参加者数	県　内 県　外 計	98 人 人 98 人	参加者：一般市民、プロジェクト支援企業・団体担当者、個人支援者など
実　施　場　所		大阪府　大阪市	

初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業

特定非営利活動法人　森づくりフォーラム
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-25-14
第一ライトビル 405 号

1．活動の概要

森づくり体験を通して森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり活動への新規参加者の促進と指導者の育成等の活動団体の支援を図るため、東京都の西多摩地域で活動する 8 つの森づくり団体と協力し、「初心者のための森づくり体験会 2021」を計 8 回開催した。当初、2021 年 3 月～ 6 月に 8 つのプログラムを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を受けて 5 つのプログラムを中止とし、緊急事態宣言下とならなかった日程の 3 プログラムのみ開催した。それぞれの団体のフィールドや特徴を活かし、間伐体験、竹林整備、自然観察クラフトづくりなどの森林体験を行った。

2．活動の成果

第 4 弾となる森づくり体験会であったが、緊急事態宣言発令を受けて半数以上を中止とする判断となった。広報に関しては、チラシを 2 回に分けて作成し、都内の図書館や森林・ボランティア関係施設等に送付、ほか、Facebook やメルマガ、情報掲載サイト等での発信も強化し、実施後は Facebook 等で報告を行った。中止となった回においても、企画準備段階において団体と連絡を取り合いながら、新型コロナウイルス感染対策についての情報共有や、プログラム開催の認識共有を行った。

結果として 3 回のみの開催となったが、参加者アンケートからは満足度の高い結果が得られた。参加者の年代も、小学生～ 60 代までと幅広く、親子連れや学生、社会人と多様な参加者が集まり、次世代につながるイベントになったと感じる。今後も森づくり体験会を継続し、森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり団体の支援につながる事業を実施していきたい。

3．参加者の声

森づくり体験会参加者からは、初心者でも安心できた、初めての体験で学びが多かった、疲れたが楽しかった、受け入れスタッフが優しかったなど、とても前向きな意見が多かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2021 年 4 月～ 6 月		計	備考
事業量 又は 事業内容		初心者のための森づくり体験会 2021 ～春の森・初夏の森～計 3 回	中止会の申し込み人数（参考）		緊急事態宣言発令により、5 回延期および中止
参加者数	都　内 都　外 計	26 人 8 人 34 人	(85 人) (16 人) (121 人)	26 人 8 人 34 人	
実　施　場　所		東京都　西多摩地域の森林			

「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林 ESD）の推進

公益財団法人　Save Earth Foundation
〒144-0043　東京都大田区羽田 1-1-3

1．活動の概要

当法人が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」（渓畔林・里山・SGEC 認証林）の自然環境を活用し、市民を対象とする森林環境イベントを企画した。生物多様性や森林の多面的機能について考える機会として、現地での自然観察会および東御市中央公民館で実施する講座を計画した。生態系について理解するための基本となる学びの他、講師３名が通年で撮影した森林内の生物の写真を編集したスライドを作成、生物と森林環境とのつながりが子ども達にも理解できるよう工夫した。

2．活動の成果

コロナ禍による緊急事態宣言発出等により、予定どおり実施できたのは観察会１回のみだった。そこで講座で使用予定のスライドに説明文を加えた資料を作成し、希望者に郵送・メールにより配布した。

当法人の拠点は東京都だが活動は長野県でおこなっており、感染拡大予防のため県境をまたぐ移動自粛など活動を実施するうえでの制約が生じたが、現地在住の講師等とのオンライン交流会（ZOOM）やインターネットを活用し､その時々の状況にあわせて可能性を探りつつ､活動を継続した。また事業終了後も資料配布は継続しておこなっており、首都圏に新たな交流も生まれつつある。

森林の生態系や多面的機能に対する普及啓発は、今後さらに求められる活動である。今年度工夫しながら実践したことを、今後の「新しい生活様式」における活動として発展させていく。

3．参加者の声

・鳥や樹木の説明を聞きながら、ゆるやかな速さで歩くのが楽しかった。
・講師はそれぞれに知識が豊富で親切に対応してくださり、大変勉強になった。
・貴重な内容の資料でボリュームもある。とても丁寧にまとめてある。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月	2 月・3 月	5 月	計	備考
事業量 又は 事業内容		自然観察会	関係者交流会 資料配布	関係者交流会 資料配布 個別森案内		資料配布は今後も継続しておこなう
参加者数	県　内 県　外 計	16 人 1 人 17 人	22 人 2 人 24 人	14 人 7 人 62 人	52 人 10 人 62 人	資料配布を通じ、新たな交流が生まれた
実　施　場　所		長野県　東御市　「東御の森」				

森林社会学会創設のための連続講座運営事業

「森づくり政策」市民研究会
〒113-0033　東京都文京区本郷2-25-14　第1ライトビル405号
特定非営利活動法人　森づくりフォーラム内

1．活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では、森林社会学創設を目的として2015年から実施している連続講座を継続的に開催している。2020年度はオンライン配信による講座を4回、シンポジウムを1回開催した。その間に企画検討会議を2回行っている。

(1) 連続講座「次世代林業家の挑戦！まちと森をつなぐ新しい林業～北海道浦幌町北村林業の取り組み～」講演：北村昌俊　聞き手：相川高信
(2) 連続講座「脳・身体と森との関わりから考えるウェルビーイング」
講演・対談：稲本正、落合俊也
(3) 連続講座「次世代が提案する新しい林業のカタチ」
講演：奥田悠史、森本達郎　聞き手：成田陸
(4) 特別シンポジウム「森と人との関わりから考える未来社会のデザイン」
講演：内山節
(5) 連続講座シンポジウム「森から地域の未来を創造する！森を守り、活かし続ける「きたもっく」の魅力に迫る」講演：福嶋淳平　聞き手：佐野薫

2．活動の成果

昨年よりオンラインライン配信型を導入し、都市圏以外の各地域からの参加者が増加傾向にある。4回実施したオンライン配信当日の参加者は211人、YouTubeLive配信時の視聴回数は842回となった。各回の講演者の実践的取り組みから学び、新しい知見を得るための機会を参加者に提供すると同時に、講演者との意見交換を通じて、森林・自然との関係を見直し自然に対する意識の変化を促す機会になっている。

3．参加者の声

・人づくり、森づくり、地域づくりを結び付けて活動していることに感銘を受けた。
・人間と自然との過去の営みを振り返ることにより未来のビジョンを展望するとの考えに共感を覚えました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10月30日	12月18日	2月17日	5月23日	6月25日	計
事業量	5回	1回	1回	1回	1回	1回	5回
参加者数	都　内	10人	視聴	30人	50人	視聴	80人
	都　外	20人	(全国)	39人	60人	(全国)	119人
	計	30人	555人	59人	110人	287人	961人
実　施　場　所		Zoomウェビナー、YouTube Live					

「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム

一般社団法人　TOBUSA
〒123-0862　東京都足立区皿沼2-23-7-505
フォルティーヌ皿沼 505

1．活動の概要

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の普及活動は大きく転換を求められました。前年度教育現場で展開していた「場の醸成と指導者の育成」もほぼ実現が困難になっていることをふまえ、これまで緑化運動や緑化教育が及ばなかった場所との「つくったもの」を通して「つながる」シーンを開拓しました。

１つめは、同じ緑化教育を志しながら異なる活動をしている専門家と、「つくる」ワークショップを通して交流し、新しい活動を模索する対談です。これは動画公開も行っています。

２つめは、「木工作品・木製品」を通して緑化活動を広報する活動。実際に作品展示を行い、「ものつくり」「オリジナルのもの」に興味を持っている人々への二次的な広報活動を行いました。展示活動は２件。1件目は国内最大のデザインマーケット、デザインフェスタへの参加と、2件目は神田木ノ葉画廊での展覧会です。

2．活動の成果

＜特定非営利活動法人　樹木・環境ネットワーク協会　東京事務局長の後藤洋一氏とものつくり実況対談＞

ただの対談ではなく、ものをつくることを通して木と関わり合いつつ、各々の活動や森林教育への思いを言葉にする、新しい形の対談です。異なる活動をしていつつも活動方針は重なっていたり、また、新しい活動が生まれたり、と、可能性を感じました。今後他のジャンルの方とも積極的に関わることが可能になりました。

＜木工作品・木彫作品展示を通した森林教育の広報活動＞

木工作品・木彫作品展示を行い、オリジナルのデザイン商品を好む不特定多数の方々への広報、また、美術活動を趣味としている人々への広報を行いました。美術の世界では森林教育活動を含んだものつくりというジャンルはあまりありません。芸術と森林教育が関わった展示が珍しいことがよくわかりました。この２つのジャンルの関わりは、やはり双方にとって緑化活動を深化する大事な点であることを再確認しました。

3．参加者の声

＊一つの木というテーマについて様々な専門的角度を一堂に会して発表している事に目新しさと可能性を感じました。多視点が交差して新しい道筋を創造する可能性がある場所は、価値として客観的にも感じられるのだなと感じました。(「木といううつわ 2021」来場者)

＊一点ものを送りたいという気持ちにも合致しているし珍しい樹種で作られていることに希少性があるので購入する。(デザインフェスタ来場者)

＊制作もして広報活動もして教育活動も行うのは容易ではないと思う。このような仕事があると知ったことが収穫です。(デザインフェスタ来場者)

＊自分の家は建材屋だけれど､こんな風に樹木の価値を伝える方法があったのかと驚きました。(デザインフェスタ来場者)

＊もっとメッセージ性を表に出したほうがいい。(「木といううつわ 2021」来場者)

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2021 年 1 月 4 日	2021 年 3 月 10 日	2021 年 4 月 25 日	2021 年 5 月 30 日	2021 年 6 月 6 日～12 日	備考
事業量 又は 事業内容		樹種対談動画「器とカトラリー」	樹種対談動画「漁具」	WS 実況動画撮影	デザインフェスタ vol.53	「木といううつわ」展	
参加者数	県内 県外 計	再生数 131 回	再生数 122 回	再生数 40 回	約 2000 人	35 人	
実　施　場　所		東京都、埼玉県					

石けんを通して人や水環境を守るための啓蒙活動

石けんビレッジ
〒111-0053　東京都台東区浅草橋 1-33-6-903

1．活動の概要

一番身近な洗うということから、健康や森林、水環境の深い結びつきや、それらに悪影響を及ぼすマイクロプラスチックその他による水環境汚染のことを人体や生物への影響を学習する。

子どもたちに向けても学びやすい方法として、森から海までのわかりやすい紙芝居の作成、読み聞かせ学習会の運営を行った。森の育成や水循環を盛り込み、横浜市の水道局キャラクターや環境創造局キャラクターを参加させた内容とした。

学習会に人が密になることを避けるため、オンラインで読み聞かせの講座も行うなどの工夫をして行った。

2．活動の成果

紙芝居という媒体を作ったことで視覚にも効果的に子どもたちに環境を訴えられるものを作ることができた。大人が見ても気づかない視点があって勉強になるという声もあり、今度は読み聞かせのあと様々なワークショップを展開することが期待できる。小学校などでも学習会や講座を展開していきたい。

3．参加者の声

・紙芝居を通して水や緑のことについて考えた。
・幼稚園児前後でもちょうど良い内容だった。問いかけられる場面では答えたり自分の意見を言ったりしていた。もう一度見たい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	紙芝居　読み聞かせ講座	4 月 29 日 （オンライン）	6 月 10 日		
参加者数	県　内 県　外 計	15 人 0 人 15 人	25 人 0 人 25 人	40 人 0 人 40 人	
実　施　場　所		神奈川県　横浜市			

幼児教育等と森林インストラクターの
マッチングシステムに関するフォーラムの開催

一般社団法人　全国森林レクリエーション協会
〒112-0004　東京都文京区後楽 1-7-12　林友ビル

1．活動の概要

「森のようちえん」のような自然を活用した幼児教育は、子どもの成長によい影響を与えるといわれており、今後、自然を活用した幼児教育を進めていきたいという意向が増加するものと予想される。しかしながら、自然には、危険がつきまとい、自然を知らないと躊躇してしまうこともる。このようなとき自然の中での体験活動の専門家でもある森林インストラクター等の協力があったら自然の中での活動の敷居が低くなるかもしれない。このようなことから、幼児教育や自然体験活動の専門家により、「幼児教育等と森林インストラクターの連携に関するフォーラム　自然の中での幼児教育を進めるために森林インストラクターに期待されるものは何かー幼児教育と森林インストラクターを結び繋げていくためにー」を開催し、幼児教育と森林インストラクター等の連携の意義や連携方策について検討した。

2．活動の成果

「森のようちえん」のように幼児期の外遊びは、将来子どもたちが成長した段階で求められるであろう多様性に富んだ柔軟性のある考えや行動に必要となる非認知能力が鍛えられるなど生きる力をはぐくむということが再確認されるとともに、幼児への指導では「待つ、見守る」という独自のスキルが必要なことが確認された。幼児教育に連携する森林インストラクター等にはこれらの子どもの発達段階に応じたスキルを身につけることが必要であり、そのためのマニュアルや研修の必要性が確認された。

これらの成果を普及していくため、「幼児教育等と森林インストラクターの連携に関するフォーラム報告書」とフォーラムの議論を基に、森林インストラクター等と幼児教育の連携のための手引書として「自然の中での幼児教育のすすめー森林インストラクターと幼児教育の連携の手引きー」を作成し関係者に配布した。

3．参加者の声

・幼児教育と連携していくためには幼児教育関係者との日頃の付き合いが重要である。
・森林インストラクターが幼児教育のスキルを身に付けるためには研修やマニュアルが必要である。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和 3 年 3 月 24 日	備考
事業量又は事業内容		幼児教育等と森林インストラクターの連携に関するフォーラム 自然の中での幼児教育をすすめるために森林インストラクターに期待されるものは何か ー幼児教育と森林インストラクターを結び繋げていくためにー	
参加者数	都　内 都　外	都内：15 人、都外：38 人、不明：35 人、計：88 人	
実　施　場　所		新型コロナウイルス感染症のためオンライン配信での開催	

都市部における若者による森林環境教育の実践

特定非営利活動法人　こがねい環境ネットワーク
〒184-0011　東京都小金井市東町 2-28-8

1．活動の概要

都市部住民などに向けた森林環境教育を、大学生を中心とする若者が実践することにより、森林環境教育を担う人材育成と普及啓発を同時に推進することを目的としていたが、コロナ禍での活動制限による影響が大きく、それぞれの要素を限定的に取り入れた実施になった。また巣籠もり需要に即したテーマ（庭木・剪定）など、生活に身近な内容へと変更し、新たな参加者層の開拓を試みた。

2．活動の成果

これまで、イベント参加者の主なターゲットを親子や子どもに設定していたが、コロナ禍でのさまざまな活動制限の影響で、身近な生活に隣り合った樹木などを切り口に、森林環境を見つめ直す視点へとテーマを変更したことで、様々な年代からの参加に繋げることができた。

一斗缶ストーブづくりは、大変好評な企画で、エネルギーや防災の観点からも（加えてもともと市の防災非常食が入っていた一斗缶を活用したことも）今後の展開が大きく広がる可能性を得られた企画となった。

今後は、引き続きこれらの素材を使った企画を進めながら、コロナ禍でも対応できるような既存の手法に捉われない実践を探求する。そのうえで現状なかなか取り組むことが難しい若者の教育実践のスキルを向上させる機会の増加に繋がる手法も模索し、森林環境教育を担う教育者の育成と地域住民への啓発の拡大を図る。

3．参加者の声

・柿渋の効用、柿を生かした食品、柿の講話、まさに柿づくしでした。（柿づくしイベント）
・大変解りやすい説明で出来上がった物にも満足です。早く使ってみたい。（環境フォーラム）
・剪定枝を活かすアイデアを常設で展示できる場所があると良いと思う。（若者スタッフ）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期			月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベントを 4 回実施した。	イベント (1)「まるごと柿づくし」 (2) こがねい環境フォーラム 2021 (3)「まるごと柿づくし 2」 (4) 東児童館「児童館と SDGs」	(1)2020/10/30-31 (2)2021/11/17-23 (3)12/11 (4)11/27･12/18	11 日間	
参加者数	計	(1)14 人 (2)1138 人 (3)18 人 (4)22 人		1192 人	
実　施　場　所		東京都　小金井市 (1)(2)(3)(4)			

身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう

NPO 法人　くにたち農園の会
〒186-0011　東京都国立市谷保 5119

1．活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、身近な森や公園で、森づくりの活動を行い、生きる力、森のための４つのアクションを意識した活動を行いました。焚き火の薪を森から運び、収穫野菜を調理していただき、森の木に触れ、クラフトでは、木の実リース、木のカメラづくり、木の車づくり、森の生き物さがし、散策等を行いました。自然の大きさ、美しさ、不思議さ等に直接触れる体験を通して、自然に対する豊かな感性を養うこと、環境を大切に思う心を育てることができました。「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」を実感できる親子の自然体験・環境教育につながりました。

2．活動の成果

今回の活動を通して、小さなお友だち、お母さんたちのやわらかな笑い声が溢れる関係性を作り、子育てを支え合う、協力し合う楽しさを知るきっかけにつなげることができました。森で出会った音、生き物、森の中で親子で作ったクラフトなど、子どもに良い影響を与えていることを実感することが出来たと思います。小さな実体験を積み重ねる子どもたちを見守り合うことで、自分から挑戦する力、楽しいを生み出す力を育くむことができました。活動拠点である城山公園では、四季を感じ、生き物に出会い、都会の小さな森林内でのさまざまな活動等を通じて、環境と森林との関係に興味を持ち、理解を深めることが出来ました。子ども達が楽しみながら学ぶ世界を人と自然のかかわりの中で、深く広く作り出していく事をこれからの取り組みの一つにしていきたいと思います。

3．参加者の声

・カメラ作りや車作りなど、子どもと一緒に作ったもので遊びながら木の温もりを感じられてよかった。
・活動日以外にも家族で森に遊びに行くようになった。活動を通して自然を大切にしようという気持ちが子どもにも芽生えたと思う。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業量又は事業内容	身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう	7/6.13.20.27 8/3.16.17.24.31 9/7.14.21.28 10/5.12.19.26 11/2.9.16.30 12/7.14.21.25 1/8.11.18.25	2/1.8.15.22 3/1.8.15.22.26 4/5.12.19.26 5/10.17.24.31 5/22～23 6/7.14.21.28	7 月：大人 20 人・子ども 22 人 8 月：大人 35 人・子ども 40 人 9 月：大人 29 人・子ども 32 人 10 月：大人 30 人・子ども 33 人 11 月：大人 25 人・子ども 28 人 12 月：大人 30 人・子ども 39 人 1 月：大人 23 人・子ども 25 人 2 月：大人 26 人・子ども 28 人 3 月：大人 35 人・子ども 28 人 4 月：大人 22 人・子ども 29 人 5 月：大人 36 人・子ども 45 人 6 月：大人 26 人・子ども 33 人	
参加者数	県　内 県　外 計	414 人 人 414 人	308 人 人 308 人	722 人 人 722 人	
実　施　場　所		東京都　国立市			

シンポジウム「グローバル森林新時代
—森林減少ゼロ・SDGs・循環型社会を目指して—」

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会
〒113-0034　東京都文京区湯島 1-12-6　高関ビル 3 階

1．活動の概要

国際的に「森林減少ゼロと持続可能な森林経営」の達成が 2020 年とされているが、現実はその目標どおりに進展していない。シンポジウム「グローバル森林新時代—森林減少ゼロ・SDGs・循環型社会を目指してー」はその現状を分析して、今後の課題を明らかにする目標を設定した。そのために、「国際環境ガバナンスにおける森林に関わる問題の位置づけと課題」、「ゼロ・デフォレステーション：国際企業はどんな対応をしているか」、「熱帯林減少への日本のサプライチェーンと金融による対応状況」、「熱帯アジアの森を取り巻く現状と人びとの暮らし」という４報告と、コメンテーター一人を配置した。そのあと、報告者が参加者の質問に答える時間帯を設けて、全体で４時間を要した。

2．活動の成果

４報告とも海外の動向を述べたものだが、第１・第２報告はグローバルな問題、第３報告は主としてグローバルな問題、第４報告はローカルな問題を対象にした。いずれの報告も、いま世界で起きている事態を冷静に把握し、分析する内容だった。座長のリードにより議論が進むなかで、以上の報告を踏まえて世界をグローバルとローカルの両面から、ないしはその中間にナショナルを入れて、全体を把握する必要性が強調された。参加者は、わが国における林業・森林問題をこうした世界的な動きのなかに位置づけて理解する広い視野を学んだと思われる。今後とも参加者の基本視点をより広くするようなシンポジウムの開催を心掛けたい。

3．参加者の声

オンライン方式のゆえに全国各地から参加者を得ることが出来た。参加者に対するアンケートを見ると、少なからぬ回答者が、オンライン方式だから参加できた、次年度以降も同じ方式を望むと書いている。そのほか、シンポジウムの内容については各種の感想が寄せられたが、グローバル・ガバナンスを進める３つの条件（公平性・明解性・信頼できる遵守メカニズム）を改めて認識したとの指摘が、包括的で代表的な感想である。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 26 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム		
参加者数	県　内 県　外 計	人 人 130 人	人 人 130 人	オンライン形式のゆえ全国各地から参加者を得ることが出来た
実　施　場　所		オンライン		

「水が繋ぐ地域と世代」促進事業　森と水のまつり・影祭り

一般社団法人　全国森の循環推進協議会
〒221-0056　神奈川県横浜市神奈川区金港町 6-18
アーバンスクウェア 11　1 階

1．活動の概要

地球温暖化防止・国土保全・森林整備・木製品消費促進・上下流域交流を目的とした、啓発活動を実行する。また、活動を通して山の学校への参加者を募ることを目的とする。

2．活動の成果

コロナ渦で大会そのものや活動が制限される前例のない状況下で、新たな取り組みとして、当協議会の活動主旨、また活動内容を入れ込んだデジタル映像を大会会場で放映するという形式での啓発活動を実施した。直接出向いて活動する場合とは異なり、多くの方の目に届く映像形式での啓発活動は、現代の状況に沿った取り組みであり、子どもをはじめ、その保護者の方々など幅広い年代を対象に森林保全に対する呼びかけを行うことができたと感じる。

また、大会参加者やバレエ教室の生徒へ、自宅で作製ができる学習型木工作キットを配布した。その際、作製の手順を動画にして、QR コードから動画へのアクセスを可能にし、保護者とともに動画を確認しながら作製してもらうことで自宅にいながらも安全に木々と触れ合うことのできる、水源地の間伐材を利用した学習型工作キットとした。キットの対象になるのは実際のイベント参加者の子どもたちだが、持ち帰って自宅で作業してもらうことで活動対象の範囲に子育て世代の親御さんをも含むことができた。そして、親子で行う作製作業によって、親子の交流や会話を交えた中で、子どもだけでなく親御さんにも水源地保全や山の学校へ興味を持っていただくことができた。現代の情勢的に実際に山へ向かことは難しくとも、今後コロナウイルス感染症が落ち着いた暁には､様々な体験をしてみたいとの意見が寄せられた。保育園での活動については､従来行ってきた活動範囲より対象年齢が低くはあったが、まずは知ること、感じること、考えることのきっかけになるよう、水源地・森林保全に関する紙芝居での啓発活動を行った。今後は、間伐時の映像を配信して子どもの感覚に働きかけ、興味を引き出すことのできるような新たな取り組みを検討しており、可能な限り現地での活動が実施できるような事業を展開していきたい。

3．参加者の声

《水泳大会》
- 映像から、泳ぐための水はどこからどのようにきているのか知る良い機会になりました。
- 動画を見て、泳げることに感謝し、自分ができることをしていかなければと感じました。

《バレエ教室》
- お友達と一緒に木を観察して作りました。
- 工作をしてみて、またほかにも体験学習に参加してみたいです。（子ども・保護者より）
- 体験を通じて活動内容に興味を持ちました。 SDGs を知るきっかけにもなった。(講師より)

《保育園》
- 雨が降って山がお水をきれいにしてくれていた。（子どもたちより）
- 楽しかった。木の香りがすごかった。
- 木製品のおもちゃを手にすることはあっても、実際に木に触れて製作作業をすることは体験したことがなく、親子共々楽しく作業をすることができました。キッドの袋を開けると更に檜の匂いがいっぱいに広がり癒されました。子供たちは早速お人形を座らせて、おままごとに活用して遊んでいました。ありがとうございました。（保護者の方より）

命の水を育む銀杏峰を癒しの森に

里山銀杏峰を愛する会
〒912-0045　福井県大野市若杉町 1502-3

1．活動の概要

市民の 80% 以上が、銀杏峰を含む屏風山脈からの地下水で生活している。森林間伐、刈り払い整備（笹原重点刈り払い）で、光合成及び風通し良くなり雑草繁殖（亜高山帯お花）し、冬季に枯れ、微生物や茸菌類等の働きで、腐葉土増え、保水力有り荒廃を防ぐ山が育ち、富栄養の水が流れ、河川海の生き物も育ち、四季の彩りから児童達の感性を育む森作り。

2．活動の成果

自身フオーレストサポーター資格有り、児童達と里山周回時、山の大切さ、偉大さ、水の美味しさ、小鳥、植物等を愛で、森が人間に必要性を感じ、手入れが何故必要か、夏休み親子連れ自然観察会で、児童達の感性を多少磨けたかも。

幼児達と探索コース周回時、松の木下にエビフライに似た実が落ちている、此なんですかと問うパイナップルの声も有る、松傘を見せ、リスさんが食した後でリスの生存を知って戴ける。足跡及び糞を見て、この御山に生息している大小の獣を認識、又落ち葉が腐り腐葉土となりその腐葉土の中に相当数の菌類が生息し、みどりのダムの役目を果たす菌類小さい生き物を認識していただき、雑木林の大切さを学ぶ。

3．参加者の声

コロナ対策で山開きなども会員等で行うが、今年は降雪量がヤヤ多く 7 月中旬まで谷筋に残雪多く、登坂された方から、整備良く本等に楽しい山でしたと言われ、返笑でお返し、満足せず、今後も少ない仲間と、気力、体力と相談で適進、今年は山頂近辺に簡易小屋設営に、既に部材の荷揚げ終わっています、晴れ間に向かって進めます。

（冬季限定奥越前アルプスプレミアムツアー＆無料美術館も年々来山者増えるが、遭難等の心配が更に有り・標示柱の増設も今後の課題だと思います。）

奥河口湖の生態系保全と持続可能な観光を体験する親子向け自然観察会

奥河口湖長崎山さくらの里公園づくり協議会
〒401-0331　山梨県南都留郡富士河口湖町長浜 2001-5

1．活動の概要

本事業は、本協議会が整備しているさくらの里公園を地元の観光資源として発展させ、多くの方に知ってもらい活用していただくために、奥河口湖地域の森と湖畔の自然を活用した環境教育キャンプを開催し、同時に地元住民ともふれあい、森林保全の大切さの共有と地域活性化の一助となることを目的として企画した。

しかし予期せずコロナ禍の状況となり、7月より親子キャンプの参加者募集を試みたが、緊急事態で自粛の状況となり一旦中断した。実施日直前まで事業中止も視野にいれて開催について苦慮したが、規模を大幅に縮小して（参加者12名）、9月12―13日に東京都内に住む子どもとその家族を対象として実施した。申請時は､地元の地域住民や子どもたちとの交流の場を計画していたが、感染予防の観点から割愛した。

当日は小雨模様の中で、奇二正彦（立教大学准教授）講師らによるさくらの里公園の自然観察会からはじまり、近隣の野鳥の森公園にて小鳥と触れ合う野鳥観察会とバードコールの手作り制作やキャンプエリアの設営体験、さらには夕食後に昆虫採集のトラップセットなど盛りだくさんのアクティビティを実施した。二日目も早朝より前夜にセットした昆虫トラップの観察会や湖畔の自然観察、そしてカヌー体験などを親子で楽しみながら、自然の素晴らしさと森と湖の心地よさと貴重さへの気づきを各講師からインタープリテーションしてもらった。

天候は良好ではなかったが、熱心な講師達のホスピタリティにより、参加の子どもはもちろん親たちにも大好評であり、無事に親子キャンプは終了できた。

2．活動の成果

環境教育や野外キャンプの専門家４名の講師による質の高い自然観察を交えたアウトドア・キャンプの体験機会となり、参加者にはこの地域の魅力と自然の大切さが十分に伝わったと言える。また親子キャンプの様子を動画等に記録したので、プロモーションビデオを作成し、今後インターネットを利用した観光資源の発信素材も獲得できた。この地域の観光振興や地域活性化につなげる契機となるよう今後も取り組んでいきたい。

3．参加者の声

終了後の懇談では「小鳥が手のひらに止まるなんて言う体験ができるなんて信じられなかった。自然と触れ合うってこのことかも」「植物の名前をたくさん教えてもらい、ふだん見過ごしている自然に気がつく良い機会になった」「子どもがこんなにアリや虫に興味を持ってるなんて思いもよらなかった」「湖畔で眠れて自然を感じることができた」などの感想をいただきました。また、親子でこのような機会を持てたことや講師への感謝なども多く寄せられました。

Googlemap紹介動画　https://www.google.co.jp/maps/place/奥河口湖さくらの里公園/@35.510808,138.7228869,3a,75y,90t/data=!3m8!1e5!3m6!1sAF1QipMD15UvjoiUmMOVugVaw6xoBCW_gMZMkk_qnXfj!2e10!3e10!6shttps:%2F%2Flh5.googleusercontent.com%2Fp%2FAF1QipMD15UvjoiUmMOVugVaw6xoBCW_gMZMkk_qnXfj%3Dw203-

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	環境教育 キャンプ （1泊2日）	9月12・13日		
参加者数	県　内 県　外 計	人 12人 12（21）人	人 12人 12（21）人	講師・ボランティアスタッフ 9人を加えると21人のキャンプ
実　施　場　所		山梨県　富士河口湖町		

山が育てた命・先人の希望を受け継ぎ、いかそう。

特定非営利活動法人　F.O.P
〒399-3002　長野県中川村片桐 2728

1．活動の概要

子供の自然離れと、森林荒廃や獣害問題を減らすため、荒れていた森林を美しい里山の森に戻して、健全な野外教育の場や、人々の拠り所として活かされることで持続的な里山の森との関わりを取り戻す

〇植生調査
〇森林整備（危険箇所へのネット張り、朽木処理、作業道整備・歩道整備）
〇森の樹木の種類や役割を知るゲームを開催「森の冒険ブック」

2．活動の成果

整備をし、危険箇所が減ってきたのと比例して、自主保育利用がかなり増えた。村内だけでなく、近隣市町村からも利用が増え、利用者数は昨年の 3 倍ほどにもなっている。

また、小学生の利用も増えてきた。

集まった親子は、枝拾いをし、そのエネルギーでお昼ご飯やおやつを作るなど、森林教育から火育、食育までにも波及している。

自主保育のお母さんたち中心に、自ら、整備活動に参加してくれるようになった。それを見ていたお父さんたちも週末に整備に参加してくれるようにもなった。

また、普段の生活の中でも森のエネルギーを利用する親子が増え、薪ストーブやロケットストーブなどを導入するようにもなった。

今後も、森林と暮らしの関係を体感する場所として、1 日森で暮らす体験や、焚火を使った火育、食育、森の木を使った建築体験などを行っていく。

3．参加者の声

〇普段、ただ森としてしか見ていないけど、樹木の名前や特徴を知って見え方が変わった。
〇子供たちがいきいきとしていて、大人もリフレッシュできる。
〇森に感謝するようになった。
〇薪ストーブなどを生活にも取り入れたい。
〇こどもが、森に行きたい！というようになった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和２年１ R2 年 12 月～ R3 年２月	８月 22 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		○小さな子供も安心して森林活動できるよう、歩道整備、危険箇所を整備（ネット張り、朽木除去など）	植物専門家と植生調査		
参加者数	県　内 県　外 計	19 人 人 19 人	６人 人 ６人		

実　施　時　期		９月 27 日	12 月 26 日～ １月 11 日まで		
事業量 又は 事業内容		親子観察会	森の冒険ゲーム開催		
参加者数	県　内 県　外 計	31 人 31 人	61 名 61 名	117 人	
実　施　場　所		長野県　中川村　西原ガーデン隣			

小枝アートづくりで森と木が大好きになるプロジェクト

公益社団法人　静岡県林業会議所
〒420-8061　静岡市追手町 9-6
静岡県庁西館 9F

1．活動の概要

森市民が森や木に親しむ手段として、木の枝を使ったアート造りを中日、森を理解し森づくりを応援する市民を増やしていく。

活動の内容は、小枝アートを中心に森にある材料を使った木工作。

具体的には、

①桧小角材を削って箸を作った。

②広葉樹の枝で鉛筆を作った。

③デーダマツの球果でクリスマスツリーを作った。

④イスノキの虫こぶで「ひょんの笛」を作った。

⑤ヒノキの丸太でスエーデントーチを造り、火を燃やしてマシュマロを焼いて食べた。

2．活動の成果

・小枝アートは、参加者に森の中にある普段見落としていたものが、価値あるものだということを知ってもらえたことがよかった。

・今回のプログラムは、小枝アート以外にも、林業家による木工作を実施したが、好評だった。

・木工作のどれもが山の生活の中から生まれた遊びで、そういった楽しみを知ることで、森と木が大好きになってもらえたと思う。

・今回、小枝アートの講師の入屋氏には、たいへん力となっていただき、参加した小学校の教師から学校の活動に取り入れたいと連絡があり、さっそく入屋氏を講師として紹介した。小枝アートの存在を普及することで森を大事にする心を育てる契機にしたい。

3．参加者の声

・枝とかツルとか普段見過ごしているのが人形づくりの材料として役に立つとは思わなかった。

・自然のものでサイズもばらばらで上手くできなかったが、そこで工夫するのが楽しかった。

・森の中には楽しい材料がたくさんあることがわかった。森の中には無駄なものなんてないんだ実感した。

・小枝やツルで人形を作るなんて思いもよらなかったが、人形の形になっていくのが楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 24 日	12 月 5 日	2 月 6 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		第 1 回 小枝アートと 木工作	第 2 回 小枝アートと 木工作	第 3 回 小枝アートと 木工作		
参加者数	県　内 県　外 計	18 人 人 18 人	18 人 人 18 人	24 人 人 24 人	60 人 人 60 人	
実　施　場　所		静岡県　藤枝市				

梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育プログラム

梨の木里山づくりの会
〒470-0113　愛知県日進市栄 4-1702
メイツ日進 605

1．活動の概要

梨の木小学校の学習林において、森の役割や生き物の営み、里山文化を通して見えてくる森と人との関わりを学び、体験することにより、森林や環境に対する認識を深める。

2．活動の成果

里山体験会では、森の中に入って小さな生き物の観察や落ち葉の滑り台遊び、タケノコ掘りなど、自然の中で楽しむことができたとともに、このプログラムに参加した多様な経験を通して自然への理解を深めることができた。また、毎年一定数のリピーターがおり、自然に触れる活動の輪が広がり、自然への理解が深まっている。定例活動では、枯死枝撤去や階段補修等により、安全に自然体験ができる場を整備することができた。

3．参加者の声

昆虫採集や木の実探し、タケノコ掘りなど、自然の中での体験を通して森への関心が高まり、森の素晴らしさ、自然の不思議さへの理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/19 体験会	7/26 体験会	12/6 体験会	4/18 体験会	定例会 月１回	計
事業量		梨の木小学校学習林　約 1ha（森林整備、体験会等） 体験会　4 回× 2.5hr ＝ 10hr				2hr × 6 回 ＝ 12hr	22.0hr
参加者数	県内	36	13	31	45	約 5 名× 6 回	125 名
	県外	0	0	0	0	＝ 30 名	0
	計	36	13	31	45	県外 0 名	155 名
実施場所		日進市立梨の木小学校（愛知県日進市）、 愛知用水の小路（愛知用水日東支線）					

小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人　水とみどりを愛する会
〒456-0015　名古屋市熱田区高蔵町 7-11
シャトー高蔵 305

1．活動の概要

次世代層に対する環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、自然と人と暮らしとの係わりへの理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

2．活動の成果

次世代を担う子どもたちに、森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さを伝えることができた。今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

3．参加者の声

山の役割について知ることができた。森の楽しみの他、間伐など山や森を守っていく必要性を教えてもらった。地域の山や森を大切に守っていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8 月 29 日	9 月 4 日	10 月 14 日	11 月 4 日	11 月 19 日	計	備考
事業内容		事前研修	山岡小	神坂小	武並小	大井小		
参加者数	県内 県外 計	ー人 ー人 ー人	24 人 人 24 人	15 人 人 15 人	30 人 人 30 人	54 人 人 54 人	123 人 ー人 123 人	岐阜県を「県内」とし、参加小学生の数を記載
実施場所		岐阜県　中津川市（根の上高原）						

地域産木材利用促進啓発事業

特定非営利活動法人　京都森林・木材塾
〒618-0091　京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

１．活動の概要

地域産木材利用を促進するための現地見学会・講演会は新型コロナの関係で中止。京都環境フェスティバルはオンラインで参加し、SDGs の取り組みを紹介した。

２．活動の成果

① 現地見学会実施（木材市場、木造施設）　中　止

令和２年１１月、木材市場（京都市）、大型木造施設（京丹波町）をマイクロバスにより見学する計画であったが、京都府の指導により中止した。

② 京都環境フェスティバル２０２０にオンライン参加

京都議定書（COP ３）採択を契機に始まったものであるが、新型コロナの関係からオンラインで開催された。イベントは中止になったが、セミナー、環境活動団体・企業紹介、コンクール受賞者紹介など、今までと違った内容となった。

③ 講演会開催（内容：京町家等木造建築物の特徴）　中　止

令和３年１月、京都府旧議場（日本最古の議場）で京町家等木造建築物の特徴について講演会を計画していたが、新型コロナの関係で会場が使用できないため中止した。

【まとめ】上記活動（①～③）にあわせ最新情報をＨＰで発信しており、アクセス数が年々多くなってきている。特に、学校関係（大学・高校）からの問い合わせが多い。

３．参加者の声

地元産木材利用促進が「人や環境にやさしく温かみがある」こと実感してもらうための現地見学会、講演会が新型コロナの関係で中止となり、非常に残念である旨の意見あり。環境フェスティバルはオンラインで開催され、遠隔の人もアクセスでき喜ばれた。

実績報告とりまとめ表

事　業　内　容	実施日	実施場所	参加者等	摘　要
現地見学会実施	中止	―	―	―
環境フェスティバル オンライン参加	12 月 20 日 ～2 月 28 日	特設ウェブサイト	アクセス数 62,800 回	SDGs の取り組みを紹介した
講演会開催	中止	―	―	―

木育　森の恵み発信プロジェクト

やまぐに（林業女子会@京都）
〒602-8373　京都市上京区下横町 209-70

1．活動の概要

木育の普及・促進　木育とは森林に親しみや愛情を持つ人を育て、森林資源を府内・国内で有効にするための活動。今年度は、木育カフェを開催して林業女子と講師の方々からのお話により自然について楽しく学ぶことと里山で地域の方の協力の元、森での過ごし方を森や川の営みを野遊びで体験して、自然から学び自ら育つ発見や考えを持てるようこの場所で五感を活かす方法を提供しました。大人対象に開いた会では木（間伐材）の繊維で出来た布の話、全国林業女子会オンラインで大学の先生が研究林での放置されていた杉林の場所で学生と間伐作業で里山つくりの話など、子どもたちとはボードゲームで木の様々な活用方法を遊びの中で学んだり、野外活動では森で拾った枝や間伐材で木工体験等を行いました。学生とは講義（市内）とフィールドワーク（郊外京北）にて実施。生活に欠かせない水をきっかけに森が安全で便利な水の利用に大きく貢献していることを伝えました。

2．活動の成果

木育の普及活動を通して都市で日常便利な生活をしているため、見過ごしている森里川の自然とのつながり方を再び活用する意識を向上させることが出来ました。森林管理問題について、参加者が生活の中で無関係ではなく、日常的に各自が環境を守る行動をとれることを課題として持ち帰りカフェで再び集まる機会を設けて意見交換を継続的に進めています。少人数ではあったが森で過ごすことが不慣れな人に少しずつでも慣れてもらって奥山での自然豊かな地域での活動を増やして行こうと準備しています。

3．参加者の声

（森のワークショップ）コロナ感染防止のため、外出する機会が減り体も心も緊張する毎日が森へ入ったことで解放されました。

木工で初めてナイフを使った、お母さんにプレゼントのお箸が作れて楽しかった。

（暮らしをささえる水と森の世界）琵琶湖の水は再利用していることを知って、少し水の使い方の意識を変えようかなと感じた。

・自分たちが生活する上で、環境に対する負担を知っておくだけでも大きな意義があるなと思った。山の管理が滞ることで生態系が変わってしまうことが印象にのこりました。スギ、ヒノキがアロマオイルなどの活用方法があったことにまず驚いた。このような活動を立命館の学生に知ってもらうようにマルシェでも活動していきたい。バブル以前までは電柱が木製だったこと。人工林と自然林それぞれ別の産業が発展しやすい環境を日本が整えることができれば里山の問題は解決時近づくのかなと感じた。

（林業カフェ）カワネズミのお話で近くの森に住んでいるなら会いに行こうと思った。

木造の建物にいると不思議と落ち着く、この場所で木（間伐材）から糸ができると初めてしりました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月24日から 8月25日	10月3日	2月20日と 3月26日 2日間	備考
事業量 又は 事業内容		つくりましてん お家で木工 オンライン配信 有り	森のワークショップ 木工教室 BBQ・火おこし体験	暮らしをささえる水と森の世界 講義2/20 フィールド3/26	つくりましてんサイト https://wazappon.link/news/tukurimasiten/ 水と森の世界 取材動画サイト2本 https://youtu.be/nk1CN6D0gGM https://youtu.be/5XKiOXNdvPI
参加者数	県　内 県　外 計	2人 0人 2人	3人 人 3人	17人 4人 21人	
実　施　場　所		つくりましてん　京都府南丹市八木町　わざどころpon 森のワークショップ　京都府南丹市八木町　大外羽の森 水と森の世界　講義　京都市北区衣笠　ココハナ フィールドワーク　京都市右京区京北地域　熊田、黒田			

実　施　時　期		7月26日から 6月26日		計	備考
事業量 又は 事業内容		林業カフェ 月に1回開催 5月開催中止			
参加者数	県　内 県　外 計	62人 12人 74人	人 人 人	84人 16人 100人	
実　施　場　所		京都市			

森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』

一般社団法人　森のようちえんどろんこ園
〒601-1253　京都市左京区八瀬近衛町 723-48

1．活動の概要

未来を担う子どもたちに体験会、ワークショップを通じて、森のようちえんの意義を伝え森林環境教育の普及啓発を目指す。

2．活動の成果

普段一人ではなかなかいくことができない森を散策することで、自然と触れ合いながら多くの体験ができる森のようちえんの活動を知ってもらうことが出来た。おやこまつりでは様々な催しを通じて交流を広めることが出来た。

環境腹話術では子どものころから自然環境を楽しく学ぶことで、自然への興味関心を育み SDGs の普及啓発に繋がると思われる。

今後もこのような活動を継続していくことで地域の子育て世代のおやこの交流の場を増やしていく。

3．参加者の声

・コロナの影響で家に籠りがちだったが、子どもと一緒に森に出かける機会ができ心身ともにリフレッシュする事ができた。子どもの教育環境に自然は必須であると感じられた。
・おやこまつりで子どもが楽しめる催しがたくさんあり、また大人向けのショップも多く一緒に過ごすことができた。
・環境腹話術で教わったことを帰りに子どもが懸命に話してくれた。子どものときに環境について学べる機会があるのは大切だと思う。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		R2 年 11 月 28 日	R3 年 1 月 21 日	R3 年 3 月 20 日	R3 年 6 月 3 日	計
事業量 又は 事業内容		おやこまつり 森遊び体験会	環境腹話術	森遊び体験会	野染め体験	
参加者数	県　内	125 人	20 人	30 人	52 人	227 人
	県　外	5 人	人	人	3 人	8 人
	計	130 人	20 人	30 人	55 人	235 人
実　施　場　所		京都府　京都市				

森のようちえんがまきおこす「能勢の森の守人を育てるプロジェクト」

きららの森のいえ
〒563-0356　大阪府能勢町平通156

1．活動の概要

【目的】この一連のSDGsにつながる体験をきっかけとして、園児やその家族に、自然豊かな地元を愛し森林を活用する人々の思いを浮き彫りにし、伝える。
伝えるために地元高校生による取材によってインタヴューをメインとした映像を作り上げる。
伝えることによって、自然の大切さ、地元の文化・自然を守ることの大切さを理解し、興味を持って関われる人材を育てる。
【内容】森のようちえんで、雨の日の手仕事や読み聞かせの会に活用するウッドデッキを作る。
地域との連携を大切にし、能勢町内の山の木を伐り、それを材にして作る。
その過程すべてを子どもにもわかるよう説明を交えて体験してもらう。

2．活動の成果

何より、木を伐り、運びだして材を造り、物を作り上げていくのはエキサイティングで楽しく、子どもたちはよく手、足を動かし、手伝ってくれた。次期計画への期待度も高く、大人からも子どもからも「次は…？」の質問が聞かれた。

アンケートなどから、参加者の、森と自分たちの生活への関り、距離感は明らかに近くなったと感じる。

地元に声をかけ頭を下げて訪ねる機会が増え、繋がりが広がった。そんな中で、さらなる放置林や地域の抱える問題が見え、益々今回のような活動の必要性を感じた。

3．参加者の声

・ほぼ一年を通して、沢山の専門家の方たちとの交流を通してさせていただいたダイナミックな体験は、私たちの、普段の生活で目にする自然、木や虫などを見る感覚、興味、探求心など、すべてを変えたように思う。
・木を伐るところから自分たちで仕上げたウッドデッキは、これから目にするたび、みんなで創ったいろんなことを思い出し、自分たちが関われたことを誇りに思うにちがいない。
・分業化の進んだこの時代に物事の始まりから終わり（出来上がり）までに関わるという、本当に貴重な機会を与えていただけた…。
・木を伐って、植樹で終わる…❣始めと終わりをつなげられる体験だった。
・ウッドデッキを作る体験ができる!! という以上に、その素材となる材木の事となり、どこからきてどんな人の手で、どのような方法で、材木となり、目の前にあるのか…、木が何か、森や山とはどんなものなのか、人と自然とのかかわりについて学び、その生態系について感じ、いろんなことを考えさせられた。そしてその思案の種をまいたのが、すべのこの地域のおっちゃんとおばちゃんたちだったということに改めて感動…。
・＜森を知る＞で教えていただいた草笛の数々、今も機会があるごとにチャレンジしています。
・…イタドリの笛を今でも持ち出して、自慢気に吹いている…
・楽器作り面白かった。
・昨日の作業も刺激的だったようで「今日も楽しかった～❣…。」ノコギリ演奏の音を真似して、帰ってからもパプリカを歌っています。
・…のこぎりの音ってこんな音だったんですね。おもしろ～い…。

実績報告とりまとめ表

実施日		9/27	10/25	11/1	12/6	1/19	1/31	2/7	2/21	2/28	3/14	3/21	6/26	計
事業実施状況		「森を知る」森の楽しみ方	「森を知る」山の神様にお参りする	「木を伐る」	「木を運ぶ」	「材を作る」製材所見学	「木工」基礎工事Ⅰ	「木工」基礎工事Ⅱ	「木工2」棟上げ	「木工3」デッキ張り	「木工1」楽器を作る	「振り返り」コンサート自分で作った楽器演奏	「まとめ」植樹山の神様にお参りする	
参加者数	県内	39	33	31	45	9	16	12	25	16	23	19	18	286
	県外	7	4	4	6	3	3	0	2	5	6	3	3	46
場所		大阪府　能勢町　亀子の杜、きららの森のいえ、里山創造館												

地域の森と地域産木材の魅力を伝える
「木材コーディネーター」養成事業

NPO 法人　サウンドウッズ
〒669-3631　兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1．活動の概要

地域の森と木材に関する知識・技術をもつ人材「木材コーディネーター」を養成している。基礎講座では、森づくりと地域産木材に関する知識・技術を習得し、森林資源の有効活用により森と消費者を直接つなぐための知見を得る機会を提供している。また養成講座についての質問を多く寄せられるようになったため、木材コーディネート基礎講座の説明会を開催し、講座の内容や構成を伝えることで基礎的な知識の習得が可能なことや、木材コーディネーターの役割や必要性を参加者に周知している。これらを通じて、身近な森林や木材に対する理解について考える仕掛けを創出することで、消費者に対する「木づかい」の機会を創出する。

2．活動の成果

木材コーディネーターが民間資格である以上、受講するとどのような効果があるのかイメージが伴わず、半年にわたる連続講座というハードルを躊躇される方にとって、今回のオンライン説明会とダイジェスト版の連続講座は参加者のイメージが新たになったと考える。

説明会及びダイジェスト版の連続講座を開催することで、森林資源を有効活用する取り組みをどのような立ち位置で推進しているのか、またどのようなことを問題に感じていて、どのように挑んでいくべきなのか、講師から位置づけが伝えられたと考える。また、受講することでその先に見える世界が変わること・仕事の広がりについて修了生が語り、認定木材コーディネーターがそれぞれの活動を発表することで、受講後の目指すべき社会とのつながりや活動の方向性を伝えることができ、この講座の位置づけが正確に参加者に伝わったと考える。

受講生同士が切磋琢磨できる対面講座、具体的な現地実習を通してスキルを獲得していく演習講座が必要であり、今年の経験を踏まえて、オンラインというツールを使うことを視野に入れて、講座カリキュラムを全面的に見直し、来年度以降の開催へつなげていきたいと考える。

そして、今後は木材コーディネーターがより専門性の高い知識を習得し、地域でますます活躍していくための機会を提供することにより、受講者がそれぞれの立場で実施する木づかいと地域の持続的な森づくりの関係を意識する事業展開によって、地域の森づくりと木材利用に関わる社会的波及効果が期待できると考えている。

3．参加者の声

- 全体的に分かりやすく良かったです。
- 自分にとって他分野の話を聞くことができたので、考え方の幅や知見が広がりました。
- コーディネーターの役割が様々で広い知識と、調整能力が必要な事を知ることが出来ました。
- それぞれ異なる立場の方々の木材コーディネーターとしての取り組みを聞く事ができてよかったです。講師が「木材コーディネーターの役割は最終的に山に還元すること」と言われていたが、そこがいちばん大切で難しいことだと森林、木材流通に関わる立場として感じました。同時に、一般の方に森林や木材について関心を持ってもらう活動が必要だと改めて思いました。
- 活動発表を伺って、まさに木材コーディネーターとして、ご自身の立ち位置を活かして森側にもユーザー側にもしっかりとつながって、複雑な仕事をこなしながらもやりがいを感じて取り組まれている姿に感銘を受けました。
- 木材コーディネーターとしてのプロジェクト､関わり方の事例を知ることができました。また、

次世代に繋ぐという視点を常に持たれて活動されていることに共感と感銘を受けました。そして「地域」というワードが今後も重要課題のように感じました。

➢ 活動発表を聞いて感じたことですが、「地域、全体、未来の利益と個人の利益をバランスさせる」と言うのは簡単ですが、生き馬の目を抜くような企業、事業者との競争に晒されている現代社会において、実際に事業として成立させることは至難の業です。共につながり、森林の価値、木材コーディネーターの使命、役割を社会に認知させることが最も重要なことであると感じました。

■木材コーディネート講座オンライン版 2020 説明会　（単位　人）

	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60 歳以上	合計
北海道			1			1
東北						0
関東	1	2		2	1	6
北陸・中部		3	2	3		8
近畿	1	3	6	2	1	13
中国・四国		1	2			3
九州			1	2		3
合計	2	9	12	8	2	33

■木材コーディネート講座オンライン版 2020 連続講座　（単位　人）

地域 / 年齢層	20 歳未満	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60 歳以上	合計
北海道				1	1		2
東北							0
関東		1	6		6	1	14
北陸・中部		2	9	6	4		21
近畿		2	3	4	4	1	14
中国・四国			1	3		1	5
九州				1	2		3
その他	1						1
合計	1	5	19	15	17	3	60

※説明会を視聴してから連続講座を受講した方 30 人（50%）

※連続講座の出席状況について　（単位　人）

講座		第 3 回		合計	備考
第 1 回	第 2 回	参加	欠席		
参加	参加	35	10	45	北海道・九州全員、60 歳以上全員
	欠席	3	4	7	
欠席	参加	2	1	3	
	欠席	1	4	5	
合計		41	19	60	

森林生態系から考えるESDワークショップ
～憩いの場学校林の活用を通して地域課題を考える～

奈良教育大学附属中学校
〒630-8113　奈良市法蓮町2058-2

1．活動の概要

・ユネスコエコパーク（大台ケ原）、世界遺産（春日山）の活用を通して、森林の現状・課題について学ぶ機会を提供し、環境保全に対する意識を高める
・間伐材、本校裏山、その他森林から得られるものを用いて、森林の利活用を模索する意識を高める
・森林環境教育のリーダーの育成を目指して、自然のしくみ、安全確保などについての知識やスキルを身に付ける

2．活動の成果

本事業では、中学生を中心に奈良の森林環境問題を理解させるために、ユネスコエコパークや世界遺産を活用した。それらにより、現状を知り自然環境への保全意識を高める機会となった。また、自然保護に関わる方（社会の問題や環境の問題など）などインタープリターの協力もあり、教育の場としての活用についての指針を示すことができたことが成果となった。また、間伐、材の利用、遊び場の創作を通して森林に親しみを感じ、自ら森林の活用を考える子ども達が見られたことも成果となった。

3．参加者の声

大台ヶ原について全く知らなかったが、どれほど環境ががらっと変わっているかがわかった。お話を聞いていて、「自然環境は日々変化していくのだからこのままでいい」とか「やっぱり元の状態でないといけない」というような考えが出てきた。これが、保護が難しいという理由の一つなのではないかと思った。一度変わってしまったものは取り戻すのはとても難しいというのが感じ取れた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月20日	7月27日	8月2日	8月4日	…	計	備考
事業量又は事業内容		研修会	研修会	イベント	森林作業	…	19事業	研修会7事業 イベント8事業 森林作業6事業 （複数実施した事業有）
参加者数	県内 県外 計	17人 人 17人	17人 人 17人	8人 人 8人	37人 人 37人	…	385人 人 385人	
実施場所		奈良県　奈良市、桜井市、上北山村、下北山村						

森のようちえん×行政×自治体× SDGs

森のようちえん　ウイズ・ナチュラ
〒632-0123　奈良県天理市長滝長 294

1．活動の概要

過疎化地域における森のようちえんの役割を地域の方と感じ、持続可能な地域・社会をテーマに考える機会を創出することを目的として行った。コロナ渦で幾度と延期となる中、開催方法を何度も模索しながらの実施であった。マルシェと同時開催で別場所で森の体験の WS も展開したりステイホームの時間も増える中、家でもより理解を深めてもらえるよう媒体として小冊子をエコバックに入れて持ち帰ってもらった所、大変喜ばれ、その場だけでは伝えきれないコンセプトや想いも持ち帰って頂けたのではないかと感じている。マルシェでは地域の方も気軽に集いやすくそこで多くのブース展開を分散して行った。内容は以下に記す。

①地域の方にインタビューしたメッセージ内容の動画作成と上映②「持続可能な地域・社会」をテーマにしたお話会③森のようちえん卒園児による環境課題を考える絵の展示④閉鎖された地域のキャンプ場復活 PROJECT パネル展示⑤来場者に森のようちえん研究冊子・森のようちえんに通う保護者のエッセイ集・地域と森のようちえんの取り組みをまとめた小冊子配布⑥森のようちえんが環境を訴えるために描いた絵をバックにして配布⑦森を感じる自然の豊かさを体験できる WS を森で同時開催。

2．活動の成果

コロナ渦で生でのお話会開催が困難で地域の声を撮影して行ったが、その事がきっかけとなり顔を実際合わせてお話をしたり交流したり地域のこれからについて話をする機会となった。日頃の地域の方との関係性を改めて感謝しその気持ちを伝える機会になったり、地域の方にとっては活動内容を知る機会となり双方にとって子ども達が森のようちえんで参入することによって地域が元気になる！諦め掛けていたことに火がつく！高齢者の方の笑顔が増え元気な地域作りに貢献できたのはと感じている。これからもまだまだ活性に取り組める事もあるので、引き続き地域の方と多世代交流や根付いた良き文化や環境を活かしていきたい。また閉鎖されたキャンプ場の現在の利活用においてもパネルで報告したり、森で WS をしたりする中で森×人で可能性が無限に広がる事を感じて頂き、多くの方に森を大切にすることが人の安心安全な心身の健やかな暮らしに繋がる事も体験を通して感じて頂けたのではないかと思う。引き続き関係人口を増やし関心を高めて頂けるよう創出していきたい。

3．参加者の声

・森のようちえんの活動や SDGs の取り組みがよくわかった。
・ハルくんが描いた山から海への絵が非常に素晴らしく、話を直接したが返答が素晴らしかった。大人の一人としてハルくんのように環境を考えていきたい。
・森での WS で森で過ごす心地良さを感じた。帰りたくないと感じるほどだった。
また森で過ごしてみたくなった。
・ここまで環境のこと地域の事を考えて活動している事を知らなかった。応援していきたい。
・小冊子やハルくんのイラストが入ったエコバック。帰ったらじっくり読んで、色んな人に見せたいと思う。

実績報告とりまとめ表

<table>
<tr><td colspan="2">実　施　時　期</td><td>6 月 27 日</td><td>計</td><td>備考</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業量
又は
事業内容</td><td>てんり高原マルシェ開催
・動画上映
・パネル展示
・お話会
・森の WS 体験
・森のようちえん研究等小冊子エコバック配布</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">参加者数</td><td>県　内</td><td>100 人</td><td>100 人</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>県　外</td><td>0 人</td><td>0 人</td></tr>
<tr><td>計</td><td>100 人</td><td>100 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">実　施　場　所</td><td colspan="3">奈良県　天理市　山田町</td></tr>
</table>

しまね自然子育てセミナー

森のようちえん全国交流フォーラム in しまね実行委員会
〒699-5202　島根県鹿足郡津和野町左鐙 1480

1．活動の概要

コロナ禍においても、森のようちえんや自然保育の必要性、その質を高めること、そして自然を生かした子育てが、島根における子育ての選択肢としてより広がっていってほしいという目的のもとに、島根県内だけでなく、全国からの参加者とともに web 環境を利用した研修を開催した。

研修は、しまね自然子育てセミナーと題し、全 5 回に渡って zoom アプリを使用した無料のオンライン研修を行った。対象は自然子育てに関心がある保護者、幼児教育関係者、行政の関係者とし、島根県のみならず、全国各地から参加があった。

オンライン以外でもサテライト会場を設置して視聴を行うなどし、全 5 回の研修参加申し込み者数は延 2556 名だった。

また、研修後にセミナーの見逃し配信を希望する声が多数上がった為、その要望に応える形でアーカイブ配信を行うことで対応をし、アーカイブ視聴回数延 4848 回であった。

2．活動の成果

セミナーが自然子育てに対する参加者たちの想いを共有する機会ともなったことで、島根の自然子育てにおける意識や認知というものは確実に高まったことを実感している。実際、セミナー後に県内で自然子育てを行なっている施設に対しての問い合わせや、共催として今回のセミナー設営の母体ともなっているしまね自然子育てネットワークへの入会を申し出る教育団体や関係者もうまれた。

また、自然教育関係者だけでなく、保育施設や幼稚園、小学校の教員や行政関係者も多く参加したことで、保育や授業の中に自然を取り入れ、自然に触れる機会や時間を導入することを検討する教育従事者が異当たりと、県内における自然子育ての普及に大きな期待が持てるとともに、教育に対する選択肢が増えることにつながるものと考えられる。

3．参加者の声

- 学校づくり、地域づくり、子ども組織づくり、教員養成等の課題は教職大学院でも同じように課題として取り組んでいます。森のようちえんと大学がもっと交わって、多くの人と学ぶ場をつくりたいと思いました。
- 一人で全てやることが自立ではなく、助けてと言える人間になることがとても印象的で同感だった。
- ３歳と１歳の子供がいます。自然保育のことだけでなくわかりやすい説明でこれからの子育てに活かせそうです！子供達にも島根の自然で沢山遊んでもらいたいなと思います！
- 少しのヒヤリハットは自分への挑戦が印象的でした。また親切という名のおせっかいは自分もやっていないか、もう一度見直そうと思いました。
- 子どもと一緒に親も育て直しをしていく必要があると感じます。子どもが苦しんでいる後ろには、苦しんでいる親がいる。
- セミナー参加後に、トイレで用を足すのが、少し申し訳ない気持ちになりました。当たり前に思っていたことが、自然にとって、とても負荷をかけていることを意識し、セミナー聞いてよかったなと思いました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 23 日	9 月 6 日	10 月 24 日	11 月 21 日	12 月 13 日	計	備考
事業量又は事業内容	しまね自然子育てセミナー(web 研修) R2 年 8 月 23 日～12 月 13 日	第 1 回 自然保育への招待状	第 2 回 子ども時代にこそヒヤリハットを体験させよう	第 3 回 子どもも大人も自然体で育つ現場	第 4 回 世界はウンコとごちそうでできている	第 5 回 自然子育てのその先		
参加者数(申込)	県　内	198 人	144 人	107 人	79 人	122 人	650 人	
	県　外	553 人	383 人	290 人	294 人	396 人	1916 人	
	計	751 人	527 人	397 人	373 人	518 人	2566 人	
実　施　場　所		Web 上						

森林を活用したプレーパーク活動

特定非営利活動法人　隠岐しぜんむら
〒684-0403　島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

1．活動の概要

島の子どもたち全員に自然体験ができることを目指す弊団体が運営する森のようちえん『お山の教室』は、園児以外にも自然体験ができるように、森林でプレーパークをおこなう。

プレーパークとは、子どもが「やってみたい」と思うことを、実現できるようにめざした遊び場である。木登りやタイヤブランコや工作、焚き火など、自然の中で体を使ったり、モノづくりができる。スタッフが指示をだすのではなく見守り、場を整備することに徹することにより、子どもたちが自然の中で普段できないような思い思いの遊びができる場となる。

2．活動の成果

野外活動は天候にされやすく今回天候悪い日が多かったが、森のようちえんでは雨の中で活動していることから、警報がでなければ開催ということで、おこなった。来場者は少ないが、それでも遊ぶことができ雨の中でも開催できることがわかった。回数を重ねることで、ロープを使った遊びや木登りなど遊びが広がった。今年度は海士町（中ノ島）以外の隣の島（西ノ島･知夫里島）からわざわざ来場する方が数組あり、島外から参加も視野に入れプレーパークを継続しく予定である。

3．参加者の声

・子どもが焚火以外でもハンモックに興味をもち楽しみが増えました。木片に色をぬるのも毎回楽しみしています。
・知らなかった子とも仲良くなれて嬉しかった。
・自然の中だけど秘密のスペースのような雰囲気の中で子どもたちが自由に遊んでいるのは見ているだけで楽しい。
・木登りができた。赤ちゃんが抱っこできた。楽しかった。
・回数が増えてきて、娘も「今日プレーパーク！」と楽しみしており、親から離れて思い思い遊んでいて近所に子どもがいないのでとても助かっている。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11 月 7 日	12 月 16 日	1 月 17 日	2 月 6 日	計	備　考
事業量 又は 事業内容		森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動		
参加者数	県　内	26 人	34 人	23 人	64 人	147 人	
	県　外	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	計	26 人	34 人	23 人	64 人	147 人	
実　施　場　所		島根県　隠岐郡　海士町					

保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進

公益社団法人　島根県緑化推進委員会
〒690-0886　島根県松江市母衣町 55
島根県林業会館４階

１．活動の概要

保育園・幼稚園等における森林環境教育を進めるため、

①園児に対する森林環境教育出前講座の開催

②教職員に対する森林環境教育に係る研修会の開催

③園児に木に親しんでもらうための木製玩具（ブロック）の配付

を行った。

２．活動の成果

①森林環境教育出前講座の開催

県内の環境教育に関心のある８７園に通知したが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から園内での部外者の活動ができない園が多く、応募のあった２園での開催となった。出前講座を業務委託したＮＰＯ団体と当該園との間で緊密な打合せを行ったうえで実施することができた。

②教職員に対する研修会の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、オンラインでの開催となり、２４園の参加を得た。また、開催後１週間のアーカイブ配信も行った。今後の県内での幼児期の森林環境教育推進を２４園を足掛かりとして行っていきたい。また、併せてオンライン形式での研修会開催のノウハウを得ることができた。

③木製玩具（ブロック）の配付

②の研修会参加の２４園に対し、配付希望調査を行い、２１園に木製ブロックの配付を行った。

３．参加者の声

森林環境教育出前講座については、以下の感想があった。

出前講座を通じて、子どもたちは身近な自然環境に親しみを持つことができた。

園で行っている自然物の活用に際し、出前講座で学んだ「何の木なのか、どういう特徴があるのか」などの素材の説明も取り入れていきたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	月　日	計
事業量又は事業内容	出前講座	2 月 22 日 (川津幼稚園) 67 名参加	3 月 4 日 (サンチャイルド長久さわらび園) 50 名参加		
	研修会			2 月 25 日	
参加者数	県　内	67 人	50 人	34 人	151 人
	県　外	人	人	人	
	計	67 人	50 人	34 人	151 人
実　施　場　所		(出前講座) 島根県松江市・大田市　(研修会) オンライン			

おかやま木育活動（木工・自然クラフト体験・森林環境学習）

おかやま木育クラブ
〒719-1136　岡山県総社市駅前 1-9-10-14

１．活動の概要

木材など山の恵みを使って行う木育活動を通じて、森林・林業の現状や森林保全、木材利用等について、広く一般の理解や関心を高めることを目的とする。

事業は、県内一円で親子などの一般を対象とした参加費無料の木育活動を行うとともに、幼稚園や子供会等の開催依頼を受けた木育出前教室を開催する。

２．活動の成果

本事業により岡山県下の津山市ほか４会場において、延べ４１１人が活動に参加した。

毎回、子供も保護者も一心不乱に木を触り、自然素材を使った体験に驚きや学びの感想が寄せられている。

特に幼稚園では、幼児教育としての木のふれあいや親子一緒に工夫しながら学ぶ活動が少なく、この活動が貴重な機会となっている。

３．参加者の声

・ヤスリは疲れたけど、木がツルツルになって良かった。（子ども）
・かっこいい車が作れて良かった。（子ども）
・木をヤスリで擦ると、ヒノキの香りがして自然を楽しめました。（保護者）
・一つ一つ丁寧にヤスリをかけたり、ボンドで接着できるよう別の木で支えておいたりするなど、園児たちの成長が感じられ、オリジナリティのある車を作ることが出来ました。（教職員）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		計	備考
事業量 又は 事業内容	おかやま 木育活動	延べ５日 R2.7 ～ R3.6	
参加者数	県　内 県　外 計	人 人 411 人	
実　施　場　所		岡山県　津山市ほか４会場	

里山保全の普及啓発事業

NPO 法人　倭文（しとり）の郷
〒709-4623　岡山県津山市桑下 29-1

１．活動の概要

里山では若年者の減少、高齢化、森林の荒廃が進行し、有害鳥獣の棲息地と化しその維持管理が困難となってきている。このような状況の中で、今年に入り、コロナウイルス感染の影響により欧米諸国からの木材輸入が減少し、国内木材価格が高騰している。40 ～ 50 年生の人工林を保有する地域住人の関心を集め、今後の動向が注目されている。

２．活動の成果

当ファンドの支援を受けて７回目の取り組みとなった当年度は、森林が有する機能についての啓発を中心として実施した。計１３回（うち２回は中止）のイベントを企画して、県内都市部から１９６名が参加した。地元小学校への出前授業「巣箱の製作」を継続実施したほか、「夕闇昆虫探検」では樹林に棲むカブトムシ、クワガタ等の夜の生物に直接触れることができた。また、小学生を対象にしたツリークライミングの人気が高く多くのマスコミからの取材があり、その実施状況が津山市広報誌のカバー写真に採用された。一方、大人を対象とした椎茸植菌、カズラ篭・杉玉ずくりなどに多くの参加者があった。キノコ鑑定会、野鳥観察会、植物観察会では、知識豊富な講師陣の指導により絶滅危惧種等の発見、保全活動を実施した。新型コロナウイルス感染防止緊急事態要請に伴い、2 回の行事を中止したが、三密とは無縁の環境での暮らしや地域社会づくりの必要性を参加者と共有した。

３．参加者の声

小学生の保護者から学校ではできない夕闇の中でのクワガタやカブトムシ観察会は貴重な体験となった。親子で参加したシイタケの植菌は、菌床きのこがほとんどになった昨今の食料事情の中、得難い体験であった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/15、9/30、10/11	1/16、3/6	11/24 11/29	2/4、11/13	2/20	5/10
事業内容		昆虫探検、秋に鳴く虫鑑賞会、きのこ鑑定会	野鳥観察会	カズラ篭づくり、杉玉づくり	小学校巣箱製作、ツリークライミング	原木キノコの植菌体験	植物観察会
参加者数	県内 県外	25、13、31 1	10、7	27、10	17、29	21	5
	計	70 人	17 人	37 人	46 人	21 人	5 人
実施場所		岡山県　津山市　倭文（しとり）地区					

「とくしま木づかいフェア２０２０」の開催

とくしま木づかい県民会議
〒770-8001　徳島県徳島市津田海岸町 5-13

１．活動の概要

県民の皆様に木材とふれあう機会を提供し、木材の良さを実感してもらうことを通じて、木づかい意識を一層高めるとともに、利用の拡大を目指し「とくしま木づかいフェア２０２０」を開催した。

木材需要拡大の取り組みとして下記の内容でイベントを実施した。

①オープニングセレモニー
②木づかいアワード表彰式
③すぎの木の玉プール抽選会
④木製ユニットワークショップ
⑤スタンプラリー抽選会
⑥すぎ製パターゴルフ大会
⑦会員等による出展（８張）
⑧専門家による木の家の暮らし相談

２．活動の成果

コロナ禍の影響で客足が心配であったが、たくさんのお親子連れに来場いただいた。例年実施しているような体験型イベントはできなかったが、木材の展示を工夫することで楽しんで頂けたと感じている。このような普及啓発は継続的に実施することが重要であることから次年度以降も効果のある催しを実施し、木材のファンを増やしていきたい。

３．参加者の声

コロナ禍の影響で、木工教室や木の遊具コーナーの出展を見合わせたことにより、今年は展示中心のイベントとなったため、多くの方から来年は体験型コーナーを復活して欲しいとの要望があった。

木製のパターゴルフコースは思った以上にカップインしないところが楽しいと好評であった。また、木製ユニットについても、是非自宅に設置したいとの声もいただいた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10 月 17 日･18 日	備考
事業量 又は 事業内容		「とくしま木づかいフェア 2020」の開催	
参加者数	県内外	計 3,699 人	
実　施　場　所		徳島県　板野町　あすたむらんど徳島	

海ギャラ Chill Out ～竜串に東大から遍路小屋が旅して来る～

海ギャラ Chill Out 実行委員会
〒787-0452　高知県土佐清水市竜串 23-8

1．活動の概要

「海のギャラリー」の建築的再評価を目的に、同建築と同じく＜空間の骨格＞を志向する東京大学木質材料学研究室の五月祭木質作品を「旅する遍路小屋」に見立て、11 月の約 3 週間移設展示した。展示期間中には、ギャラリートークやシンポジウム、お接待や BOOKCAFE 等の関連プログラムも開催した。11 月 7 日の建方や 11 月 29 日の解体には同大学研究室の他、地元職業訓練校や工業高校が参加し、実行委員会には建築士や観光関係者有志が加わる等、木材・建築・観光・教育団体が連携して取り組んだ。

2．活動の成果

木質作品の展示期間に様々な関連プログラムを開催したこと、また会場が観光周遊経路に位置したことから、建築関係者ばかりでなく地元住民、観光客など多様な方に来場いただいた。見学者には、実行委員が四万十ヒノキや木質作品、また木造建築を巡る現況等を解説し、木材利用の PR を行った。好評であった木質作品は、地元職業訓練校の授業の一環として、かつ近隣観光施設のイルミネーション舞台として再移設されている。

3．参加者の声

軸材を積層して球体が形づくられていることへの驚きとともに、3 週間後の解体を残念がる声が多く聞かれた。個人・公共的な空間にほしいとの声も上がっていた。また、地元の職業訓練生や高校生が建方・解体に参加したことについて、有意義なものであるとの評価をいただいた。シンポジウムでは、第一線で活躍する木質構造設計者が登壇したこともあり、ここ数年で最もよいシンポジウムであったとの声をかけていただいた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		平日	休日	計	備考
事業量 又は 事業内容		木質作品展示	ギャラリートーク シンポジウム 建築ツアー お接待 BOOKCAFE 等		
参加者数	県　内 県　外 計	県内外内訳不明 約 20 人× 14 日 約 240 人	県内外内訳不明 約 100 人× 7 日間 約 700 人	—人 —人 約 1,000 人	計は、建方・解体参加者等を加えた数字としている
実　施　場　所		高知県　土佐清水市			

オンライン連続講座「生き物豊かな森づくりを目指して」

ふくおか森づくりネットワーク
〒834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9767-4

1．活動の概要

九州の森林ボランティア団体、林業関係者、研究者、一般市民が集まり、生物多様性の観点から、森林の管理・利用のあり方を考えることを目的とした。オンライン講座（講演後、休憩、質疑）。

(1) 1/27（水）講座「生きもの豊かな緑地管理」
神保賢一路氏・かのこ環境大学

(2) 2/17（水）講座「人工林と生物多様性」
山浦悠一氏・森林総合研究所 四国支所

(3) 3/3（水）　講座「林業従事者から見た生物多様性」
田仲一成氏・田仲林業

2．活動の成果

オンライン開催により、従来の参加者の他、県内外の新たな参加者を得ることができた。第 1 回から第 3 回まで、身近な緑地～林業概要～林業現場という流れの中で、生物多様性の観点から森林づくりについて、参加者と共に考えることができた。受付時に使用した peatix を活用し、講義後の追加情報の提供ができた。今回不参加だった過去参加者にも報告書を送付し、理解や交流を広めることができた。

今後は、今回の講座で得た知見を関係者の活動で小規模でも実践の試みが望まれる。また、オンラインや対面で、森林や林業を核に交流や、考える機会を続けていきたいと考えている。

3．参加者の声

・生物多様性のために環境を管理することは費用と生き物を起点に考えがちですが、その前に人が楽しみながら使うという前提があるだけですごく豊かな気持ちになります。
・幼齢林≒草原という視点もおもしろかったです。
・林業従事者として大変興味深く拝聴しました。木を刈りながら（現行林業を生業としながら）生物多様性を実現できるのであればぜひ実行したいと考えています。
・林業の現場で働く方の声をふだん聴くことはないので、大変興味深く拝聴しました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		1 月 27 日	2 月 17 日	3 月 3 日	計
事業量 又は 事業内容	16:30 ～ 20:30	講座「生きもの豊かな緑地管理」	講座「人工林と生物多様性」	講座「林業従事者から見た生物多様性」	
参加者数	県　内 県　外 計	20 人 23 人 43 人	32 人 35 人 67 人	38 人 53 人 91 人	90 人 111 人 201 人
実　施　場　所		オンライン（zoom ミーティング）			

2017 年九州北部豪雨後の景観づくりによるコミュニティ再生

平榎復興委員会
〒 838-1521　福岡県朝倉市杷木志波 3304-1

1．活動の概要

2017 年の九州北部豪雨で平榎集落は大きく被災し、戸数は半減（37 → 19 戸）し、生活の糧である柿生産規模も減少（9 → 5ha）したことで、集落の機能や経営の立て直し、集落の維持発展が求められ、今回、人が集うような景観づくりを目ざしました。そのシンボルとして見晴台を設置し、花と緑の満喫できる場所づくりに取り組みました。見晴台は被災し管理できなくなった柿園（標高 200 m、面積 20 a ）を借受け、委員会メンバー、平榎区民、他出者（元区民）、九州大学災害復興支援団、志波コミュニティ、朝倉普及指導センターなど多くの関係者の協力のもと草刈り・樹木伐採・散策道整備から始め、当初決めていた四季折々の花と樹木（サクラ、ツツジ、アジサイ、サルスベリ、モミジ等）を準備し、植樹の位置を決め、シカ・イノシシ対策用の防護ネット設置や大苗の植付け、平榎区民・他出者を中心に地元小学生（25 名）、復興関係者、支援団体等約１１０名の参加による「平榎復興植樹祭」を開催し全ての方に祈念植樹（120 本）をしていただきました。仕上げとして、看板・パネル・椅子の設置をして作業を終えました。

2．活動の成果

成果として、災害で集落を出た人や支援者の方々との交流の場ができたこと、改めて地域に誇れる景観と場所（見晴台）ができたこと、地元児童とその支援団体（あす・くる）との交流や植樹体験活動に寄与できたこと、参加者全員に祈念植樹（植樹者の名札付）ができて末永く愛着と見守りができること、集落民全員の協力で集落を守る姿勢ができたこと等が挙げられる。

これからの取組としては、樹木の育成と見晴台の維持管理、関係道の整備、地域内外へのアピール、年間を通じて交流の場となる仕組みづくりが挙げられる。

3．参加者の声

・復興委員からは、住民の憩いの場と地区外の方が気軽に立ち寄れるとありがたい。
・住民からは、足腰を強くするため散歩場所にするなど、弁当持参で行きたい。
・他出者からは、この取組に感謝します。戻りたい気持ちと新たな気持ちが入り乱れています。
・支援者からは、将来のこの地域の農業を見据えて誰が担うのか一緒に考えていきましょう。と九州大学から大学の調査、取組みへの協力に感謝とこれからの村づくりの一歩と思われる。

との意見を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7/22、9/8、12/17、3/29	8/23、8/25	9/27、10/4	10/31、11/1、11/2	11/29
事業量又は事業内容		会議	草刈り、 伐採作業 植樹位置検討	散策道整備 植位置目印	桜大苗購入(13 本) 植樹作業 防護ネット設置 防草シート設置	柿の実紅葉観察会 植樹位置最終確認
参加者数	県　内	57 人	34 人	18 人	31 人	25 人
	県　外					
	計	57 人	34 人	18 人	31 人	25 人
実　施　場　所		公民館	現地(朝倉市)	現地	現地	現地

実　施　時　期		12/27、12/28	R3.1/29	3/3	3/6	4/17	計
事業量又は事業内容		寄贈大苗堀と移送 植樹作業 30 本 モミジ、サルスベリ、イチョウ等	植樹祭事前検討会 参加者、 パンフ等	植樹祭事前準備 苗木配置、 桜、モミジ、ツツジ、アジサイ等 120 本	復興植樹祭式典 祈念植樹 120 本 歌（あさくる）	パネル等設置作業 防護ネット設置（補充）	
参加者数	県　内	27 人	15 人	7 人	110 人	12 人	336 人
	県　外						
	計	27 人	15 人	7 人	110 人	12 人	336 人
実　施　場　所		現地	現地	現地	現地	現地	

森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ

特定非営利活動法人　森林をつくろう
〒842-0202　佐賀県神埼市脊振町鹿路 585-1

1．活動の概要

木造住宅の提案募集や講演会を通じて、若い学生をはじめ多くの方々に、水土保全機能を有し緑豊かな森林を継承していくためには、林業や木材利用も欠かせないことを理解してもらう。

※新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止のため、「新・木造の家」設計コンペ事業は中止としたことから、住宅見学会の開催や「新・木造の家」設計コンペ事業の開催意義等を記載した冊子作成に取り組み、学生のみならず、一般市民に向けて、森林保全のための林業や木材利用の重要性を伝えることとした。

【内容】

(1) 林業体験事業

・希望者を募り、数日間の林業体験事業を開催。資格を有した指導者のもと、下草刈りや伐採を体験してもらう。通年、森林所有者との交流会を開催していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、現地で参加者に対して、所有者の取り組みや森林に対する思いを説明した。

(2) 住宅見学会

・新型コロナウィルス感染拡大防止のため、完全予約制で地域の木材や土などの自然素材を活用した木造住宅の見学会を開催した。

(3) 冊子作成

・新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止となった、「新・木造の家」設計コンペ事業実施に代えて、事業実施の意義や過年度参加者の感想等を掲載した冊子を作成。

2．活動の成果

水を蓄え空気を循環させる機能を持つ森林を、後世に継承するためには、森林が適正に手入れされ、木材を利用する環境づくりが欠かせない。当初申請した事業は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、止むを得ず中止や内容変更することになったものの、木造のことも学ぶ機会の少ない大学等で建築を学ぶ学生ほか、一般市民に向けて、林業体験や森林に触れる場を提供することができた。この事業により、木材利用や林業の活性が森林保全にとって重要だということに気づいてもらい、多くの方に、木材利用の重要性を理解してもらうきっかけになった。一人一人の小さな理解が、やがて森林の手入れを促し、水土保全機能を有する緑豊かな森林形成へとつながり、ひいては山村の活性につながるのではないかと感じることができた。

3．参加者の声

【林業体験】

・伐採した木が倒れる瞬間を初めてみた。とても感動した。

・主催者の「年輪」の話がとても印象に残った。

【住宅見学会】

・環境のことや健康のことを考えると、国産の木材を使うことを希望するが、なかなか難しい現実がたくさんある中、見学会で立てられることを知って嬉しかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容		林業体験	住宅見学会		
		【実施日】 12 月 12 日 3 月 27 日	【実施日】 2 月 27 日 2 月 28 日		
参加者数	県　内 県　外 計	12 人 17 人 29 人	10 人 10 人 20 人	22 人 27 人 49 人	
実　施　場　所		佐賀県・神埼市　佐賀県・佐賀市　福岡県・那珂川市			

森と水を学ぶ面白塾

九州森林インストラクター会
〒860-0071　熊本市西区池亀町 19-13

1．活動の概要

コロナの流行により 4 月から開始するつもりであったが、開催できなかった。熊本県のコロナ発生状況を見ながら、感染対策を考えて実施することを検討していたが 6 月までは実施できなかった。

7 月はエハガキで、室内で行うことから、できる限りのコロナ対策を行い、申し込みのあった者を対象に連絡して開催した。スタッフを含めて10名で開催、間隔を取り全員マスクをして実施した。

コロナ対策もして有効に開催できたと評価した。しかし、第 2 波の流行により 8 月、9 月と開催を控えた。

10 月になって検討した結果、森での開催は実施できると判断した、熊本市の都市近郊林である、立田山で実施し、11 月金峰山、と実施した。参加者もコロナ対策には積極的な協力をいただき万全を期することができた。このことを踏まえて、12 月はリース作りを実施した。

外出を控えていたので参加者には好評であった。しかし、12 月からさらに流行が大きくなり、集合してのプログラムは実施できないと協議して、面白塾は、3 月まで実施しないことを決めた。

しかし、塾生に対して自宅で楽しむことはないかと検討して、過去のプログラムの結果動画を提供することによって、森の不思議や過去の森歩きを思い出していただき、有意義な日々を送ってもらうように、1 月から 3 月まで 3 回の動画配信をして心のケアに資した。

2．活動の成果

コロナの感染状況を見ながら、検討して実施したが 4 回しか実施できず、参加者も少なかった。

このことは、コロナの予防対策を検討しながらの実施したことからやむを得なかったと判断した。

コロナ対策で家にこもっての生活の中、4 回実施できたことは、参加者の心のケアに相当、効果があったと自負している。このことを踏まえて、私たちが過去にしたプログラムの内容の動画を塾生に配布して、私たちの活動を、塾生を通じて大いにアピールできたと考えている。

今回は、国を挙げてのコロナ対策のためにプログラムが実施できなかった。こんな中、私たちの樹木に対する資質を認めていただき、日本森林林業振興会から、市内小学校 4 校について樹名板設置の委託事業があり実施した。日頃の活動から得た成果であったと自負している。

3．参加者の声

コロナ対策で塾生は家にこもっての生活であったことから、参加者には久しぶりのプログラムに興じていただいた。

絵手紙、クリマスリースについては、会員の関心のある項目であったことから好評を得た。今年は小正月の餅飾りのモチーフも作成して盛り上がった。また絵手紙も書き終わった後、はがき用額縁に入れて、講師に解説を聞きながら見る絵はがきには、見栄えがすると本人が感動していた。解説が終わるごとに拍手がわき盛会であった。

熊本市近郊林の立田山と金峰山への植物観察は、久しぶりに森を歩いての観察だったので話がにぎやかになり、歩きやすかったこともあって、疲れることも無く元気で観察を実施できた。自然を満喫して、良かったとの感想が聞かれた。

動画配信については、身近な森 4 か所、西表島や白神山地の遠征箇所の動画には、「感激」したとメールをはじめハガキや手紙でお礼が合わせて 19 通もいただき、思いのほか好評であったと評価した。コロナ禍であったが、感染防止の対策を取り、万全を期したイベントには参加者から大いに評価された。

参加者実績表

実施月日	事業内容	場所（熊本県）	参加者 熊本県内	参加者 熊本県外	参加人員
4：27	春植物	雁俣山	中止		
5：25	ミヤマキリシマ	黒岩山	中止		
6：22	植物観察	高森野草園	中止		
7：19	絵手紙	監物台樹木園	10 人	0	10 人
8：24	秋の七草	鞍岳	中止		
9：21	天草	竜洞山	中止		
10：26	ドングリ	立田山	12 人	0	12 人
11：21	紅葉狩	金峰山	9 人	0	9 人
12：12	リース作り	監物台樹木園	12 人	0	12 人
1：25	陶芸	監物台樹木園	中止		
2：22	竹炭焼き	県指導所	中止		
3：7	フクジュソウ	元井谷	中止		
計			43 人	0	43 人

1 ～ 3 月は動画配信をしました。

第 25 回九州森林フォーラム in 熊本県小国町
～森林を守り、活かすために：市町村による森林行政の可能性と悩みを共有しよう～

NPO 法人　九州森林ネットワーク
〒 869-2501　熊本県阿蘇郡小国町宮原 1802-1
小国町森林組合事務所内

1．活動の概要

国土の 7 割近くを占める森林をめぐる制度が近年、大きく変わりつつあります。域内の森林を適切に管理するために、市町村に様々な役割と財源が移行されています。森林法の改正、2018 年の森林経営管理法の制定、森林環境譲与税の市町村への配分などです。

こうした森林政策の市町村重視の背景には、長期の木材価格の低迷、戦後森林を守り手であった森林所有者の高齢化とリタイア、経営継承がなされないまま荒廃化する森林の増加という現状があります。森林の所有境界が不明や所有者がだれかがわからなくなっている状況が各地で広がっています。基礎自治体である市町村に、森林所有者の経営管理の意向を確認することが求められています。一方で、九州ではバイオマス発電用や合板用の木材需要が高まり、主伐による素材生産の増加の中で、環境に配慮した伐採への誘導や再造林の担い手確保も市町村に求められています。さらに、気候変動の中で激甚化している自然災害や都市部でのヒートアイランド現象の中で、地域住民の意見も取り入れた多様な森林づくりが求められています。

森林を守り、活かすことが求められる市町村ですが、自治体職員が森林行政に配置できない、専門知識が十分ではないなどの課題も抱えています。

第 25 回目となる九州森林フォーラムでは、テーマを「森林を守り、活かすために：市町村による森林行政の可能性と悩みを共有しよう」として北海道大学大学院農学研究院教授柿澤宏昭先生に森林政策における市町村の位置づけを歴史的に振り返りつつ、可能性と課題について基調講演をお願いしました。パネルディスカッションでは林政アドバイザーとして市町村行政に関わる、にちなん中国山地林業アカデミー教育運営科長兼日南町役場地域林政アドバイザー小菅良豪氏、都市部自治体を代表して福岡市農林水産局総務農林部森林・林政課林政係長岡本拓二氏、市町村をバックアップする都道府県から長崎県島原振興局農林水産部林務課長宇土和彰氏と柿澤宏昭先生を交え、参加者の皆さんとともに森林をめぐる課題とそれを管理する市町村の可能性、抱える悩み、解決策のヒントを共有しながら議論することで、今後の林業や森林行政等の問題解決に必要なことを話し合いました。

2．活動の成果

今回のテーマ「森林を守り、活かすために:市町村による森林行政の可能性と悩みを共有しよう」として森林経営管理法、森林環境譲与税、森林行政を採り上げフォーラムを行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため､会場を制限しオンライン（Youtube）での同時配信をおこなった。オンラインでの視聴は見やすく分かりやすかった等の意見がありました。

フォーラムの内容に付いて、市町村行政が抱える問題があり共感できる事も多くありました。林業を取り巻く情勢は非常に厳しい、担い手後継者不足、山離れ、私たちが生きていく上で非常に大事な役割をしている森林でありながら関心が薄れてきている、林業の専門職ではない市町村が事業主体である、新たな目的税として今スタートしている森林経営管理法、森林環境譲与税をどのように活用していくのか、森林をどのような形で次世代に伝えていくのか、今まさにチャンスの機会ではないのか、地域を取り巻く多くの人、組織と連携し創造して造り上げる事業であることが見えてきました。

３．参加者の声

・事例発表とパネルディスカッションが特に面白かったです。地域ごとの現状や課題を実際に担当されている方からの声を直接聞けることで、森林行政の全体像と課題への理解が少し深まりました。パネルディスカッションのコーディネーター―佐藤先生の運び方もわかりやすかったです。またオンラインもとても視聴しやすかったです。有難うございました。

（設計　50 歳代）

・行政の取り組みと民間が融合できると可能性が広がるような気がしました。自由度の高い税があることをうまく活用して欲しいし、お手伝いが出来ればと感じました。日南町のように次世代と木材を結びつける事業活動が、今後のヒントとなる気がしました。

（林家・木材業　40 歳代）

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		12 月 11 日	12 月 12 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		フォーラム 「基調講演　北海道大学大学院農学研究院　教授　柿澤宏昭氏」 「事例発表　3 件」 「パネルディスカッション」	現地見学会 「WOODALC 倉庫」 「若宮木材共販所」 「令和 2 年 7 月豪雨山林被害地」		
会場参加者数	県　内 県　外 計	14 人 26 人 40 人	4 人 2 人 6 人	18 人 28 人 46 人	
オンライン 参加申込数		47 件		47 件	
視聴回数		171 回		171 回	
実　施　場　所		12 月 11 日熊本県　小国町　おぐに町民センター（206 ～ 209 号室） 12 月 12 日小国町			

観察会を通じて森への理解を深めよう！

スマイリー
〒892-0847　鹿児島市西千石町 7-22
カーサグランデ 301

1．活動の概要

森や川で遊ぶということはあっても森や川を観察するという機会は少ない。問題意識を持って生き物や植物を観察することで森林・自然保護・保全の必要性に気づいてもらうことを目的に下記の４回の事業を実施した。尚、川辺の観察会は９月に実施する予定だったが学級閉鎖などコロナウィルス感染拡大の為、中止した。

森の生き物観察会　夏・冬（２回）
野鳥観察会（1 回）
植物観察会（1 回）

2．活動の成果

屋外での活動ではあったが感染拡大を懸念し、検温・消毒を徹底し、マスク着用で行った。

参加した子ども達は、事前に講師から説明を聞いていた関係で日常何気なく目にする風景（植物が生えてる・鳥が飛んでる）をいつもと違う目で観察していた。このように知識や好奇心などを植え付けることによって子ども達の興味は違ってくる。なぜ森を守らなければならないのかを生き物・植物など違う角度から学ぶ事によって意識づけられたのではないかと考える。今後も生き物や植物を通じて自然のあるべき姿を知ってもらう活動を行っていきたい。同時に自然を保護する必要性や自然を守る意義についても教えていきたい。

3．参加者の声

・いつも見ている鳥の名前や生態を初めて知った。
・野鳥はどの季節も同じ鳥がいるものだと思っていたが冬は渡り鳥が多いことを知った。
・気をつけて見ているといつも見る感じとはちがって見えた。
・森があることによって鳥たちの住家は守られているんだというのがわかった。
・今まであまり興味のなかったことに興味をもった。
・植物の名前・鳥の名前を知ることができた。
・植物の種類によって生息している場所が違うことを知った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 20 日	10 月 17 日	12 月 20 日	備考
事業量 又は 事業内容		森の生き物観察会 夏	野鳥観察会	森の生き物観察会 冬	
参加者数	県　内 県　外 計	20 人 人 20 人	24 人 人 24 人	18 人 人 18 人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市　下福元町・春山町・中山町			

実　施　時　期		2 月 20 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		植物観察会		
参加者数	県　内 県　外 計	23 人 人 23 人	85 人 人 85 人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市　平川町		

産学連携による横断的な森林環境教育

NPO 法人　こどものけんちくがっこう
〒890-0065　鹿児島市郡元 1-21-40

1．活動の概要

こどものけんちくがっこうは、小学 3 年生から中学生までを対象に、森林から木材、木造建築に関する座学と実習を織り交ぜた授業を通年で行なっている。

令和 2 年度は、当初、自然体験を軸とした森林環境の授業と、コンポストトイレの建設授業を予定していたが、コロナ禍の影響によりオンラインによるものづくりを中心とした環境・建築教育に内容を変更して実施した。2020 年 7 月～ 2021 年 5 月の期間、2 時間 / コマの授業を難易度・内容別に、月に 3 コマ実施した。生徒は各コマ 15 名程度を定員とし、小中学生を対象にインターネットで全国から広く公募した。また、8 月には夏休み特別授業として、計 6 コマの授業を実施した（8/17-19、2 コマ / 日、2 時間 / コマ）。授業に用いる模型キット等を事前に郵送し、授業当日は ZOOM で教室と生徒の自宅をつなぎ、座学と工作を組み合わせた授業を行った。また、海外在住の日本人に講師を依頼し、現地の住環境や住宅などについて、カメラで室内や街の様子を映しながらライブで解説をしていただく「世界の住まいを学ぶ」授業も行った。

2．活動の成果

計 25 コマの授業を実施し、169 名（県内 106 名、県外 63 名）の参加者を得た。オンライン授業では、場所の制限無く参加者を募ることができる為、環境･建築教育のより広い波及が期待される。実績として、県外（北海道、千葉、東京、神奈川、埼玉、群馬、愛知、金沢、大阪、和歌山、岡山、広島、福岡、熊本、佐賀、宮崎）や海外（韓国、イタリア）、離島（屋久島、種子島）からの参加者を得た。後半は、県外からの参加者が過半をしめた。また、自宅で授業を参観できる為、保護者や兄弟も含め幅広い年齢層へ活動を展開できた。模型等の製作や､自宅を教材とした授業により、オンラインでも対面と遜色のない授業を実施することができたと実感している。

今年度は、対面とオンラインでの授業を並行して実施しており、それぞれの特徴を活かした授業プログラムを継続的に実施していきたい。

3．参加者の声

他に例のないオンラインによる環境・建築に関する授業は、自宅で気軽に受講できると好評で、特に県外からの参加者はリピート率が高かった。また、海外とライブでつなぐ授業は、質問等を交えた講師との双方向のやりとりは好評を得た。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1）夏季特別オンライン授業 2）オンライン定期授業	1）8/17－8/19 2）7/18,10/24,11/28,12/19,1/23,2/6,3/20,5/1	10 日間	
参加者数	県　内 県　外 計	106 人 63 人 169 人	106 人 63 人 109 人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市　＊オンラインのため参加者は全国から		

女性目線の森林セラピー事業

特定非営利活動法人　鹿児島ボランティアバンク
〒892-0842　鹿児島市新屋敷町 16 公社ビル 324

1．活動の概要

森の体験は身体が丈夫じゃないと出来ないと思っている人も多い。しかし森には人のこころを癒す効果もある。新たな森の魅力を発信することで森に興味をもつ人を掘り起こすことを目的に実施した。

実施内容

子どもや女性・障害者・高齢者でも安心して楽しく参加できる体験にする為、４つのプログラムで身体にやさしい森林セラピー体験を実施した。同時に活動を安心･安全なものにする為､サポートできるボランティア等を確保し各回下記の内容を盛り込んで実施した。

１．見る・・山の散策をしながら野鳥観察を交え美しい風景を見て描写をする。
２．聞く・・鳥の声・川の水の流れ・木々のざわつきなどを聞く。
３．嗅ぐ・触る・・木や植物・花の香りの違いや木の幹など日常あまり気に留めないものに意識をもって触れる。
４．味わう・・シイタケ収穫などを楽しむ。

すべての回、ネイチャーゲームや体操等を取り入れ楽しい体験とした。

2．活動の成果

森を多様な人たちに楽しんでいただきたいとの思いで今回の事業を実施した。今回は障害児・者の参加も初めてという参加者も多かったが人の持つ多様性を重視し、それぞれがもつ感性を育む活動となった。

今後の活動としては今回のような誰でも気軽に参加できる自分のペースや感覚で森を楽しめるような活動を行っていき、今まで森に興味のなかった女性・障害者・高齢者等の不安を払拭し、気軽に参加できるイベントとすることで新たな層への環境啓発を図ることができた。

3．参加者の声

・初めて森の活動に参加した。自分なりのペースで楽しめてよかった。
・ただ歩くだけでも色んな楽しみ方があることを知った。
・シイタケ収穫は初めての経験だったが楽しかった。
・山でのスケッチが楽しかった。
・虫や植物を虫眼鏡で見たが、今まで気づいてないがたくさんあった。
・川の流れや鳥の声を聞くだけでこんなに癒されるのかと初めて気づいた。
・樹の香りを今まで嗅いだことなかったが樹によって違うことがわかった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		9 月 20 日	11 月 15 日	備考
事業量 又は 事業内容		聞く (鳥の声・川の水の流れ・木々のざわつきなどを聞く)	見る (山の散策・野鳥観察・スケッチ)	
参加者数	県　内 県　外 計	22 人 人 22 人	30 人 人 30 人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市・春山町・城山町・下福元町		

実　施　時　期		1 月 17 日	4 月 4 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		味う (椎茸収穫)	嗅ぐ・触る (木や植物花の香の違いや木の幹など意識をもって触れる)		
参加者数	県　内 県　外 計	25 人 人 25 人	19 人 人 19 人	96 人 人 96 人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市　春山町・城山町・下福元町			

R2 年度森林ボランティアの日活動　in「馬事公苑の森」

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒892-0816　鹿児島市山下町 9-15

1．活動の概要

9 月第 3 日曜日の全国一斉「森林ボランティアの日」に因み、森林を守り育てることの大切さを広く周知し、県民一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する機運を醸成するとともに、森林整備活動に参加することの意義を広く発信するため、県内の森林ボランティア団体が中心となって森林整備活動を行い、豊かで多様な森林づくりに取り組んだ。

第 18 回目の活動となった今回は、南九州市川辺町「馬事公苑の森」にて実施した。

前日まで雨が降り多少の心配もあったが、当日は運良く天候にも恵まれ予定どおり開催することができた。森林ボランティア団体や、県・市の関係者等、総勢 145 名の協力のもと、当初予定していた植樹や下刈、広葉樹（クヌギ、サザンカ）の断幹整枝、遊歩道の階段工整備や林内へのチップ散布作業等の全てを完了することができた。また、後日、樹木医会鹿児島県支部の指導のもと、サクラのてんぐ巣病処理を行い、健全かつ多様な憩いの森が完成した。

2．活動の成果

現地は南九州市に位置し、以前から、森林ボランティア団体が森林環境学習や森林整備フィールドとして活用している。今回さらに、広範囲にわたり、植栽、下刈、林内歩道整備、樹木病害の防除が出来た。馬事公苑の森は、ボランティア有志および地域有志で組織された NPO 法人による維持管理体制も整っているため、観光面からも今後ますますの地域の活性化が図られるものと期待している。

3．参加者の声

・年に 1 回の活動であるが、自分でも役立てることがあると楽しみにしている。
　体力が続く限り、参加して協力していきたい。
・林内の歩道にウッドチップが敷かれ、歩いた時のフワフワとした感触や木の香りが心地良い。今度、家族も連れてゆっくり林内を歩いてみたい。
・森林も手をかければかけるほど、素晴らしい森林になっていく。子どもを見守るような気持ちで、これからも育樹活動に携わっていきたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		～9 月 18 日	9 月 19 日	R3 年 2 月 20 日	計	備考
事業量			記念植樹（5 本）、植樹 200 本			
事業内容		準備作業	下刈、広葉樹の断幹整枝、除伐、歩道整備（階段工・チップ散布）	サクラのてんぐ巣病処理		
参加者数	県　内	14 人	145 人	14 人	173 人	
	県　外	人	人	人	人	
	計	14 人	145 人	14 人	173 人	
実　施　場　所		鹿児島県　南九州市　「馬事公苑の森」				

母子家庭の親子の森林体験パート２

特定非営利活動法人　ひばり倶楽部
〒892-0833　鹿児島市松原町 6-2
松原ハイツ 801

１．活動の概要

自然体験は、母子家庭の子ども達には高いハードルとなっている。どんな境遇の子ども達も同じような経験をさせてやりたい。その体験が森を身近に感じるきっかけとなるとの想いで実施した。

実施内容（全 4 回）
森で遊ぼう（2 回）　①昆虫採集　②アスレチック
森にあるものを使った門松づくり（1 回）
ネイチャーゲーム等を交え森の散策（1 回）

２．活動の成果

今回は、活動の中で自然での危機管理も学びながらの実施であった。やはり危機管理は遊ぶ中から育まれてくるものである。母子家庭の子ども達にとって森を身近に感じるきっかけとなったのではと感じている。また、子ども達がこのような経験を基に自然に親しみたくましい子どもに育ってくれることを期待する。

今後の活動としては、自然の中で自分たちで遊びを見つけ、自由に森を楽しめるような活動をしていきたい。また、森を育てる・保護する活動として植樹などの活動も行っていきたい。

３．参加者の声

・門松を初めて作ったが難しかった。でも最後は手伝ってもらっていい門松が出来た。
・森を散策しながらのネーチャーゲームが楽しかった。
・アスレチックは最初は怖かったがだんだん慣れてきて時間が短く感じた。
・クワガタがたくさん獲れて楽しかった。またぜひ行きたい。
・カブト虫はいつも買っていたが初めて森で獲った。こんな近くで獲れるんだと知った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8 月 1 日	12 月 27 日	1 月 23 日	4 月 3 日	計
事業量 又は 事業内容		森で遊ぼう 昆虫採集	門松づくり	アスレチック体験	ネイチャーゲーム等を交え散策	
参加者数	県　内 県　外 計	25 人 人 25 人	27 人 人 27 人	16 人 人 16 人	23 人 人 23 人	91 人 91 人
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市				

「守る・楽しむ・創る・育てる」森の体験

特定非営利活動法人　ＮＰＯエキスパートバンク
〒892-0842　鹿児島市東千石町 5-6　1F

１．活動の概要

自然豊かな鹿児島の森を身近な場所として森を楽しむ活動や自ら森を守る・森の遊び場をつくる・森を育てるという４つの体験活動を通じて子どもたちに自然の有難さや親しみを感じてもらう。

２．活動の成果

様々な体験活動を組み入れることにより子どもたちが森を身近な場所として再確認できるとともに植樹した場所などは思い入れの強い森になることだと考える。これらの経験は子どもたちが大人（親）になった時、その子ども達が森で親しむきっかけとなる。21 世紀の森を守る活動は今の子ども達の体験から始まると考えている。そういった意味において今回の活動は、子ども達に森を守ることの必要性を感じてもらえる活動だったと考える。

３．参加者の声

・森のアスレテックは公園とは違い、注意することも多かったがとても楽しかった。
・間伐を初めてやった。木が健康に育つためには周りの環境が大事なんだとわかった。
・自分たちで遊び場を作った。こういう体験はしたことがなかったので難しかったけど友達同士で助けあえて隠れ家をつくることができた。
・植樹に初めて参加してみた。植えた木が大きくなるのに 10 年以上かかると聞いた。森があることに歴史を感じた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		12 月 6 日	1 月 10 日
事業量 又は 事業内容		(森を守る) 竹や木の間伐体験	(森を楽しむ) 森のアスレチックなど
参加者数	県　内 県　外 計	21 人 人 21 人	18 人 人 18 人
実　施　場　所			

実　施　時　期		2 月 21 日	3 月 21 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		(遊び場をつくる) 間伐した木や竹を使って隠れ家をつくる	(森を育てる) クヌギなどの植樹		
参加者数	県　内 県　外 計	18 人 人 18 人	19 人 人 19 人	76 人 人 76 人	
実　施　場　所					

元気な森の農山村を育てる事業

特定非営利活動法人　もりびと
〒890-0052　鹿児島市上之園町 24-2
川北ビル BOIS 鹿児島 4F

1．活動の概要

森林の現状や豊かな森の恩恵を地域住民が理解するために地域の森の手入れ、木材の活用などを学び、森や木を育て活用することによる地域循環社会を体験することを目的とする。

2．活動の成果

今回はコロナの影響で開催するか悩みましたが、地域の方々の地域活性化への思いがあり開催しました。いろんな方に参加していただき、間伐材や地域の木材を使うことで地域の森林の活性化につながることを知っていただきました。

この取り組みでもっと元気な森の農山村を育てることが出来ればと思っています。今後も森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくりの運動を続けていきたいです。

3．参加者の声

森林や山村地域の活性化の為に何をすればいいのか分からなかったが、木材を使うことで活性化につながるのだと聞き、今後は積極的に木材を使っていきます。との声を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	・間伐材を使った身近な物づくり体験	8 月 8 日		24 人	
	・ログハウス造り体験	9 月 19 日	11 月 21 日	45 人	
	・森の現状を知る。	10 月 24 日	2 月 13 日	44 人	
参加者数	県　内	56 人	41 人	97 人	
	県　外	10 人	6 人	16 人	
	計	66 人	47 人	113 人	
実　施　場　所		鹿児島県　日置市 / 東市来町 / 伊集院町			

調　査　研　究

森林 ESD 指導者に求められる教育的力量の可視化と評価及び養成プログラムへの活用に係る実証的研究

全国社会教育職員養成研究連絡協議会
〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1

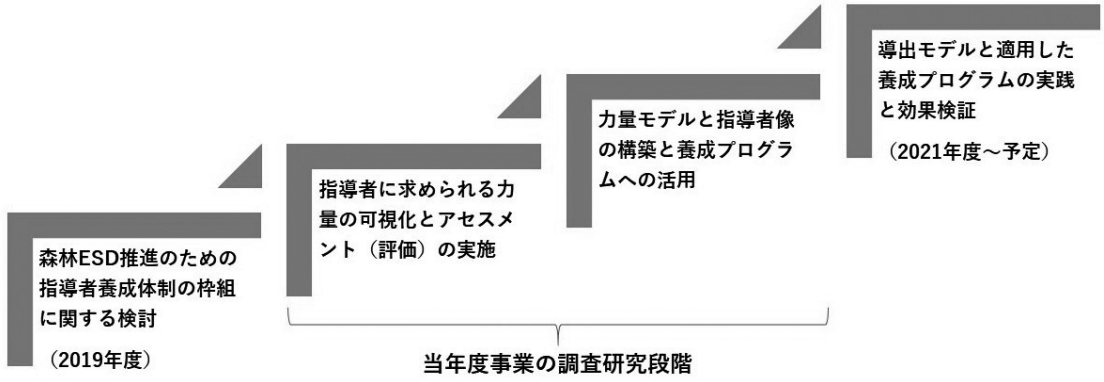
概要

森林 ESD を推進する際､学校教育や社会教育と連携するための力量が不可欠である。当調査では、森林指導者に求められる力量を実証的に可視化し、カリキュラム活用を図ろうとするものである。

背景と目的

全国社会教育職員養成研究連絡協議会（社養協）では、2019 年度、新たな学習指導要領の改訂を踏まえながら、森林 ESD の推進体制の在り方について、全国の青少年施設や森林総合利用施設等へのアンケート調査や視察調査を実施し、有識者を交えた検討を行った。この結果、地域社会において森林 ESD 推進を図る上で、学校教育と社会教育の双方において連携協働できる知見や技能を持ち合わせた森林指導者が求められていることが浮き彫りとなった。

しかし、このようなニーズに対応する森林分野の指導者に対して、具体的な力量の内実や評価方法は明確ではなく、養成方法についても未解明なところが多い。当調査では、求められる力量を可視化・評価（アセスメント）することで、森林 ESD において求められる指導者の力量を効果的に習得する養成プログラムへの活用を図ることを目的とした。



図表　当調査の位置づけ

研究対象

森林・山村をフィールドとして行われる社会教育実習における養成者及び養成指導者を対象とした。なお社会教育実習は 2020 年度よりはじまった「社会教育士」養成のための必修科目として位置づけられている。社会教育士は、森林・山村分野を含めて、多様な分野において学習を通じた人材・組織育成面における活躍が期待されていることから、当調査において最適な調査対象と考えられる。

内容と方法

全国約 100 の機関･個人会員を有する申請団体のネットワーク「社会教育実習支援ネットワーク」を活用しながら、全国の森林環境教育を扱う社会教育実習地において、指導者・養成者の力量の可視化と評価方法に焦点化した以下の実地調査を行った。

（1）ラウンドテーブルおよび電話・メール取材によるヒヤリング調査

当調査の趣旨に適合する社会教育実習地を選定し、指導者及び養成者を対象としたフォーカスグループを形成し、ラウンドテーブル形式によるヒヤリング調査を行うことで、求められる指導者の力量に係る評価指標を導出することを試みた。

コロナ禍による影響から、実地調査が困難であるため、電話・メール取材を併用して実施した。ラウンドテーブル形式のヒヤリング調査では森林教育の実習活動とかかわりの深い7名の有識者を選定し、オンラインにより実施した。

（2）導出した評価指標に基づくアンケート調査

ヒヤリングで導出した質問項目と評価指標をもとにアンケート設計を行い、森林指導者養成に係る全国の社会教育施設及び教育機関（1,426か所）への調査を行った。

（3）指導者及び養成関係者によるワークショップ調査

ヒヤリングによる質的データとアンケートによる量的データに基づきながら、有識者による意見交換を伴うワークショップ調査をオンライン形式で行った。

（4）指導者力量の可視化及びアセスメント（評価）と指導者像の解明

ヒヤリング調査、アンケート調査、ワークショップ調査の結果をアセスメント（評価）し、指導力量の可視化と指導者像モデルを導出した。

調査結果

森林教育の指導分野においてもますます社会連携・協働の力量が求められていることが浮き彫りになった。最新のニーズに対応するために、既存プログラムの単体運用だけでなく、社会教育士養成のカリキュラムとの連携が可能であることを示した。また、連携カリキュラムを構成することが、力量形成上有効であるとするエビデンスの一端が示された。

今後、当調査によって導出された指導力量とその評価及び指導者像を反映した指導者養成のための実習モデルをアレンジしながら、調査協力施設や関係校へ還元することが求められる。

穂木調達も含めた林業用苗木生産工程における
ボトルネックの把握—宮崎県を事例に—

一般財団法人　林業経済研究所
〒113-0034　東京都文京区湯島 1-12-6

【課題】

宮崎県は、第 8 次宮崎県森林・林業長期計画（2021）においてスギ苗木生産量が 2019 年 568 万本から 2030 年 700 万本に増加することを見込んでいる。このうちコンテナ苗は 146 万本から 300 万本であり、増加の主体はコンテナ苗となっている。そこで本研究ではコンテナ苗の増産を見通している宮崎県において、露地苗・コンテナ苗の特徴、コンテナ苗移行の影響、移行の課題やボトルネックについて、特にコンテナ苗に着目しながら、現状を把握することを目的にした。

【方法】

調査は主に聞き取りとアンケートにより実施した。聞き取り対象は宮崎県庁、宮崎県緑化樹苗農業協同組合（以下、県苗組）、宮崎県森林組合連合会（以下、県森連）、苗木生産者、森林組合とした。アンケート票は県内すべての苗木生産者、県内すべての森林組合に送付した。新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、予定した一部の聞き取りは実施できなかった。

【宮崎県の概要】

宮崎県は森林率が全国第 10 位、森林蓄積が同 6 位の全国でも有数の森林県である。人工林資源の比率が高く、中でもスギが卓越している。民有人工林のうち伐採可能な 8 齢級以上の面積は 76%と多い。苗木生産量は、2006 年春以降、450 ～ 650 万本でほぼ横ばいで推移している。これらの苗木は県内 121 名の生産者により生産されている。新たに苗木生産に取り組みたいとする者は少なくなく、ここ数年で 10 ～ 20 人程度が林業種苗生産事業者の新規登録をしている。

【苗木生産者アンケート】

アンケート票は 2020 年 12 月に郵送し、38 の生産者から回答を得た。回収率は 31%となる。「露地苗のみ」生産する 19 者、「コンテナ苗のみ」生産する 9 者、そして露地苗とコンテナ苗の「両方」を生産する 9 者から回答を得た（不明 1)。経営者の年齢は 30 ～ 70 代以上と多様である。後継者は未定が多い。兼業が 2/3 を占め、兼業の業種は農林業が最も多い。回答者の生産本数は 3,235,650 本で、宮崎県全体の約 6 割を占める。生産苗種別の平均生産本数は「露地苗のみ」の規模が小さく、「両方」の規模はその 5 倍程度と規模の違いが大きい。苗種別にみた将来の生産規模は、露地苗は現状維持が、コンテナ苗は規模拡大が最も多く選択された。穂木調達は規模の大きい生産者ほど採種園からの採穂が多く、かつ現在の調達水準に不足を感じている傾向にある。苗種別作業暦は、露地苗が春挿し 9 割、コンテナ苗では春挿し 6 割（いずれも生産者数ベース）であり、コンテナ苗は季節性緩和（月別労働力の平準化）に寄与している。苗種別作業効率では「出荷」作業における差が大きく、コンテナ苗の出荷には露地苗の 4 倍の労働力が必要である。

【苗木生産者聞き取り】

2020 年 11 月に 3 名の生産者を対象に聞き取りを行った。苗木生産は技術や慣れが必要な仕事なので、特に採穂を中心として労働力の確保に苦労している。通年雇用のために作業の確保・平準化を気にしたり、林福連携を実践したりしている。ハウスの有効活用とともに間断なく苗木生産し通年出荷を実現するため、出荷されてハウスに空きができると、空いたスペースに挿し付けを済ませたコンテナあるいは育苗箱を運び込んで、育苗を開始する取り組みがなされている。散水管理を適切にするためハウス内の苗齢を揃える工夫もなされていた。

【森林組合アンケート】

全８森林組合を対象として 2021 年１月に実施した。回収率は 50%（回収数 4）であった。回答を得た４つの森林組合の造林面積は 842ha であり、全森林組合の造林面積合計の過半を占め、民間事業体を含む県内の造林実績に対しては 43%となった。造林面積に占めるコンテナ苗の割合は A 組合 49%、B 組合 64%、C 組合 7%、D 組合 9%とコンテナ率の高い組合と低い組合に二分された。植栽を露地苗とコンテナ苗でまったく別の時期に実施していたのは B 組合と C 組合であった。労働力に不足感を抱いていたのは A 組合、B 組合の２組合であった。労働力の不足を感じる組合でコンテナ苗の導入が進んでいることには注目したい。

【森林組合聞き取り】

県森連に依頼して県南部３つの組合を対象に 2021 年５月に聞き取り調査を実施した。苗種選択の背景、苗木需給、労働力の確保・調整を中心に聞き取りをした。苗木の活着を森林組合は重視している。4 月以降に植栽する露地苗は近年枯れが目立つためコンテナ苗を選択している。森林所有者は価格面だけでなく、規格的に大きく太い露地苗を希望する場合がある。年単位では露地苗不足、コンテナ苗余剰とされるが季節毎に細かく見るとコンテナ苗が不足する場面にも遭遇する。森林組合の造林能力が不足する中、通年植栽できるコンテナ苗は労働力を調整する上で重宝している。

【まとめ】

露地苗はなじみがあって、軽量かつ低価格が特徴である。コンテナ苗は安定かつ軽度作業で生産できるため通年雇用や林福連携との親和性が高い。活着率が高く通年植栽できることから、露地苗と異なって真夏以外の幅広い時期に出荷される。コンテナ苗の定量的な特徴としては露地苗と比較して人日当たり出荷生産性が 1/4 と低いが、人日当たり植栽生産性が２倍と高く、植栽密度が１～２割減で済む一方、単価が２倍となっている。

続いてコンテナ苗への移行がもたらす影響をまとめる。苗木生産者にとっては通年雇用がしやすくなる。植栽密度の減少により苗木需要は減少するが単価が２倍なので売上は増加する。植栽生産性が上昇することと、植栽可能時期が大幅に広がることから植栽者にとって労働力の調整が楽になる。翌年の補植必要性が低まることもプラスの材料である。しかしコンテナ移行しても必要下刈り量は不変なので、移行の影響はさほど大きくないとも考えられる。また、森林所有者にとっては単価が２倍になるため負担増となる。

最後にコンテナ苗移行の課題とボトルネックを指摘したい。穂木は苗木の量ならびに質に影響を与える重要な要因である。穂木調達には技術や経験が必要なことから、質の伴った穂木を大量に調達することがボトルネックになる可能性がある。コンテナ苗の特徴である通年出荷を実現するために、これまでの年単位を改めて、月別にコンテナ苗需給を管理することが、コンテナ苗移行・増産の課題としてあげられる。月別管理は季節性を緩和して通年雇用の実現にも寄与すると考えられる。

防草麻シートによる防草効果及び敷設功定調査

諸県の下刈りを楽にする会
〒885-0055　鹿児島県都城市早鈴町 5085

1　研究の必要性等

大淀川流域の再造林率は、県全体を大きく下回り４０％前後で推移しており、かつ、再造林後の下刈りをする現場従業員は現時点でも不足している。

再造林率を上げるためには、下刈りの省力化・軽作業化が最大の課題であることから、回収不用かつ環境に優しい麻・木綿の防草シートを敷設し、筋刈りさらには無下刈施業の可能性を研究・検証した。

2　今回の試験のシート（麻・木綿）と目串

⑴ シート：生地の１㎡当たりの重さが３５０ｇでシートの長さは１．５ｍ四方
⑵ 目　串：長さ３０㎝の竹串と使用後の割り箸を使うことにしていたが、割り箸は新型コロナの感染拡大で未使用のものに変更

3　試験結果

⑴ シート耐久性試験

半年間と１年間の両方を比較したところ、変色度は少し異なったが、腐食や劣化ほとんど無かった。

⑵ シート生分解試験

再造林地に敷設したシートは、一部を除いて腐食は無かった。しかし、水田の畦に敷設したシートで敷設時に刈った草を乗せていたところは、草と同時進行で変色し腐食が進んでいった。また、シートを串ではなく石で留めた個所は、草を乗せた箇所同様に腐食し劣化した。

⑶ 防草効果分析

麻は、草や笹の突き抜けはあったが、植栽木への直接の影響はなかった。未敷設地からの雑灌木や蔓による被圧も限定的であった。

⑷ 敷設省力化試験

シートの運搬方法では、当然人力運搬が最も低かった。傾斜では、平坦地より暖傾斜地の方が角度あるため張りやすく、１０度から２５度までが最も高かった。

単位：枚 / 人・日

	傾　斜	シート運搬	地拵えの良否	シート敷設枚数
宮崎中央森林組合	平坦地 暖傾斜地	人力 林内作業車	良 良	150 枚 180 枚
西諸地区森林組合	暖傾斜地 急傾斜地	林内作業車 フォワーダ	良 良	170 枚 155 枚
都城森林組合	平坦地 急傾斜地	人力 苗木運搬車	優良 良	160 枚 185 枚
耳川広域森林組合	暖傾斜地 急傾斜地	フォワーダ 人力	良 中	165 枚 125 枚
単純平均				161 枚

4　まとめ

シートの敷設枚数は、想定の２００枚 / 人・日より下回ったが、作業員がなれるとともに目串を鰻の蒲焼用（細くて先が完全に尖っているもの）に変えることで、２００枚は可能になる。シート運搬はコンテナ苗と同時運搬することで改善が可能。

生分解については、自然由来の油でコーティングすることで、長持ちできる思われる。

活動基盤整備

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人　尚絅学院
〒981-1295　宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1

1．活動の概要

学校法人尚絅学院はキャンパス周囲の山林を地域社会全員の公共財とし、約 20 万㎡の森を 5 区画（A～E ゾーン）に分け、5 年周期で恒常的に整備し、「尚絅の森」として再生させるプロジェクトを 2016 年 4 月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」をコンセプトに、NPO や市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと活動しています。参加者でアイデアや意見を話し合い、森づくりを通した交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第 2 土曜日の定例活動として A～E ゾーンの森林整備、広場づくりなどを行っています。

2．活動の成果

今回の助成金では、主に森林の持続可能な管理及び維持の実施に向けた森林整備費などで活用させていただきました。森林整備事業では、新型コロナウイルスの影響で活動の縮小を余儀なくされ、一部作業の積み残しが生じましたが、万全なコロナ感染症対策を行いながら年間計 14 回の活動を行い、合計 187 名の参加者がありました。

また、これを契機に SDGs の目標 15「陸の豊かさも守ろう」のターゲットでもある「森林の減少をくいとめる、おとろえてしまった森林を回復させ山地の生態系の能力を強める」という視点に基づき、森林整備事業における課題を再確認しました。そして新たな 5 ヵ年計画の森づくりの基盤整備のため、「尚絅の森『樹木調査・保全活動』」により、アカマツ保全樹幹注入及び松くい虫被害木伐採事業を行いました。

＜これからの取り組み＞

２０２１年は本プロジェクトの新たな５か年計画のスタートのため、これまでの成果と課題を整理しつつ、これからの「尚絅の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、「多様な主体が参画する森づくり」のため、持続可能な活動を実施していきたいと思います。

3．参加者の声

・敷地森林内全域の毎木調査実施や測量を入れての模型作成を行いたい。
・「バリアフリーの森」をコンセプトに、ジェンダー、高齢者、障がい者にも配慮した里山整備事業を展開したい。
・「尚絅里山エリア」の全般的な構想の整備
・「里山の恵み」を利活用する取組や SDGs 活動を実践している企業や団体との提携・協働の実践

実績報告とりまとめ表（2020 年 7 月～ 2021 年 6 月）

実施時期		7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	合計
事業内容	整備活動①	—	—	12	—	43	21	—	—	—	—	21	19	116 人
	整備活動②	9	—	10	9	9	—	—	—	6	8	8	—	59 人
	整備活動③	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8 人
	整備活動④	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4 人
	勉強会 報告会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	体験会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合　計														187 人
実　施　場　所		宮城県　名取市												

大学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人　Peace Field Japan
〒101-0051　千代田区神田神保町 1-40 豊明ビル 301

1．活動の概要

10 月 31 日 -11 月 1 日の二日間、山梨県小菅村において、森林や中山間地を訪れる機会のない東京近郊の大学生が、森林保全や地域の暮らしの体験を通して、森林や中山間地の地域社会のあり方、価値、課題にふれる環境教育プログラムを行った。

１日目は、森で音、色に目を向けるアクティビティ、森にある様々なものを題材にした作品作りと発表、ソロ歩きを行い、森を五感で感じるプログラムを行った。また、森や自然の恵みによって育まれてきた郷土料理作り体験を行った。

２日目は、森林の役割や機能、循環のサイクルについて学んだ後、除伐作業を行い、森林を管理する必要性と、少子高齢化の中で森を維持管理することの大変さを実感した。間伐材を使っての箸作り体験では、間伐材を利用することが森を守ることにつながることを学んだ。また、道の駅を視察し、地域の木を活用しての活性化の取り組みについて説明を受けた。地域のグループで作る工芸品を道の駅で販売していること、災害時にすぐ組み立てられるテント枠開発の事例など、村の木を活用する具体的な取り組みを知ることができた。

最後に、二日間の体験を通しての感想、印象的だったことを共有した後、今回の気づきや学びを各自絵で表現し、発表した。初めて森に親しみ、活動したことで、森の大切さを実感できた様子が伺え、これから森のありがたさを考えて生活していきたい、森を守るボランティア活動に参加したい、という声が上がっていた。

2．活動の成果

参加者の多くは、普段森にふれる機会がなく、森で何かの活動をするのは今回が初めてだった。まず森を歩き、五感を使うプログラムを行なったことで、森や自然をより感じることができ、森の大切さを実感することができた。都会における自分の暮らしが、上流域の森の恩恵によって成り立っていることに気づき、認識を新たにした。

また、森林保全活動体験、間伐した木を利用するための手仕事、木の活用を促進することで森林管理を進めていこうとする村の取り組みを体験、理解することで、現在の森林を取り巻く課題を里山地域だけの問題ではなく、社会全体の課題として受けとめるようになった。今回は、COVID19 の影響で、例年よりも留学生の参加が少なくなったが、スイスと中国の留学生が参加し、他国の森を取り巻く状況についても学びを深めることができ、より広い視点で捉えることができた。まとめのワークショップでの発表では、全員から、「森林管理作業の必要性を学んだ」、「管理作業の大変さを実感した」、「体験したことで実感を伴って理解できた」などと感想が出され、森林を取り巻く状況と課題への意識が高まったことが伺える。さらに、里山地域の暮らしを昔のものとする捉え方ではなく、新しい人、もの、ことを取り込むことで、これからの中山間地域のあり方を共に考えていく必要があることにも気づくことができ、自分に何ができるのか考えるようになった。

また、都会に住む若者たちが、実際の体験を通して森や里山の暮らしにふれ、森があってこそ都会の暮らしが成り立っていること、つながりがあること、持続可能なライフスタイルの原点があることに気づいたことで、それぞれの今後の生活のあり方を見直すきっかけにもなった。また機会を作って訪れ、様々な体験をしてみたい、森林管理のボランティアをしてみたい、という声が聞かれたことは、今後の行動につながる成果だと言える。

３．参加者の声

・自然を感じたいと思って参加した。森は静かだったが、様々な音があり、生きものや植物の多様性を感じた。
・東京に住んでいる自分たちの生活と森には深いつながりがあることがわかった。
・森で木を切る作業は楽しかった。しかし、それは単に体験だから。とても力を使う仕事で、広い森を管理するのは大変だと思った。
・代々受け継いだ森を守っていくためには管理する必要があるということを知った。しかし、実際に自分で体験してみて、森を管理する作業は本当に大変だということがわかったし、過疎化で担い手が少なくなっても、守り続けていかなくてはならないという難しい状況があることがわかった。
・森を守っていくためには、木を使う必要があるということを知った。箸を作ったり、小菅村の木を活用する取り組みを見たりして、木を使うということに関心を持った。
・木を植えて育て使うという、人の暮らしとリンクした森のサイクルは、自分が関心を持っているSDGsのコンセプトそのものだと思った。うまく森を管理して行くことが、持続可能性につながるということがわかった。
・村の方々に様々なことを教えていただき、どの木を切ればいいのか、キノコの見分け方など、経験や知識が豊富ですごいと思った。
・留学していたが、春に戻ったばかり。自然や村の方々のあたたかさに触れ、改めて日本の里山の良さに気づいた。
・課題は多いが、お年寄りも様々な分野で活躍し、一方、移住してきた人たちによる新しい取り組みがなされていて、課題の解決につながると思う。自分も、何ができるか考えていきたい。
・里山の暮らしというと、古い田舎の暮らしという印象を持っていたが、新しいものも受け入れ、共生しながらこれからのあり方を模索している様子を見て、新しい里山の形があると思った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		10月31日	11月1日	計	備考
事業量 又は 事業内容		・森を五感で学ぶ体験プログラム ・郷土料理作り体験	・森林保全活動体験 ・間伐材を使った箸作り体験 ・道の駅視察 ・まとめワークショップ		
参加者数	県　内 県　外 計	0人 15人 15人	0人 15人 15人	0人 30人 30人	
実　施　場　所		山梨県　小菅村			

「子ども樹木博士」のネットワーク化による森林環境教育の推進

子ども樹木博士認定活動推進協議会
〒112-0004　東京都文京区後楽 1-7-12　林友ビル
（一社）全国森林レクリエーション協会内

1．活動の概要

子ども樹木博士認定活動の実施団体の拡大等により「子ども樹木博士」活動の一層の推進を図るため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、教材や認定証等の配布・提供、機関誌の発行・配布、子ども樹木博士認定活動の開催案内、ホームページの更新等を行った。

2．活動の成果

(1) 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は 9 回・約 2 百人、地域ごとでは 6 道府県、9 団体による実施となっている。

新型コロナウイルス感染症のため、計画した子ども樹木博士認定活動が中止になったり、イベントが開催できなかったりと子ども樹木博士認定活動を実施するには厳しい状況が続き、当協議会が把握できた実施状況は少数に止まった。

(2) 子ども樹木博士認定活動の実施団体

平成 12 年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で 45 都道府県・339 団体となっている。

(3) 認定証等の配布・子ども樹木博士認定活動の開催案内等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、子ども樹木博士認定活動の開催の問い合わせに対しイベントの紹介等を行った。（認定証の配布：約 510 枚、樹木ガイドの配布：40 冊）

新型コロナウイルス感染症のため、子ども樹木博士認定活動の開催が少数であったこともあり、認定証、樹木ガイドの配布も少数となった。

(4) 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年４回（9/1・12/1・3/1・6/1）発行（１回当たり約 850 ～ 900 部）し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局・署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

(5) 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業

モリダス
〒194-0211　東京都町田市相原町 930-2

1．活動の概要

安全で楽しい森林づくり活動を推進するため、現場リーダーの人材養成を図った。段階的にスキルを習得できるように、(1)step1 で「手道具の扱い方」、(2)(3)step2 で「折れ曲り線とツルづくり」「ロープワークと牽引システム」を学び、(4)step3 で「手道具とロープで安全に木を倒す」を学ぶ講座を開催し、それぞれの審査を通過したが次の段階へと進めるという体系的なプログラムを一通り実施することができた。前年度からステップアップしてきた第 1 期受講生は 6 月の step3 で一区切りした一方で、5 月開始の step1 に参加した第 2 期生が今後は段階的にスキルアップしていく計画である。

コロナ禍を新たな研修方法を開発する好機と捉えて、「オンライン観察会を自分で試してみるワークショップ」のオンライン開催、動画教材「ロープワークと牽引システム」「誰でもわかる森のヒミツ」の制作・ウェブ公開もおこなった。また、連続学習会「関東でもナラ枯れ拡大 !2020 年代における森林・里山マネジメントのゆくえ」をオンラインで開催したところ、100 名近い参加者数を集め、今後の森林づくりの方針に影響を与える問題だけに非常に関心が高いことがわかった。

なお、コロナ禍の影響により、申請時に計画していた刈払機とチェーンソーの講座は中止したほか、講師謝礼への助成が認められなかった森林資源の利用促進を学ぶ講習会も実施しなかった。

2．活動の成果

現場リーダーの人材養成プログラムを実施し、ほぼ計画通りに参加者を集め、安全で楽しい森林づくり活動の普及を図ることができた。ウェブ上で視聴できる動画教材を開発できたので、波及効果も高いと思われる。ナラ枯れの学習会に多くの参加者を集め、団体間のネットワークも強化できた。

3．参加者の声

「基礎的なことから丁寧に教えていただき初心者の私でも分かりやすく、とてもためになりました。」

「講習を通して、伐倒者として責任を持ち、安全を確保することの重要さを意識できたと思います。」

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		5/8, 5/15	(2) 10/16, 11, 22 (3) 2/28, 3/7, 3/14 (4) 4/29, 5/1-2, 6/26	9/21	5/24, 5/31	計
事業量又は事業内容		(1) 森づくり step1 ～手道具の扱い方	(2) step2a ～折れ曲り線とツルづくり (3) step2b ～ロープワークと索引システムの学び (4) step3 ～手道具とロープによる伐木	(5) オンライン観察会ワークショップ	ナラ枯れ連続学習会	※2 列目の参加者数は左から step2a, step2b, step3 の人数
参加者数	県　内 県　外 計	9 人 3 人 12 人	7 人 /5 人 /3 人 2 人 /2 人 /2 人 9 人 /7 人 /5 人	14 人 11 人 25 人	48 人 45 人 93 人	86 人 65 人 151 人
実　施　場　所		神奈川県　横浜市				

きのこを育てて森とつながろう！
里山と人をつなぐ「鬼無里・原木きのこファンクラブ」

特定非営利活動法人　まめってぇ鬼無里
〒381-4301　長野県長野市鬼無里 1657

1．活動の概要

都市住民参加型の「原木きのこファンクラブ」を立ち上げ、荒廃林地の整備で出た原木をきのこ栽培用の榾木として活用するとともに、継続的な関係人口づくりを構築。

①森林ボランティアによるきのこ原木伐採活動

11/7, 4/10 の 2 回、山林所有者の了解のもと、里山の整備を兼ねて、7 きのこ栽培用の原木の伐採、玉切り、搬出を実施。6/4 は雨天のため中止した。

②原木きのこの駒打ち体験イベント実施

「原木きのこファンクラブ」会員を募集し、4/25 にきのこの種菌の駒打ち体験イベントを開催。約 200 本の原木に駒打ちを行った。

2．活動の成果

◆森林ボランティアによる森林作業と原木きのこ栽培は、里山整備のみならず、「きのこ栽培」という里山活用に結び付けることで、里山とのつながり意識した継続性のある活動に展開した。

◆きのこの駒打ち体験イベントには市街地から多数が参加。「原木きのこファンクラブ」会員として来秋のきのこ収穫に向けた継続的な関わりを持つことができた。

3．参加者の声

【森林整備活動】林業のベテランの指導の下、安全に作業することができた。荒れて鬱蒼としていた山が明るくなって嬉しい。

【きのこの駒打ちイベント】きのこの駒打ち体験は初めてだったが、親子で楽しめた。2 年後のきのこ収穫が楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	月　日	計
事業量 又は 事業内容	森林整備 駒打ちイベント 森林作業・講習会	11/7、4/10	 4/25	 6/11	2 回 1 回 1 回
参加者数	県　内 県　外 計	21 人 2 人 23 人	18 人 2 人 20 人	9 人 1 人 10 人	48 人 5 人 53 人
実　施　場　所		長野県　長野市鬼無里			

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川

奈良県森林ボランティア連絡協議会
〒634-0033　橿原市城殿町459
公益財団法人　奈良県緑化推進協会内

1．活動の概要

遥か昔、修験道の開祖、役小角（えんのおずぬ）が作った「陀羅尼助」という和漢胃腸薬は、今も天川村の特産品である、しかし、原料となるキハダは不足し、村外からの仕入れに頼っている。村面積の大半が森林である天川村はかつて林業が盛んだったが、林業不況の影響で皆伐を行っても、再造林されない伐採地が増えている。その伐採跡地にキハダ等を植栽し、地場産業育成と共に、針葉樹に変えて広葉樹で持続可能な森林づくりを進めている。この事業を、地元の方々と協働し豊かな森林づくりを行うことを通じて森林ボランティアリーダーの養成を図る。

2．活動の成果

・キハダ苗木５０本を植えるために地拵えから始め、食害対策用柵設置までを参加者と地域住民と協働して行った。
・植樹した木の育林を可能な限り進めていく。
・人工林の大規模皆伐地の森づくりを見守り、協力できることは行いたい。
・間伐材の利活用が、今後どのような効果をもたらすかを注目したい。
・天川村の現状と村おこし事業、和漢薬の陀羅尼助丸について学習したことが、今後のボランティア活動に生かせる。

3．参加者の声

・キハダを植樹した場所が急斜面であった、林業従事者の苦労が分かった。
・人工林皆伐地を広葉樹の森林に戻す事業に興味を覚えた。
・間伐材を温泉の薪ボイラー燃料に使用し、地域商品券を絡めての事業に感心した。
・奈良県民であるが、天川村に来るのは初めてで、自然と温泉が気に入った。
・参加者のはつらつとした植樹作業に元気をもらい、自分も頑張りたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		11月25日	3月20日	3月21日	計
事業量 又は 事業内容		植樹場所下草刈り 約700㎡	・地拵え及び 黄肌50本植樹 （食害対策用柵設置まで含む） ・講演会2話	天川村再造林事業地、バイオマス供給施設、薪ボイラー他を視察	
参加者数	県　内 県　外 計	5人 1人 6人	33人 3人 36人	21人 2人 23人	59人 6人 65人
実　施　場　所		奈良県　天川村			

徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議
〒770-8570　徳島県徳島市万代町 1-1

1．活動の概要

県民，企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり，活動の支援を行うため，県内に公募し，新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに，これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して，スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのステップアップ講座も実施した。

2．活動の成果

〇森林づくりリーダー養成講座

8 月 29 日から 12 月 19 日にかけて，基本講座 8 回を実施した。

受講生 16 名のうち，13 名が認定基準（講座受講の 7 割受講）を満たし，令和 2 年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は，養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し，県内の学校関係や野外活動施設等に送付し，森林づくりリーダーとして活動を行う。

〇森林づくりリーダー・ステップアップ講座

9 月 5 日，10 月 24 日，11 月 29 日，12 月 27 日，2 月 7 日の 5 日間，より専門性の高い講座を実施し，リーダー既認定者の 22 名がスキルアップを図った。

3．参加者の声

・森林に対して、これまで以上に興味を持っようになった。
・毎回いろいろな体験ができて、すごく楽しかったし、勉強になった。
・自分自身の生き方の豊かさを高めるきっかけになったと思う。
・普段あまり山や林地の中で活動することが無いため、すごく新鮮だった。
・山の大切さ守るべき自然を、体験を通じて未来を担う子供達に教えていきたい。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和 2 年 8 月 29 日～ 令和 2 年 12 月 19 日 計 8 日（基本講座）	令和 2 年 9 月 5 日～ 令和 3 年 2 月 7 日 計 5 日（ステップアップ講座）	計
事業量		基本講座 8 回	ステップアップ講座 5 回	
参加者	県　内	16 人	22 人	38 人
	県　外	0 人	0 人	0 人
	計	16 人	22 人	38 人
	認定者	13 人	－	13 人
実　施　場　所		徳島県　神山町，上勝町，徳島市，美馬市		

令和２年度　森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク
〒782-0078　高知県香美市土佐山田町大平 80

１．活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そして、この事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし、国民参加の森づくり運動を推進する。

２．活動の成果

参加者の中から新たにボランティアリーダーとして登録される方、参加した講座を主催するボランティア団体に興味を持ち､団体に加入する方が多くみられました。又､同じ講座に参加した方々で、新たな同好会を発足させて活動を継続する動きも見られました。

今後はボランティアリーダーのスキルアップや団体活動のサポートを継続して行い、国民参加の森林づくり運動の推進により貢献出来る様にしていきます。

３．参加者の声

・チェーンソーの使い方を正しく学びたかったので参加した。・危険な道具だと思うが、丁寧に教えて頂いたので、少し扱えるようになれた。・講師の方が本当に細かく専門的にわかりやすく教えてくださったおかげで、安心して活動できた。・更に上達していきたいと思う。・本当に参加して良かった。・山で暮らし、森林資源をもっと多様に活用していきたいと思いました。・作業自体も楽しく、木の香りもして、気持ちのいい時間でした。・竹を切りに行くところから竹の選び方・切り出し方など学べて良かったです。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和２年９月４日～令和３年３月 27 日							
事業内容	回数	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
竹細工講座①	４回	７名							７名
チェーンソーを使ったアウトドア体験講座	６回	９名	７名	10 名	中止	５名	10 名	８名	49 名
森の遊び場づくり講座	２回		３名						３名
里山体験講座	３回				９名				９名
グリーンウッドワーク講座	４回					６名			６名
竹細工講座②	４回					８名			８名
木と暮しのモノづくり講座	２回						13 名		13 名
竹細工１日講座	１回						８名		８名
木のスプーンづくり講座	１回							10 名	10 名
計	27 回	16 名	10 名	10 名	９名	19 名	31 名	18 名	113 名
実　施　場　所		高知県立森林研修センター情報交流館、館内及び自然体験ゾーン							

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟
〒880-0804　宮崎市宮田町10-28

1．活動の概要

みどりの少年団活動の発表や野外活動等を通じて相互交流を図ることを目的として、「みどりの少年団総合研修大会」を開催することとしていたが、実施直前に会場付近で新型コロナウイルス感染者が発生したため、やむを得ず中止とし、少年団の活動発表は書面審査により賞を決定した。「みどりの少年団総合研修大会」に代わり、今後の少年団活動の際に森の恵みや森との関わり方を学び､自然を愛する情操豊かな青少年を育成することを目的として､県内のみどりの少年団員に「みどりの手帳」を配付した。

2．活動の成果

県内の全てのみどりの少年団員に「みどりの手帳」を配付したことにより、少年団活動の際に、森の中で手帳を開くことで身近な自然をより深く学ぶことができた。

3．参加者の声

・児童生徒に内容の充実した手帳をいただきありがとうございました。
・みどりの手帳送付ありがとうございます。興味深い内容で子ども達も喜びます。
など、少年団育成会長から同様の意見が多数寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7月31日（金）	12月7日（月）	計	備考
事業量			みどりの手帳配付 県内みどりの少年団41団	2回	
事業内容		活動発表書面審査 最優秀賞 東大宮小みどりの少年団			
参加者数	県内のみ	少年団員　7人	少年団員　1,374人	1,381人	
実　施　場　所		宮崎市	県内全域		

子どもリーダー企画の自然体験事業

特定非営利活動法人　たんぽぽ
〒891-0105　鹿児島県鹿児島市中山町 2124-7

1．活動の概要

活動の目的

前年まで子どもリーダー養成を行ってきた。その子ども達が企画した子ども目線の自然体験である。このような経験を経ていくことはリーダーとしてのスキルアップにもつながると考え企画し実施した。

ワークショップ　2回

森林ボランティアの役割・・なぜ森林ボランティアは必要なのかなどを学んだ。

人と森の関係・・森があるおかげで私たちの生活はどのような恩恵をうけているのかなどを学ぶ。

実践活動　4回（シイタケ収穫中止）

間伐体験・・竹林の間伐を実施し、間伐による効果などを知る。

遊歩道づくり・・自然の物だけを使った遊歩道づくりを体験。

川の生き物観察・・川の住む生き物を観察するとともに以前いたものがいなくなった現実と原因を知る。

シイタケの駒打ち・・原木への穴あけをし、シイタケ菌を打ち込む作業を行った。

2．活動の成果

子ども達が今まで学んできたことを実践的に生かして企画し実施することはリーダーを目指す子ども達にとってはかけがえのない経験であったと考える。参加する子どもたちにとっても同じ目線で見れることはわかりやすい体験となった。今後も子ども達の発想を企画に生かし活動していきたい。

3．参加者の声

・遊歩道づくりを初めて体験した。このように作られているんだなとわかった。
・シイタケのドリルの振動が激しくちょっと難しかった。
・シイタケ菌を初めて見たがとても不思議だった。
・昔はゲンゴロウやアメンボがたくさんいたことを知りびっくりした。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		8月22日	9月27日	10月24日	備考
事業量 又は 事業内容		間伐体験	ワークショップ 森林ボランティアを学ぶ	ワークショップ 人と森の関係を学ぶ	
参加者数	県　内 県　外 計	16人 人 16人	18人 人 18人	17人 人 17人	
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市			

実　施　時　期		11月7日	12月26日	2月28日	計
事業量 又は 事業内容		川の生き物観察	遊歩道づくり	シイタケ駒打ち	
参加者数	県　内 県　外 計	18人 人 18人	15人 人 15人	23人 人 23人	107人 107人
実　施　場　所		鹿児島県　鹿児島市・春山町			

国　際　交　流

気候変動対応と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での森林減少阻止と住民土地権尊重支援の意義を伝えるセミナー実施

熱帯林行動ネットワーク
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-13-11
THEFORUM 千駄ヶ谷 4F

1．活動の概要

本事業の目的は、熱帯地域での先住民族や地域住民の土地権尊重や同意を得る権限強化で、大規模開発での森林減少に伴う環境的社会的な負の影響に対処する意義を伝え支援を広げることである。サラワク材を取り扱っている日本の関連企業や、問題に関心のある消費者を対象に Zoom を通じて「熱帯材製品利用と人権侵害：マレーシア・サラワクの土地収奪」と題したウェビナーを実施し、マレーシアのサラワクで人権侵害に取り組む活動家および弁護士から、サラワクでの森林開発にともなう人権侵害の構造や事例、また先住民族の権利をめぐる裁判の状況について共有してもらった。

2．活動の成果

ウェビナーにはサラワク材を取り扱っている日本企業やメディア、一般市民を中心に約 110 名の参加があり、現地で起きている人権侵害の構造やサラワク材の最大の消費国として日本が果たすべき役割について伝えることができた。JATAN では 2016 年より、サラワクでの環境破壊や人権侵害の問題について日本企業への働きかけを続けてきたが、継続的な活動の一環として現地での最新情報を伝えるとともに提言ができたことは大きな成果であった。また、この度はコロナ禍により来日できなかった関係で、スピーカーには Zoom の録画機能を通じて共有してもらった。これらの録画をアーカイブとして残すことで、将来的に普及啓発の素材として活用したいと考えている。

3．参加者の声

ウェビナーの内容について、「(マレーシア) 国家が先住民の人権保護に否定的な立場であること、法律があったとしても必ずしも機能しているわけではないということがよく分かり、企業としての責任の重要性を改めて感じた」という声があった一方、この度のウェビナーでは現地側からのインプットが中心であったことから「日本企業への働きかけがあるかどうかなども知りたかった」という声もいただいた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		5 月 28 日	7 月 9 日	7 月 21 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		プレゼンテーション収録 (Nikolas Mujah 氏)	プレゼンテーション収録 (Simon Siah 氏)	ウェビナー開催		
参加者数	県　内 県　外 計	−人 −人 −人	−人 −人 −人	−人 −人 110 人	−人 −人 110 人	
実　施　場　所		オンライン（Zoom ウェビナー）				

令和元年度・
事業期間延長分

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine(INFOM)
〒156-0051　東京都世田谷区宮坂 3-19-4

１．活動の概要

本事業は、森林率９０％前後の市町村の中で、優れた森林を有し、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部と比べ有意になされると実験・証明された“森林セラピー基地®”の中から10ヶ所を選び森林医学に精通した医師同行で開催した事業である。医師は、森林内行動前後に森林の持つ予防医学的効果の講話と各参加者が計測したストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助を促した。

２．活動の成果

本事業は、終了後のアンケート調査によると、参加者の９０％強が、優れた森林の持つ多面的機能や、景観美に対する驚きや感動、五感を駆使する行動での森との親和、森林内で簡単に出来るマインドフルネスによる活力アップを体感し、満足と記した。今回は、将来森林関係の職につく森林大学校生が20%強を占めると共に、多くの基地が地元民を対象としたため、日頃あって当たり前の森の大切さ、親和が促せ、今後の人間環境としての森林の重要性が若齢者や地元住民に周知され、森林の保全管理、森林サービスや木材使用の必須性が正確に伝搬され、彼らの活動の一助となると期待できた。

３．参加者の声

イベント全体についての評価は、大変満足、満足の合計が男性95%女性93%、個別評価でも、森の大切さの実感が男性89%、女性100%、セラピスト（ガイド）の対応が、男性96%、女性100%、医師の評価が男性97%女性100%であった。すなわち、森、人共に高評価された。今後もINFOM、各基地共に本方向性をもって、最新の医・科学的情報提示やアクティビティの向上に努められる可能性が大である、満足度の高い感想を得た。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期	事業量	参加者数			実施場所	備考（ロード名）
		県内	県外	計		
R1. 10/20（日）	3時間	11	0	11	長野県　上松町	赤沢自然休養林セラピーロード
R1. 11/10（日）	4.5時間	8	3	11	岐阜県　本巣市	NEO桜交流ランド四季彩の道
R1. 12/10（火）	4.5時間	19	0	19	兵庫県　宍粟市	兵庫県立国見の森公園
R2. 2/2（日）	4時間	14	0	14	宮崎県　日南市	蜂之巣公園
R3. 6/13（日）	3時間	2	0	2	鳥取県　智頭町	天木森林公園コース
R3. 6/20（日）	4時間	0	7	7	長野県　小谷村	小谷村蒲池
R3. 6/26（土）	5時間	5	4	9	群馬県　上野村	北沢渓谷エリア
R3. 6/27（日）	4時間	12	0	12	長野県　上松町	赤沢自然休養林セラピーロード
R3. 6/27（日）	5時間	7	0	7	三重県　美杉町	平倉コース
R3. 6/30（水）	2.5時間	5	0	5	群馬県　甘楽町	八幡山夕陽ヶ丘コース
参加者数合計		83	14	97		

初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業

特定非営利活動法人　森づくりフォーラム
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-25-14
第一ライトビル 405 号

1．活動の概要

森づくり体験を通して森林に関わる人々の裾野を広げるため、また森づくり活動への新規参加者の促進と指導者の育成等の活動団体の支援を図るために、東京都の西多摩地域で活動する 9 つの森づくり団体と協力し、「初心者のための森づくり体験会 2019-2020」を計 8 回開催した。2020 年 3 月～ 5 月に予定していた 4 つのプログラムは、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止とし、事業を延長して内 3 つのプログラムを特別回として 9 月～ 12 月にかけて開催した。それぞれの団体のフィールドや特徴を活かし、間伐などの森林整備体験のほか、竹林整備やササ刈り、自然観察やクラフトづくりなどを行い、森の魅力を存分に伝えるプログラムとなった。

2．活動の成果

今回は第 3 弾となる森づくり体験会であったが、新しく 3 つの団体にご協力をいただき、東京の森づくり団体との関わりがより広くなったことで、指導者層の育成・支援につながった。広報に関しては、チラシを 2 回に分けて作成し都内の図書館や森林・ボランティア関係施設等 600 件近くに送付、その他にも Facebook やメルマガ、情報掲載サイト等での発信も強化し、実施後は Facebook 等での報告を行った。広報活動を徹底して行ったことで、森づくりの普及啓発には効果があったと感じている。

参加者の総数はコロナ禍であることもあり思うようには伸びなかったが、参加者アンケートからは満足度の高い結果が得られた。参加者の年代も、小学生～ 70 代までと幅広く、次世代につながるイベントになったと感じる。今後も森づくり体験会を継続し、森林に関わる人々の裾野を広げ、森づくり団体の支援につながる事業を実施していきたい。

3．参加者の声

森づくり体験会参加者からは、普段できない体験ができて楽しかった、また参加したい、スタッフの方が丁寧で親切だったなど、とても前向きな意見が多かった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2019 年 11 月～ 2020 年 2 月	2020 年 9 月～ 12 月	計	備考
事業量 又は 事業内容		初心者のための森づくり体験会 2019-2020 ～秋の森・冬の森～計 5 回	初心者のための森づくり体験会 2020 ～秋の森・冬の森～特別回　計 3 回		
参加者数	都　内 都　外 計	65 人 29 人 94 人	39 人 10 人 49 人	104 人 39 人 143 人	
実　施　場　所		東京都　西多摩地域の森林			

健康と木材・木造施設を考えるシンポジウム（仮称）の開催

一般社団法人　木のいえ一番振興協会
〒150-0045　東京都渋谷区神泉町 22-2
神泉風来ビル 2F

（一社）木のいえ一番協会は、4 月 20 日（火）に YouTube 配信による「健康と木材・木造施設を考えるシンポジュウム」を開催しました。

新型コロナ感染症拡大の中ではありましたが、2 度の見逃し配信を含め、合計で 486 回の視聴がありました。視聴者の約半分が住宅メーカーや工務店、設計者であり、木材と建築関係者を結ぶだけでなく、木材、木造施設の意義や効果等について広く普及・啓発ができたと考えています。

このシンポジュウムは、国産材が利用期を迎えるとともに健康志向が高まる中、公共建築物のみならず民間施設でも木造建築の合理化等により木材利用の可能性が高まっており、科学的なデータに基づく木材の健康等への効果や健康に配慮した木造施設の建築のコンセプトなどについて、普及・啓発していくことを目的に企画したものです。

木のいえ一番協会の二木浩三会長には、主催者挨拶でシンポジュウムの趣旨を説明していただきました。

【基調講演】次の 3 名の方にそれぞれのテーマについて講演していただきました。

1. 林野庁林政部木材利用課長長野麻子氏「みんなでウッド・チェンジ」

暮らしの中に木を取り入れていく、木に代えていくというウッド・チェンジの意義、 SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成のための土台になるのは自然資本であり、その最大のものが森林であることを説明された。また、わが国の目標として掲げられた 2050 年にカーボンニュートラルを達成するためには、CO_2 の吸収源である森林と・木材利用による炭素貯蔵や排出削減の重要性について説明された。さらに北海道・下川町の SDGs 未来都市について、地域の森林資源を改めて見直し、バイオマスエネルギの活用等でお金を地域の中で回し過疎化等の解消に取り組んでいる事例を紹介された。

2. 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授恒次祐子氏「木材の良さをデータで表す」

都市に住む人々は 24 時間中のほとんどを屋内で過ごしており、建物の環境が心身の健康に大きな影響を与えていること、心地よさを測定するための脳の血流や心拍、五感で感じる木の良さ（香・手触り等）等の測定方法や最新の科学的データにより生理的、心理的な効果を説明された。また、木材によるリラックス効果や作業能率等の関係についても紹介された。

さらに、カフェの内装の木材率や材色によるリラックス、健康的な効果だけでなく、経営面でのプラス効果についても紹介された。

3. 東京藝術大学美術学部建築科准教授藤村龍至氏「設計者の視点から見た木造建築の意匠的可能性」

これまでの作品から、在来工法をアレンジした「家の家」、非住宅の「認可保育園みどりまち」や「広川保育園保育所」、「一本松公園のトイレ」での建築コンセプトや木構造の考え方等について説明された。また、木造建築物の歴史的経緯とともに、先人達の様々な挑戦と工夫により大型の木造建築物がどのように建築されてきたのかを紹介された。さらに、今後に木造建築の意匠的可能性について、自然材料を自然のまま使うことによる技術的・社会的視点の統合や、大規模木造のイノベーションによる中規模木造の可能性を示唆された。

【トークセッション】

基調講演の 3 名の講師と木のいえ一番協会の田鎖郁男副会長の 4 名により、健康と木材・木造施設について討論していただきました。

SDGs 未来都市下川町の経済循環をまちづくりとして全国に普及していくための方策、木質内装効果と仕事の効率性、木造の追い風に応える建築のイメージ等について議論された。

【アンケート】

シンポジュウム視聴者を対象としたアンケート結果では、3 講師の基調講演、トークセッションについてほとんどが「大変有意義であった。」と回答しており、初期の目的を達成したものと思われます。

乳幼児親子のための森でいっぱいあそぼう

NPO 法人　森のようちえん全国ネットワーク連盟
〒201-0004　狛江市岩戸北 4-17-11
NPO 法人国際自然大学校内

1．活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、森の資源や恵みを活用したクラフトや身近な森で体験活動を行い、生きる力、森のための４つのアクションにつながる活動に寄与する。

2．活動の成果

「森のようちえんカフェ」～森でいっぱいあそぼう～を合言葉に、四つの県の森、自然の中に親子が集まりました。

森のなかで過ごす１日。乳幼児の子ども達にとっては、ワクワクドキドキした時間となったことでしょう。森で拾った枝をあつめて、火を焚いてたら、小さな森の整備ですね。森から木を伐って、椅子を作ったら？森の剪定の一助につながりました。

木を使って、森にふれて、「森づくりの循環」を実感し、つながりを体感しました。小さなフォレストサポーターが今回、たくさん誕生しました。

引き続き、全国に、森との暮らしを身近に感じ、森も自分も仲間も元気に過ごす輪を広げます。

自然と共に生き、地域で支えあう暮らし、森遊び・自然体験の普及に努める活動を行っていきます。

3．参加者の声

・親子で自然の中で外で遊べる学べる機会となり、気持ちよく体感できた。
・身近な森遊びを体験して、もっと日常的に自然体験を取り入れていきたい。
・紅葉のなかでのんびりお散歩、森で寝っ転がり、ステキな時間でした。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和元年 11 月 16 日	令和 3 年 5 月 15 日	令和 3 年 6 月 5 日	令和 3 年 6 月 6 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森のようちえんカフェ（自然体験）	森の音遊び	森のようちえん出張カフェ	森のようちえんカフェ		
参加者数	県　内 県　外 計	15 人 5 人 20 人	12 人 8 人 20 人	150 人 150 人	15 人 9 人 24 人	192 人 22 人 214 人	
実　施　場　所		岩手県	山梨県	栃木県	静岡県		

箕面国有林勝尾寺園地「箕面ふれあいの森」における
森林 ESD 促進に向けた実践活動
～ガイドマップ作成と環境教育プログラムの実施～

大阪森林インストラクター会
〒533-0031　大阪府大阪市東淀川区西淡路 3-6-12

1．活動の概要

箕面国有林勝尾寺園地内における、森林 ESD 促進のための散策ガイドマップを作成し、自然観察会や森林環境教育プログラムの実践を通して、森林への理解を深める

2．活動の成果

「箕面ふれあいの森協定(H23 締結)」に基づき、箕面国有林勝尾寺園地のガイドマップを完成させ、森のようちえん団体や地元放送局等に配布した。SDGs 講習会と森林環境教育プログラムイベントを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、R2 年 2 月以降すべての活動を中止した。R2 年 6 月に「緑と水の森林ファンド」の計画変更(1 年間の期間延長)を申請し承認を得た。しかし、R2 年 7 月以後も新型コロナウイルス感染症は収まらなかったため、予定を大きく変更して実施せざるを得なかった。

具体的には、第 1 回(R1/9/28)はガイドマップ完成に向けた確認。第 2 回(R1/10/12)は雨天中止、第 3 回（R1/11/4）もガイドマップ完成に向けた最終確認を行った。第 4 回（R2/1/11）は森のようちえん団体への説明。第 5 回（R2/3/10）に SDGs 講習会を予定したが、新型コロナウイルス間拡大のため中止した。第 6 回（R2/4/22）も、ガイドマップを使った森林環境教育イベントを予定したが、新型コロナウイルス間拡大のため中止した。

第 7 回（R3/1/15）1 箕面小学校の児童たちと植樹を行った。第 8 回（R3/2/5）箕面小学校で植栽木の樹名板を設置し SDGs について解説した。第 9 回（R3/2/22）寝屋川市立地域交流センターにてガイドマップを用いた勝尾寺園地の解説および自然素材を用いたクラフトの動画を撮影した。

本事業では、森林 ESD 推進と「森のようちえん」での森林環境教育を目的に、前半にガイドマップ作りの完成を目指した。ガイドマップは完成できたが、計画していた“活用”をする前に、新型コロナウイルス感染症が拡大し、行政からの活動自粛の指導があり、R2 年 3 月以降の事業は中止せざるをえなくなった。そんな中、4/22 予定の森林環境教育イベントに参加予定であった箕面小学校や寝屋川市立地域交流センターより連絡をいただき、私たちが箕面国有林で行う予定だった SDGs を解説する機会を得、箕面国有林の自然素材を活用したクラフト動画の撮影を実施した。当初の予定から大きな変更となったが、申請時に掲げていた「子どもたちに対して森林を活用した教育の実施」の趣旨に沿う内容で行うことができ、森林に対して関心を高める取り組みにつながった。

新型コロナウイルス感染症が収束した折には、今回実施できなかった箕面国有林勝尾寺園地内での森林環境教育イベントを実施し、森と人をつなげる活動を続けていきたい。

３．参加者の声

・ガイドマップ作成を通して、森林の季節の移ろいを知ることができました。
・ガイドマップの完成まで３年がかかりました。今後はどんどん活用したい。
・自分たちで選んだ木を植えることができてよかった。水やりはしっかりします。
・木を植える穴を掘るのが難しかった。大きく育って欲しい。卒業しても見に来たい。
・森で採取された素材でこんな素敵なクラフトができるなんて、思いもよりませんでした。
・今話題の SDGs のことを知ることができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9/28	10/12	11/4	1/11	3/10	4/22	1/15	2/5	2/22	計	備考
事業量		第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回		
参加者数	大阪府内 大阪府外 計	５人 ４人 ９人	雨天中止	10 人 ３人 13 人	10 人 ３人 13 人	covid-19 のため中止	covid-19 のため中止	22 人 ２人 24 人	22 人 ０人 22 人	８人 ０人 ８人	80 人 ０人 80 人	
実施場所		大阪府 箕面市				大阪府 大阪市	大阪府 箕面市			大阪府 寝屋川市		

森とともにＳＤＧｓ

特定非営利活動法人　コアラッチ
〒698-0003　島根県益田市乙吉町イ 94-8

１．活動の概要

会場を森の中に設定し、地元の木を活用してＳＤＧｓのお話を交えながら、木でペンダントやストラップを製作するワークショップを実施した。材料には硬さや香りの違う数種類の地元の樹種を揃えて、木に興味を持ってもらえるようにした。形を整える・焼印を押す・木や天然素材の飾りを付ける・紐を通す等の活動も行い、木で創る楽しみも味わった。

２．活動の成果

参加者は森の恵みを体感し、木に触れることでＳＤＧｓの目標に近づいた。この体験でさらに周りの人たちへも森や木を通して持続可能な SDGs の目標を拡散し“誰一人取り残さない”未来へと近づいていくことに繋がった。

３．参加者の声

・とても癒された。
・木によって色や重さ、香りが違うことを体験することができた。
・土に還る天然素材が良かった。長く使いたい。
・緑に囲まれていてもリアルな木にはなかなか触れることができないので貴重な経験をすることができた。子どもも楽しんでいた。
・会場の雰囲気が大変良かった。落ち着く時間をもらいました。SDGs も初めてだったが理解できた。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		7 月 15 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		地元の木でペンダント ＆ストラップ作り		
参加者数	県　内 県　外 計	35 人 3 人 38 人	35 人 3 人 38 人	
実　施　場　所		島根県　吉賀市		

五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業

特定非営利活動法人　ふくつ子どもステーションすてっぷ
〒811-3217　福津市中央1-16-6-506

1．活動の概要

発達に応じた森林環境教育で自然感覚（他の生物や環境に配慮し自然を大切に思う感覚）を育み、持続可能な社会の担い手を育む事を目的に、①スウェーデンの乳幼児親子を対象とした森のオープンプレスクールを参考に、2人のリーダーと隔週森に出かけ、五感で森に親しみ森に学ぶ「森の親子ひろば」をコロナ過の4、5月を除き月2回開催した。②未就学児親子や小学生を対象に森の循環と人とのつながりを学ぶ「森のワークショップ」を計8回開催した。③SDGsに貢献する森林ESDの推進に向けた森の恵みフォーラム「森とふれあい森に学ぼう」を3月29日に開催した。

2．活動の成果

コロナ過で4､5月は開催できなかったが､「森の親子ひろば」には600人､「森のワークショップ」には述べ150人、森の恵みフォーラムには40人の計790人が参加、アンケート等から森林の循環のしくみや森が育む植物や生き物についての概念、森の役割と自分とのつながりについて子どもも大人も認識するようになったことが伺える。「自然感覚」の育みを通じての持続可能な社会の担い手づくりに寄与できた。森林ESDの推進に向けた森の恵みフォーラムを開催して森林の大切さを啓蒙し、SDGsの目標15の達成に貢献できた。

3．参加者の声

①親子で森が大好きになり、森の役割を学ぶことができた。②親子で様々な生きものに五感でふれて豊かな概念が育ち､親しみを持つようになった。③森の役割を子どもと共に学ぶことができ、自分たちとのつながりがわかった。④森に入る時の3つの約束「大きな声を出さない」「根っこから抜かない」「ゴミを捨てない」を子どもが覚え実践するようになった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		月　日	月　日	計	備考
事業量 又は 事業内容	①森の親子ひろば ②森のワークショップ ③森の恵みフォーラム	①7月12日から6月19日まで計20回	②森のワークショップ7月21から2月1日まで計8回 ③3月29日に森の恵みフォーラム	計29回	①森の親子ひろば20回 ②森のワークショップ8回 ③森の恵みフォーラム1回 計29回
参加者数	県内 県外 計	県内600人 人 600人	②県内150人 ③県内　40人 190人	県内790人 人 790人	
実　施　場　所		福岡県　福津市			

民有林における森林管理のリスクマネジメントに関する調査研究

筑波大学生命環境系
〒305-8572　つくば市天王台 1-1-1

民有林において認識される自然リスクと社会リスク、それに対する管理実態を調査し、水源涵養機能等の多面的機能の高度発揮に注目してリスク管理や対応策の在り様を明らかにすることを課題とした。本調査研究は、特に森林保険と水道事業者に注目して実施した。

【森林保険事業における森林組合系統の役割と課題】

1. 目的と方法

自然災害の頻発に伴いリスク管理が重要になる中で、森林保険は「森林所有者自らが災害に備える唯一のセーフティネット」として国立研究開発法人森林研究・整備機構森林保険センターにより運営され、その保険窓口業務は全国の森林組合系統に委託されている。これまでの筆者らの調査により、森林保険事業の運営体制や保険加入率が都道府県により異なることが明らかになっている。そこで、加入率の差を生む要因を把握し、森林組合系統の役割や課題を考察することを本事業の一部として行うこととした。方法として、都道府県森林組合連合会（以下、県森連）に対する悉皆のアンケート調査を行い 2019 年現在の現状について分析した（回収率 85%）。併せて、森林保険センターと 6 県森連、3 森林組合に聞き取り調査を行い、保険契約の特徴・連合会や組合における保険業務内容を中心に把握した。さらに、森林保険を利用する 2 市町村に対して、管轄森林の災害履歴・保険契約内容と加入理由等を聞き取った。最後に、文献資料及び統計資料を用いて分析・考察した。

2. 森林保険の現状と森林組合系統の業務

森林保険加入率は 2019 年度に 7.8%まで低下している。加入率は都道府県により幅があり、最高で 20.1%、最低で 1.2% となっている。森林保険における窓口を担う森林組合系統が行う業務は、大きく保険契約業務と災害発生後の損害てん補業務に分けられる。保険契約は、森林所有者は最寄りの森林組合にて手続きを行う。損害が発生した際には、組合と県森連の職員が被災地において損害調査を行うが、どちらの職員が中心となるかは都道府県や地域によって異なる。災害が多かったり管轄面積が広かったりする都道府県では組合職員のみで調査を行う。それに対して、多くの都道府県では組合職員が調査に必要な資格やノウハウを有していない等の理由で県森連職員が中心となって調査を行うことが多い。

3. 加入率に影響をもたらす要素

森林組合において森林保険に携わる十分な人的資源があるか否かが、各地域の加入率を左右する要因の 1 つであることを念頭に、県森連の役職員数と加入率の関係を統計データから分析した。その結果、加入率の全国平均（7.8%：2019 年度末）を上回る県森連では職員が 10 人以上在籍し、常勤役員が 0 人の県森連の加入率は 7.8% を下回っていることが分かった。常勤役員がいるかどうか、職員が十分にいるかどうかは森林保険業務を含めた県森連の業務執行能力に影響を与え、それが保険加入率にも反映されていると考えられる。

アンケート調査において、森林組合の加入促進活動が加入率に影響しているという県森連の認識が得られた。聞き取り調査では、森林所有者への加入促進活動は主に森林組合が行うことや、保険金支払い実績のある森林組合は勧誘に積極的になることを把握した。また、活動の熱心さは森林組合の体制や保険担当者の意欲次第という面もある。県森連の活動の積極性よりも現地の森林組合の所有者への働き掛けが大きな影響力を持つと考えられる。

4. 森林組合系統の役割と課題

「公有林の加入」に関しては属地的な要素、「加入促進活動」と「常勤役員・職員の数」では組合系統の属人的な要素に着目した。管轄地域に「市町村有林が存在し、それらが保険に加入しているかどうか」が森林組合によって加入率に差が生じる要因の1つと言えるため、森林組合系統の活動はあまり影響していない。他方、加入促進活動については、所有者と直接つながりのある森林組合の役割が大きい。個々の森林組合内に役職員が十分にいる森林組合や過去に保険金支払い実績のある森林組合では、保険事業の運営や加入促進活動に積極的になるということも分かった。所有者への勧誘活動においては森林組合の役割が大きいと考えられるが、ノウハウや人手が不足している組合をサポートするという点では、損害調査での連携や森林組合への指導等を通じて県森連の働きが重要となると考察した。

【水道事業者による森林管理の動向と課題】

1. 研究の目的と方法

公益的機能を高度に発揮させる森林に対する市民からの期待は高く、国土保全の面からも重要であるため、このような森林管理の在り方の検討は不可欠である。公益的機能のひとつである水源涵養機能を重視した森林管理の代表的事例として、水道事業者による森林管理がある。しかし、近年の日本における水道事業者による森林管理の実態は、一部については報告があるもののその全体像については詳細が明らかとなっていない。そこで、本事業の一部として日本における水道事業者による近年の森林管理の動向と課題を明らかにすることを目的とした。方法としては、全国の水源林の現状を把握するため、水道事業者に対して郵送アンケート調査を行った。また、アンケート調査では捕捉できない情報を整理するため、文献調査および聞き取り調査を行った。アンケート調査では、2020年9月に「水道水源の保全に関する取組み状況調査」（厚生労働省、2006）で「水源涵養林への関与」があるとされていた水道事業者のうち、市町村合併や水道事業広域合併がなされたために送付先が重なってしまうものを除いた123水道事業者に調査票を送付した。95事業者から返送があり、回収率は77%であった。そのうち1事業者は水道事業ではない事業内で水源林整備を行っているとの回答があり無効回答としたため、有効回答数は94であった。聞き取り調査は、2018年7月～2020年11月の間に横浜市水道局水源林管理所、横浜市水源林の施業を請け負う林業事業体Y社およびS社、道志村役場を対象に行った。

2. 結果と考察

アンケート調査結果について、94事業者のうち現在森林に何らかの形で関与していると回答があったのは58事業者であった。森林の所有や分収造林契約、賃借契約といった土地所有に関係がある形での関与は1900年代からみられるのに対して、森林ボランティア事業や企業の社会・環境活動への協力といった水道事業者が直接森林管理を行わない形での関与は2000年代から広がってきたことが明らかになった。聞き取り調査結果について、100年以上森林管理を続けてきた水道事業者である横浜市水道局において、1990年代には水源涵養機能の高度発揮のために木材生産が中止されるとともに2000年代以降に市民ボランティアとの協力や企業との連携による森林整備が開始されたことが明らかとなった。以上から、時代の変化によって、水道事業者による森林への関与の内容や性質が変化してきたことが示唆された。

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用した
メンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証

Momo 統合医療研究所
〒162-0816　東京都新宿区白銀町 2-1-406

1．活動の概要

森林を活用した健康増進プログラムの効果評価を目的に 3 つの活動を実施した。

1) 2018 年度に実施した森林セラピー×マインドフルネスプログラムのフォローアップセッション･ブースターメールの配信とプログラム実施 2-3 か月後の効果評価。1 泊 2 日の長野県信濃町、静岡県朝霧高原におけるメンタルヘルスプログラムと、長野県木曽赤沢における生活習慣病プログラムを 2018 年に実施。その後、参加者にマインドフルネスの練習や、体重測定・生活習慣の変容への取り組みを促し、取り組みを励ますためのメールを 2 週間ごとに送付した。メンタルヘルスプログラムでは 2 か月後に都内でセッションを実施し、2 か月後の効果評価を実施した。生活習慣病プログラムでは 3 か月取り組みを実施後効果評価を実施した。
2) 森ヨガ×マインドフルネスプログラム（1 泊 2 日､静岡県朝霧高原）の実施と効果評価を実施した。親子参加可能なプログラムとし、活動は親子別々で大人は森でのヨガを楽しむプログラム、子供は自然環境で自由に遊ぶプログラムとした。ヨガというより親しみやすいコンテンツを取り入れ、子供と一緒に参加できることにしたことにより、関心を高め森での保養のきっかけになりやすい内容とした。大人のプログラム前後､2 か月後の精神健康度に対する効果調査を行った。
3) 親子森林セラピープログラム（1 泊 2 日、長野県信濃町）の実施と効果評価を実施した。親子参加型で、森林セラピーは親子別々、キャンドル制作は親子一緒に行った。子供のプログラム中の感性変化について脳波（感性アナライザー）を用いて評価した。

2．活動の成果

1) メンタルヘルスプログラムでは 2 か月間のマインドフルネスセルフトレーニングを実施する期間を設け、励ましを中心としたメールによるリマインドを行ったことにより、マインドフルネス尺度得点、人生満足度得点が 2 か月後により向上する傾向がみられた。特に 60 分／週以上マインドフルネスのセルフトレーニングを実施した群では、POMS2 得点の向上持続やマインドフルネス尺度の変化度がより大きくなる傾向がみられた。生活習慣病プログラムでは、3 か月間の体重測定、具体的な健康目標の実践を促したことにより、体重、腹囲、血圧の改善につながった。食生活においては、カロリーコントロールを意識することよりも､「噛むこと」と､「体重測定を実施したこと」が改善の一要因となっていた可能性がある。また、健康目標設定にあたり、そもそもなぜ健康に生きたいのかを考える、といった根本的な動機づけも行う工夫をし、参加者も違った視点で健康について考えるきっかけとなった様子であった。
2) 森林環境でヨガやマインドフルネスをとおして、プログラム前後での気分状態尺度（POMS2）得点や自覚的健康状態のネガティブ項目の改善とポジティブ項目の向上がみられた。また、Cocororo® を用いた自律神経測定において、プログラムを通して森ヨガ後、瞑想後と終了時に向けて副交感神経のバランスが高まっている傾向がみられた。
3) 子供の森林環境での自然体験中の感性を測定した結果、ストレス度はほぼすべての参加者に共通して減少が認められ、森林セラピー時に平均 10%、キャンドル作成アクティビティ時に平均 5%減少していた。また､興味度やわくわく度も個別の差はあるものの､森林セラピー､アクティビティともに上昇の傾向を示していた。これらの向上は知的生産性の向上とも関連する可能性があり、森林環境における学習効果等についても今後調査が期待される。

３．参加者の声

1) 森でマインドフルネスを学んだことによりよりマインドフルネスを体感することができた。自分が普段いかにストレスの中で過ごしているか、自分の五感に気づかず過ごしているかを実感した。これからの生き方について考えるよいきっかけになった。より人生の目的を考えて生活習慣病の予防に取り組むことを考えるようになった。夫婦での参加もプログラム後の取り組みにおいて効果的だった。
2) 同じ休日でも通常よりとてもリフレッシュした。太陽礼拝などを含めてヨガをする意味がより理解できた。子供も楽しめていたので自分も森での時間をゆっくり堪能できた。
3) 子供と一緒に参加できるのはよかった。親子離れる活動は不安もあったが、子供が心理セラピーから戻ってきて活力が出ている様子をみて森の力を感じた。他の参加家族との交流も心温まるものだった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		2019 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日	2019 年 11 月 30 日～ 12 月 1 日	2020 年 10 月 8 日～9 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林セラピー× マインドフルネス フォローアップ	森ヨガプログラム	親子森林セラピー保養プログラム		
参加者数	県　内 県　外 計	0 人 20 人 20 人	0 人 25 人 25 人	6 人 6 人 12 人	6 人 51 人 57 人	
実　施　場　所		長野県信濃町、 木曽赤沢 静岡県富士宮市	静岡県 富士宮市	長野県 信濃町		

森のようちえんによる森林環境教育・自然保育の教育効果とその検証

富山福祉短期大学　幼児教育学科
〒939-0341　富山県射水市三ケ 579

近年、幼児期に育まれる非認知能力が人生の成功を左右するという研究結果が示され、非認知能力を育むのに有効であるとされる幼児期の自然体験や自然保育が注目されるようになってきている。国内でも、行政セクターによる取り組みが全国各地で拡がりつつあり、自治体による自然保育認証制度の効果に関する実証的研究も行われ始めたところである。そこで本研究では、いまだ十分に解明されていない自然保育がもたらす教育効果とは何か、またその主な要因は何かを明らかにすることを目的とし、自然保育を推進している福井県若狭町と富山県南砺市で保育施設および保護者へのアンケート調査やインタビュー調査を行った。その結果、「室内」「園庭」「園外」など自然保育の活動場所はいろいろとある中で、「園外」という、より解放された環境の中での自然体験の頻度が高い方が、「様々な情報から必要なものが選べる」子どもの割合が高いことが明らかになった。また園外でのさまざまな自然体験の中でも、「園外の自然に囲まれたところで、一定範囲を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ」という保育内容との間にのみ強い相関性がみられたことから、「自然な解放された環境」で「主体的に遊ぶ」ことが、「さまざまな情報から必要なもの選べる（心理的社会能力：視野・判断）」という教育効果をもたらすことが推察された。

1．本研究に取り組んだ経緯

近年、幼児期に育まれる非認知能力が人生の成功を左右するという研究結果が示され、非認知能力を育むのに有効であるとされる幼児期の自然体験や自然保育が注目されるようになってきている。国内でも、2018 年に「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」が設立され（2021 年 9 月現在 120 の自治体が加盟）全国規模で行政セクターによる取り組みが拡がりつつある。また山口（上越教育大学）らによる自然保育認定・認証制度の影響と効果に関する実証的研究（科研課題番号 20H01655）も 2020 年から開始されたところである。一方で、自然保育の評価についてはまだ評価尺度がなく、保育の質が保障されているとはいえない状況にあり（野澤 , 2017)、国内における自然保育の研究はまだ緒に就いたところである。

そこで本研究では、いまだ十分に解明されていない自然保育がもたらす教育効果や、その主な因子について明らかにすることを目的とし、自然保育を推進している福井県若狭町と富山県南砺市で保育施設および保護者へのアンケート調査やインタビュー調査を行った。

2．研究方法

2．1　調査対象

研究協力の同意が得られた以下の園および保護者を分析対象とした。

・40 年以上にわたって町内全園で自然保育を実施している福井県若狭町の保育園全 7 園（配布数 7 園、回収率 100%）

・SDGs 未来都市に選定され行政主導で自然保育を推進している富山県南砺市内全 14 園（配布数 14 園、回収率 100%）およびその園に在籍する 5 歳児の保護者 246 通（配布数 326 通、回収率 75.4%）

2．2　調査方法

1．2020 年 1 月 19 日に、松宮妙子氏（元瓜生保育所長、福井県若狭町（旧上中町）で初めて自然保育を導入した）と長谷光城氏（若狭町内のすべての園で、造形活動を中心とする自然保育を

指導している）にインタビュー調査を行った。

2．2020 年 6 月に若狭町福祉課より若狭町内の保育園にアンケート調査用紙が配布され、7 月 7 日日までに回収を完了した。

3．2020 年 7 月 16 日に若狭町立とばっ子保育園にて一日参加観察するとともに、園長にインタビューを行った。

4．2021 年 2 月に南砺市役所こども課より南砺市内の保育園、幼稚園、またその園に在籍する 5 歳児の保護者にアンケート調査用紙が配布され、3 月 5 日までに回収を完了した。

2．3　調査項目と分析方法

本調査で使用した調査アンケート項目は、自然保育に関する先行調査「野外体験保育有効性調査」（三重県、2016）を引用し、一部「信州型自然保育認定制度が保育者の意識と行動に与える影響」（山口他、2020）の質問項目を引用した。上記の項目について、集計結果の比較および集計結果を基に定量分析を行い、自由記述についてはカテゴリーを抽出して定性分析を行った。また項目間の関連を検討するために相関分析を行った。いずれにおいても有意水準は両側検定で $p<0.05$ とした。データ集計および解析には SPSS27 を使用した。これらの結果と、三重県の先行調査との比較検討を行った。

3．結果（抜粋）

園外で行う自然体験型保育の実施頻度と子どもの様子 14 項目との関連について相関分析を行った（有意水準は $p<0.05$）（表１）ところ、「園外自然保育頻度」と「子どもの様子６．さまざまな情報から必要なものが選べる」に有意な正の関連が見られ（相関係数＝ 0.543, $p=0.045$）、園外での自然体験の頻度が高い方が、「さまざまな情報から必要なものが選べる」子どもの割合が高かった。

そこで、園外での自然体験の保育内容 5 項目「保育内容６．園外の自然に囲まれたところで、固定遊具や、ボールなどの道具を使って遊ぶ」「保育内容７．園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で遊ぶ」「保育内容８．園外の自然に囲まれたところで、一定範囲を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ」「保育内容９．園外の田んぼや畑で作業したり、収穫したりしながら、その場でゆったりと遊ぶ」「保育内容１０．園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなどをしてその場で食べる」と「子どもの様子６．」について相関分析を行ったところ（表２）、保育内容８との間にのみ有意な関連が見られた。相関係数の値が 0.765 と強い関連を示し（$p=0.001$）、「園外の自然に囲まれたところで、一定範囲を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ」頻度が高い園の方が、「さまざまな情報から必要なものが選べる」子どもの割合が高かった。また保育内容８は「子どもの様子９．自然の中のできごとに興味がある」とも有意な関連が見られた（$p=0.023$）。

表１．園外自然保育頻度と子どもの様子

相関		n =14													
		子どもの様子1	子どもの様子2	子どもの様子3	子どもの様子4	子どもの様子5	子どもの様子6	子どもの様子7	子どもの様子8	子どもの様子9	子どもの様子10	子どもの様子11	子どもの様子12	子どもの様子13	子どもの様子14
園外自然保育頻度得点	Pearson の相関係数	0.082	-0.12	0.148	0.309	0.126	.543*	0.44	-0.017	0.323	0.316	0.365	-0.361	-0.203	0.342
	有意確率（両側）	0.781	0.682	0.613	0.283	0.668	0.045	0.115	0.954	0.259	0.271	0.2	0.205	0.487	0.231

表２．園外での自然保育内容と子どもの様子

相関		n =14													
		子どもの様子1	子どもの様子2	子どもの様子3	子どもの様子4	子どもの様子5	子どもの様子6	子どもの様子7	子どもの様子8	子どもの様子9	子どもの様子10	子どもの様子11	子どもの様子12	子どもの様子13	子どもの様子14
保育内容6	Pearson の相関係数	-0.03	-0.24	-0.034	0.107	-0.029	0.296	0.346	0.158	0.095	0.267	0.256	-0.236	-0.205	0.164
	有意確率(両側)	0.919	0.408	0.909	0.715	0.923	0.304	0.225	0.59	0.747	0.357	0.377	0.416	0.481	0.575
保育内容7	Pearson の相関係数	0.467	0.058	.638*	.587*	0.348	0.499	0.121	-0.252	0.347	0.07	0.216	-0.064	-0.034	.723**
	有意確率(両側)	0.092	0.843	0.014	0.027	0.223	0.07	0.68	0.385	0.224	0.812	0.459	0.828	0.909	0.004
保育内容8	Pearson の相関係数	0.15	0.15	0.463	0.488	0.269	.765**	0.516	-0.152	.601*	0.433	0.502	-0.261	-0.138	0.52
	有意確率(両側)	0.608	0.608	0.095	0.077	0.353	0.001	0.059	0.604	0.023	0.122	0.067	0.367	0.639	0.057
保育内容9	Pearson の相関係数	0.01	-0.136	0.012	0.177	0.08	0.475	0.402	-0.045	0.335	0.276	0.31	-0.414	-0.274	0.183
	有意確率(両側)	0.972	0.642	0.968	0.546	0.786	0.086	0.154	0.878	0.242	0.339	0.281	0.141	0.342	0.531
保育内容10	Pearson の相関係数	-0.062	-0.062	-0.069	0.22	0.044	0.324	0.375	0.091	0.034	0.237	0.26	-0.327	0.077	0.127
	有意確率(両側)	0.834	0.834	0.815	0.45	0.881	0.259	0.186	0.756	0.907	0.416	0.37	0.254	0.793	0.665

４．考察

一口に「自然体験」といっても、室内で昆虫を飼育したり、園庭で植物を栽培したり、園外に散歩にでかけたりと、いろいろな活動場所がある中で、「園外」という、より解放された環境の中での自然体験の頻度が高い方が、「様々な情報から必要なものが選べる」子どもの割合が高いことが明らかになった。また、さまざまな園外での自然体験がある中で、「園外の自然に囲まれたところで、一定範囲を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ」という保育内容との間にのみ強い相関性がみられたことから、「自然な解放された環境」と「主体的に遊ぶ」ことが、「さまざまな情報から必要なもの選べる（心理的社会能力：視野・判断）」という教育効果をもたらすと考えられる。

５．結論

一口に「自然体験」「自然保育」といっても、どこで、どのような活動を、どのように行うのかはさまざまであるが、その中でも、「自然な解放された環境で主体的に遊ぶ」ことが、子どもの心理的社会能力を育むという教育効果をもたらすことが、今回の調査で推察された。今後は本調査を継続し、これらの効果についてさらに検証していく。

「島根の未来の森林の担い手はここに！」作成事業

銀林の恵み林活プロジェクト実行委員会
〒694-0064　島根県大田市大田町大田イ969-8

１．活動の概要

島根県では、「２０２１年全国植樹祭」が開催される。それに伴い「２０２１年全国林業後継者大会」も島根県で開催されるが、そこでの配布を含め県内外の若者に、森林・林業への関心を持っていただくために、多様な林業事業体の担い手育成を取材し、それらをデーターベースに編集し、冊子にするほか、県林研関連団体等のＨＰを含めて公開する。

２．活動の成果

令和２年度に島根県農林大学校林業科へ４名の進学実績のある出雲西高等学校環境コースの３年生・２年生（約１００名）に、林研グループのメンバーである「もりふれ倶楽部」が毎月１回行う授業での普及啓発活動で配布し、カラー版は、林業の担い手育成キーマンとなる島根県内の高校の先生に配布する。その後のデーターベースの活用により、中高校生を中心に県内外へ積極的な普及啓発活動を展開することにより、林業の担い手の増加。

３．参加者の声

・林業事業体が試行錯誤しながら、労働環境を改善してこられた結果として、若者が定着する職場が生まれてきた。進路指導の参考にしたい。(40代・男性・高校教師)
・農林大学校林業科の制度は大変素晴らしいと感じた。進学を検討したい。(10代・男性・高校生)

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		R2年1月24日	計	備考
事業量 又は 事業内容		若手林業者を招いた意欲ある林業事業体による「育成」をテーマとした研修会		
参加者数	県　内 県　外 計	21人 人 21人	21人 人 21人	
実　施　場　所		島根県内全域		

市町村が主導する森林・林業教育の推進体制に関する調査研究

鹿児島大学農学部
〒890-0065　鹿児島市郡元 1-21-24

（目的）

森林の多面的機能への注目が高まる中で、多くの市民に森林・林業の知識普及を推進する体制づくりの重要度が増している。本研究課題では、普及体制を担う主体として基礎自治体である市町村に着目した。国税としての森林環境税・森林環境譲与税が 2020 年から導入されたが、その中で森林行政の実行主体としての市町村の位置づけはより高まっている。市町村が森林行政を推進する際に、市民に森林や林業の知識を普及する方法には何があるのか。例えば、生涯学習という観点では森林・林業博物館、展示施設の活用があり、これらの施設では、多くの市民の森林・林業教育の場として活用されている。教育という観点では学校教育でどのように森林・林業教育を推進するのか、というのも大きな論点となる。本研究課題では、市町村が主導する森林・林業教育を推進する場として、学校が保有する学校林の持つ可能性に着目した。

（方法）

森林･林業教育の場としての学校林の維持･活用状況について、学校林現況調査の 4 回（2001 年、2006 年、2011 年、2016 年）の調査結果を接続することで、存続状況や利用の変化を把握し、学校林の立地から利用の条件を抽出した。また、市町村による森林・林業教育の事例調査を実施して、林務行政と学校との協力関係構築に必要な体制、サポートのあり方について考察した。

（結果）

2001 年から 2016 年まで存続していることが確認された学校林は、教育目的で設置されたものが多く、学校との距離が近かったり広葉樹など多様な樹種で構成されていたりと教育利用しやすいといえる学校林が多いことが分かった。利用、地域交流、利用支援が活発で、学校林が放置されず何らかの形で運営されている所が多いことが分かった。そして所有形態に「学校の所有」が多いことが分かった。使用上の問題点として安全管理の問題があった。所有はしているものの利用されていない学校林に関しては、利用していない理由に距離の遠さや教育時間の確保といった問題が挙がった。

2001 年には存在していたもののそれ以降消滅してしまった学校林に関しては、基本財産の目的で設置されたものが多く、学校からの距離が遠かったり樹種がスギやマツ類に偏っていたりと、教育利用しにくい条件のものが多かった。また、所有形態には借地や使用許可による利用といった簡易的なものが多かった。利用していない理由には森林管理の負担によるものが多かったほか、利用する上での問題点は職員の知識不足や指導体制があった。学校林に関する資料の有無について特徴はなく、存続に関係する要素ではないことが分かった。2001 年も 2016 年も継続して利用されている利用されている学校林（利用あり→利用あり）は、教科教育や課外活動といった目的で設置されているものが多く、学校との距離が近く広葉樹など多様な樹種で構成されていた。所有形態には学校の所有や使用許可による利用が多かった。このように比較的利用しやすい環境が整っており、実際教科教育や生徒会活動、課外活動など様々な形で利用されていることがわかった。利用支援や地域交流も多い傾向があったが、財産目的の伐採は少なかった。

都市部の学校林には、教科教育や環境教育等の目的で設置されたものが多かった。学校からの距離が近く、樹種は広葉樹を中心に多様であった。私有地を利用しているものや学校の所有が多かった。利用が他の立地条件よりも活発な傾向があった。利用していない学校林は森林管理の負担の理由が多かった。利用上の問題点については指導体制の構築や安全管理が多かった。山村の学校林は基本財産の目的で設置されたものが多かった。遠隔地にあり、樹種はスギ・ヒノキが多

い傾向があった。分収林契約による所有が多かった。利用していない理由、利用上の問題点はともに教育時間の確保が多かった。農村部はおおむね都市部と山村部の中間の性質を持っていた。

(考察)

全体でみると、様々な事情で利用していない学校林は全体の7割、今後縮小・廃止を検討している学校林が全体の2割ほどあることも考えると、各地域で放置されている学校林に学校設置者である市町村が目を向けることが必要である。そのためには学校単独では困難な維持管理や活動実施のサポート体制が必要となる。

事例調査では、市町村が主導した森林・林業教育の事例（長野県佐久穂町）について取り上げた。町立佐久穂小学校､佐久穂中学校での学校林を活用したキャリア教育「森林林業体験学習事業」を取り上げたが、この取り組みの中心となっているのが「さくほ森の子育成クラブ」である。同クラブは佐久穂小学校の児童と佐久穂中学校の生徒を対象に、森林の役割について学び、林業等を通じたキャリア教育事業を提供することを目的としている。クラブの運営メンバーには町産業振興課職員が参画しており、活動のための予算確保に町役場が中心として関わっており、学校単独では実施困難な森林の管理、林業体験活動を可能とする体制を構築していた。また、小中一貫校という特色を活かして4年生～8年生（中学2年）までの継続的な活動を実施していた。市町村の役割が今後拡大する中で、林務部門が教育委員会と連携しながら、協力できる仕組みを作ることの必要性が明らかになった。

スマート林業実現のための要素技術開発に関する調査・研究

鹿児島大学　農学部　森林計画学研究室
〒890-0065　鹿児島市郡元 1-21-24

1．背景

充実した人工林資源を背景に大型製材工場の本格稼働、CLT や国産材２×４工法部材の生産、中国等への木材輸出といった新たな需要が創出され、今後も木材需要が増加していくことが期待されている。こうした旺盛な木材需要に対応するため、安定的な供給体制の構築を図ることが課題となっている。2017 年時点で人工林の 50% が収穫可能な林齢に達しており、ようやく国内森林資源が活用される段階になった。資源充実の一方で、我が国の人口は減少傾向にあり、近未来の林業労働力確保が困難になることは想像に難くない。今後より一層の林業の生産性向上のためには、情報の活用すなわち林業の ICT（情報通信技術）化が重要であるとされている。

ICT をはじめとする技術は幅広く、それらの進歩は早いため、常に最新の技術をウォッチしてゆく必要がある。また、国内林業は地域ごとでの自然環境や歴史などが異なっており、「スマート林業の導入」や「レーザ計測による高精度森林情報」と言われても、自らの地域でどのように利活用できるのか戸惑う担当者が多い。現場の技術者に、スマート林業の技術を噛み砕き、わかりやすく説明する必要がある。

2．目的

木材の安定供給と効率的な流通の実現を図るため、川上から川中・川下の関係者間の需給情報を共有・見える化し、ICT を活用したサプライチェーンマネジメント（以下、SCM）の構築を図る必要がある。そこで、山村地域活性化に資する ICT 等のスマート林業実現に必要となる要素技術の最前線の開発者やキーマンを調査し、効率的で安全な地域の稼げる林業作りに使える技術を紹介・普及することを目的とした。

3．調査方法

スマート林業実現に必要となる最前線の要素技術の開発者へのヒアリングを行い、各技術の課題の現状を明らかにし、現場や地域行政で具体的な活用策のヒントが得られる普及資料の作成を行う。本事業で取り上げた要素技術は (1) 航空レーザ計測、(2) ドローン技術、(4)IoT、(5)SCM、(6) 森林内通信である。ヒアリングをもとに、現場に適用・普及するための条件や課題、また展望について取りまとめた。

4．調査結果

高精度森林資源情報に関して、航測会社、林業情報コンサルタント企業、森林組合、木材企業経営者、林業機械開発企業等でのヒアリングを行った。同時に、ICT 関係企業や研究機関の専門家からの助言を得た。以上をもとにして、まず、我が国林業を取り巻く現状について「スマート林業から林業 DX へ」として取りまとめた。森林資源、生産から流通に至までの見える化を図るための技術について概観した。さらに、スマート林業による森林資源、生産や流通の見える化は、森林調査や素材生産、木材流通のプロセスを効率化し、コストダウンを実現してゆき、これらのデータをどう解析してゆくのか、そして情報と結びつける林業 DX により、製品やサービスに新たな価値を付与することで林業生産額を拡大して行くことが大切であることの重要性を強調した。

次に、「ICT を活用した木材生産計画のための森林資源情報の整備」では、(1) 航空レーザ計測、(2) GNSS による測量、(3)UAV による森林資源調査に係る技術の現状について詳細に取りまとめた。航空レーザ計測は計測対象地が 1000ha 以上の場合に有効で、立木密度や単木の樹高といった高精度の森林資源情報や詳細地形情報を得るためにはレーザ照射密度が 4 点 /m^2 が必要となる。GNSS 測量は、RTK-GNSS が可能な機材の価格が下がったことと、電子基準点だけでなく民間企業による補

正情報提供サービスが開始されたことにより、身近になってきた。また、我が国が運用する準天頂衛星（QZSS：みちびき）でもセンチメートル級の補強情報が提供され、森林域でも高精度の位置情報が利用できるようになってきた。UAV による森林調査では、森林整備事業の補助金申請・検査に UAV 撮影画像が利用できるようになってきた。SfM 処理に耐えうる撮影条件と SfM 処理のためのソフトウェエアや PC が必要となるが、森林組合をはじめ林業事業体での活用が期待される。さらに、UAV による携帯電波の中継技術の実証についても説明を行った。

「ICT を活用した木材生産現場の生産管理情報の整備」については、山土場での検知作業のデジタル化について説明した。

「木材需要者（製材工場等）が必要とする原木情報の共有化に関する情報収集」では、素材流通業者や有識者へのヒアリングを行い、素材流通の課題を明らかにした。特に、素材の採材商習慣については､2 × 4 用ラミナ用は 2.4m､アメリカ向けフェンス材 1.9m､中国向け輸出材も 3.7m､3.8m､4.4m といった注文があり、その長さでジャストカットして持ち込み始めていることがわかった。

「ICT を活用した需要（注文）と供給（生産）のマッチング手法の検証」では、木材 SCM や素材情報クラウドシステムについて事例をもとにして取りまとめた。さらに、「地域での取組事例の調査、分析」では、各地でのスマート林業に関する事例を紹介した。特に岩手県でのネットを活用した木材流通の取り組みは、木材流通を大きく変革する可能性がある。最後に「地域版 SCM 構築のモデル構想」では、立木価格を上げるために SCM の構築が必要であることを指摘した。

本事業成果の普及のために、以上の成果を含めた 9 回の講演会（東京都文京区、大分市、宮崎市、美濃市、熊本市、神戸市，南砺市、ウェブ、計 727 人参加）で講演を行った。また、成果を業界関連雑誌に 2 編寄稿した。

5. まとめ

令和 2 年春からのコロナ感染症拡大のため、事業期間を 1 年延長した 2 年間の活動を報告した。

スマート林業の実現には、単なる高精度森林資源情報やシステムを導入すればよいということではない。国内の他産業分野でも、「現在のやり方をそのままデジタルに置き換えてもうまく行かない。経験や勘で進められている現在の業務のやり方を見直すことから始めなければならない。全国の林業界で、いくつかの取り組みが始まっている。デジタル化（見える化）を前提として、仕事のやり方を変え、新たなビジネスモデルを創出し、競争優位性を高めることを目指すべきである。

最後に、公益社団法人国土緑化推進機構ならびにご協力頂いた皆様に心より感謝したい。

「木と森の子育て実践とその支援を担うボランティアの養成事業」

NPO 法人　木育・木づかいネット
〒103-0027　東京都中央区日本橋 3-2-14
新槇町ビル別館第一 1 階

1．活動の概要

木や森を活用した子育てに関心を持つ子育て世代に向けた体験・普及活動を実施するとともに、これを支援するボランティア養成を行い、埼玉県内における活動基盤を整備するという活動を予定していた。体験イベントはこのコロナ禍で開催が見通せないため、オンラインで使用できる「幼児期に行う木のものづくり体験」冊子を、幼児教育や木育の専門家や林業関係者のアドバイスをもとにまとめ、制作した。それを使用しての指導者養成研修を実施した。

2．活動の成果

今回作成した冊子では、主として木工活動の教育的価値、心身の発達への効果についてまとめるとともに、実施可能な幼児用教材、実践内容の概略を掲載した。またこの冊子に基づいての指導者養成研修会を、埼玉県内の保育園及びオンラインにて開催し、保育者、実践者の教材開発及び子どもに対する木工指導技術についての指導を行った。

また、この冊子の活用を促進するために、簡易作業台並びに木工基本キットの開発を併せて進め、前述の実践で一部活用するとともに、その効果について検証した。

幼児教育施設において、今回の冊子、教材はもとより、実践プログラムについても好意的に受け止められており、木育の更なる推進に大きく貢献すると考えられる。

3．参加者の声

木工体験は多少したことがあったが、幼児に教えるための指導者養成研修は初めてだったので、非常に参考になった。幼児ならではの気を付けなければいけないポイントがよくわかったと、好評だった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		令和 3 年 6 月 24 日	令和 3 年 2 月 13 日／3 月 14 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		保育施設における木工指導者養成研修 1）保育士等の幼児教育者の木工スキルの向上を図る 2）「幼児期に行う木のものづくり体験」を活用した実践試行	オンラインによる木育サポーター養成研修 1）木育実践者の木工についての認識とスキル向上を図る 2）「幼児期に行う木のものづくり体験」の内容の検証		
参加者数	県　内 県　外 計	20 人 0 人 20 人	人 人 40 人	人 人 人	
実　施　場　所		埼玉県　所沢市　及びオンライン			

ぎふ森　遊びと育ち　交流会

ぎふ森　遊びと育ち　ネットワーク
〒501-0512　岐阜県揖斐郡大野町上秋 946-10

1．活動の概要

当ネットワークは、「子ども、自然、遊び、育ち」をキーワードに多様な人々がつながり合い、県内に暮らす子どもたちの健やかな成長、幸せを目指すことを目的としている。

互いの実践を交流させながら一緒に学んでいく機会として、また情報共有をはじめとして日々の実践を支える機会として、今回の交流会を開催した。

コロナ渦ということもあり、人数を絞り、かつ分散できる様「プレーパーク交流会」を行った。

また、紙面での交流と普及啓発を考え、「ぎふ森あそびと育ちマップ＆ガイド」を作成し、県内の主要施設等に配布した。

2．活動の成果

自然を活かした主体的な遊びは、子どもたちの環境に対する認識を深め、里山林や空き地の利活用を促進する。

意見交換会、視察などを行ったことで、各団体の運営や活動が充実した。また、子ども達を交えた実践を行う中で、団体や個人の繋がりもうまれ、プレーパークの可能性を再確認する機会となった。

今回の活動で、ネットワークに加入する団体も増え、これからプレーパークを始めたいという地区も生まれ、担い手の発掘や育成につながった。

「ぎふ森あそびと育ちマップ＆ガイド」を配布したことで、活動の社会的認知の向上が見込まれる。

3．参加者の声

こういった活動に意欲がある人達と出会える場があってうれしい。他の団体の方とお話ができて、世界が広がる交流会でした。

これから立ち上げる人達にもわかりやすくてよかった。ちょっと近くでやってみようかなという気になりました。

固定概念があり、森があって川があって自然で思いっきり遊ぶ…を想像していたので子どもが主体的に遊べたらどこでもいいってことが体験できました。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		4 月 10 日	5 月 15 日	5 月 30 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		意見交換会 プレーパーク 体験 交流	視察 交流	実践 交流		6 月にマップ＆ガイドを作成し、配布した
参加者数	県　内 県　外 計	大人 34・子 37 0 大人 34・子 37	大人 18・子 28 0 大人 18・子 28	大人 31・子 44 0 大人 31・子 44	大人 83・子 109 0 大人 83・子 109	
実　施　場　所		岐阜県　岐南町・大垣市・岐阜市				

「びわ湖の森と自然を活用した保育・幼児教育」基盤整備事業

びわ湖の森のようちえん　滋賀森のようちえんネットワーク
〒520-2134　滋賀県大津市瀬田 1-11-25

1．活動の概要

森と自然を活用した保育・幼児教育の質の向上と、森林整備・活用を促進するため、滋賀県内の実践者､研究者､行政関係者が学び合う「森と自然の保育研究会」を実施し､その成果を発信した。

研究会は３つのテーマで５回実施した。園庭や森林フィールドの環境整備については、県内外から専門家を講師に招き、シンポジウムやフィールド視察、事例検討、講演会などを実施した。保育者養成・研修については、各実践団体の安全管理マニュアル作成のための講習を実施した。カリキュラム作成については、実践者のグループインタビューでカリキュラムの柱を描き出し、滋賀大学幼児教育研究室の調査協力により記録を整理し、それに基づいて、各団体でのカリキュラム作成にむけて、さらなる専門家の助言を受けた。

情報発信については、県内の森林整備団体と保育実践者の協働例をマップ上で紹介し、より具体的な協働のイメージが湧く事例を特集記事として掲載したパンフレットを作成した。この冊子を森林活用などに役立ててもらえるよう、県内の森林整備団体と保育・幼児教育施設、自治体などに配布した。

新型コロナウィルスの感染拡大により、当初計画の後半の予定通りの実施が困難となったため、実施期間を１年延長して、オンラインでの研究会開催、リモート取材による情報発信など、内容を変更して実施した。

2．活動の成果

「森と自然の保育研究会」では、これまでも県内の各実践団体が連携して研修会などを実施してきた。今回、園庭・環境整備の研修会では、１つの認可園の園庭整備の時期と重なり、専門家に助言を受ける事例検討を通じて、その園が子どもとともに園庭をつくるきっかけになり、その過程から他園の保育者も具体的に学ぶことができた。シンポジウムでは、県外の専門家を招き、自然保育を重視する県内の認可園から多くの参加を得て、情報交換やつながりを築く機会となった。保育者養成研修では、今までは個人の安全管理や救急法のスキルアップを行っていたが、念願の各実践団体の安全管理マニュアルを整えるための管理者講習を実現できた。いずれも継続していきたい。

「森と自然保育マップ」では、これまで県内に連携の好事例があっても周知されにくかったが、情報をまとめて整理して発信することで、森林の活用を望む整備団体とフィールドを求めている保育団体の双方に関心を持ってもらうきっかけができた。さらに県内の連携事例を紹介すべく、今後も取材をして続編を作成したい。

3．参加者の声

「カリキュラムについて、シンポジウムの広大附属の話をもとに園内で検討を始めました」

「園庭は育てていくものという視点が目からうろこでした」「実際にせた森のようちえんのフィールドを歩いてみて、幼児にとって適度な丘陵のアップダウンと、多様性のあるビオトープ等、参考になりました。子どもたちが木登りしたり案内してくれて、日ごろの活動の様子を想像することができました」

「安全管理マニュアル研修は、管理者としての法的責任から理解でき、大変有意義でした。具体的な計画も立てられ、心強く思いました」

さらに、いずれの勉強会においても、同じテーマで継続して次回を期待する声が多く聞かれた。

実績報告とりまとめ表

<table>
<tr><td colspan="2">実施時期</td><td>19年11月29日</td><td>19年12月18日</td><td colspan="2">20年2月22・23日</td><td>20年7月19日</td><td>21年6月19日</td><td>21年4～6月</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">事業内容</td><td rowspan="2">研究会／カリキュラム作成①／グループインタビュー※記録整理協力</td><td rowspan="2">研究会／保育者養成・研修②／安全管理マニュアル講習</td><td colspan="2">研究会／園庭・環境整備①／シンポジウムとフィールド視察</td><td rowspan="2">研究会／園庭・環境整備②／事例検討と講演会</td><td rowspan="2">研究会／カリキュラム作成②／カリキュラムの柱作成への指導助言</td><td rowspan="2">情報発信／森林整備と自然保育の事例紹介マップ取材・作成</td></tr>
<tr><td>シンポ</td><td>視察</td></tr>
<tr><td rowspan="3">参加者数</td><td>県内</td><td>11人</td><td>9人</td><td>65人</td><td>7人</td><td>16人</td><td>12人</td><td rowspan="3">掲載フィールド10カ所・18団体
2000部作成</td></tr>
<tr><td>県外</td><td>－</td><td>－</td><td>8人</td><td>4人</td><td>－</td><td>1人</td></tr>
<tr><td>計</td><td>11人</td><td>9人</td><td>73人</td><td>11人</td><td>16人</td><td>13人</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施場所（全て大津市内）</td><td>滋賀大学教育学部</td><td>びわこ文化公園</td><td>龍谷大学瀬田C</td><td>びわこ文化公園</td><td>オンライン開催</td><td>オンライン開催</td><td>特集1カ所以外はリモート取材</td></tr>
</table>

※2020年6月末に計画変更申請

芦生をフィールドとした森林環境教育の
実施・定着に向けた学社融合型推進体制の構築
～由良川流域の小学校での活用をめざして～

一般社団法人　芦生もりびと協会
〒601-0703　南丹市美山町芦生スケ尻 14-2

1．活動の概要

由良川源流域に位置する京都大学芦生研究林をフィールドとして、流域の子どもたちに向けた森林環境教育の展開と継続実施に向け、地元団体・NPO・学校関係者・ガイド・研究者等がタグを組む学者融合型の推進体制を模索・構築する

2．活動の成果

・森林環境教育プログラムの実施体制ができた
・美山町内で小中学校生向けに開発したプログラムが学校行事に組み込まれた
・冊子ができたことで他地域への活動紹介ができるようになった

3．参加者の声

〈プログラム参加者〉
・こんなに大きな樹があるんだなあと思いました。でも「100 年・200 年と生きてきた気はこんなにおおくなるんだよ」と教えてもらってびっくりしました。

〈学校教員〉
・自然に触れることの純粋な楽しさ、子どもたちと自然との関わりに携われたこと、そしてそのような自然を常に保護しながら私たちへと橋渡しする方々のたゆまぬ努力。どれも学びになった。

実績報告とりまとめ表

実　施　時　期		19 年 11 月～ 20 年 9 月	19 年 11 月～ 20 年 9 月	計	備考
事業量 又は 事業内容		プログラム開発 1）トライアルツアーの実施 2）事前研修 3）学校での実施	推進体制の構築 1）会議 2）検討会 ※メール等でも実施		
参加者数	県　内 県　外 計	延べ 68 人 0 人 延べ 68 人	延べ 43 人 0 人 延べ 43 人	延べ 111 人 0 人 延べ 111 人	
実　施　場　所		京都府　南丹市			

連続セミナー「森林減少と地球温暖化・生物多様性」の開催及び温暖化防止に資する森林保全の在り方に関する情報収集

地球・人間環境フォーラム
〒111-0051　台東区蔵前 3-17-3-8F

1．活動の概要

熱帯林保全の象徴と言えるインドネシア・スマトラ島のルーセル地域を事例に、森林減少による地球温暖化の抑制と生物多様性の保全、持続可能な利用に関する連続セミナーを開催した。当初は海外から講師を招聘して開催予定だったセミナーを、4 回のオンラインセミナーに変更して実施し、うち 2 回はインドネシアの講師で同時通訳を介して行った。第 1 回目はインドネシア大学大学院環境学研究科及び京都大学東南アジア地域研究の水野広祐氏より「熱帯泥炭湿地林保全と気候変動の抑制」、2 回目は HAkA:Forest,NatureandEnvironmentofAceh（アチェの森林、自然、環境）のファーウィザ･ファーハン氏より「ルーセル･エコシステムの保全と課題」、第 3 回はオランウータン情報センターのパヌット･ハディシソヨ氏より「スマトラのオランウータン保全:希望と課題」、第 4 回はレインフォレスト・アクションネットワークの川上豊幸氏より「日本のサプライチェーンと熱帯林 -SDGs12 と 15 の視点から」というタイトルで講演いただいた。各回ともコメンテーターをつけ、専門的かつ講師とは異なる視点からのコメントを加えてもらい、問題の理解と活発な質疑応答につながった。

2．活動の成果

インドネシア現地からの報告は、具体的に現地で何がおきているか、問題を理解するために役立ち、日本側からの報告はパーム油輸入国である日本社会が果たすべき責任についてさせる内容であった。参加人数は延べ 515 人に達し、関心の高さがうかがえた。今後ともパーム油や熱帯林とサプライチェーンとの関係について、現地の情報を的確に把握し、日本社会に届けられるような調査やセミナーを行い、具体的な解決策である責任ある調達に結び付けていきたい。

3．参加者の声

・現地の声を直接聞くことができて大変良かった。
・ボルネオのオランウータンとパーム油の話は知っていたが、スマトラの話は初めて聞いた。
・ＳＤＧｓとは何か、消費国の責任について改めて考えさせられた。
・無料・オンラインでの開催がありがたい。
・もっと日本でこういった情報が広まるべきと思う。

実績報告とりまとめ表（2020 年）

実　施　時　期		10 月 27 日	11 月 27 日	12 月 8 日	12 月 23 日
事業内容		第 1 回セミナー開催	第 2 回セミナー開催	第 3 回セミナー開催	第 4 回セミナー開催
参加者数	述べ 515 人	142 人	113 人	116 人	144 人
実　施　場　所		オンライン			

令和２年度「緑と水の森林ファンド」公募事業　実行簿

普及啓発事業　80 件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額(千円)	実行額(千円)	備考
A1	NPO 法人 自然生活体験センター冒険家族	里山で自給生活体験に挑戦	北海道	200	200	
A2	青森県立五所川原農林高等学校	学校演習林（大東農園）を活用した林業教育の推進	青森	550	0	期間延長1年
A3	青森県緑の少幼年団連盟	青少年への緑を通じた環境教育推進事業	青森	800	800	事業内容
A4	沖館地域緑の募金推進協力会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森	150	150	
A5	岩手県立 大野高等学校	里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～	岩手	350	345	
A6	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森・人・地域 再生シンポジウム in 遠野 2020	岩手	350	350	
A7	大野木工生産グループ	～森のめぐみ･子どもたちへのメッセージ～「どんぐりからうつわまで」出前講座開設事業	岩手	700	0	期間延長1年
A8	特定非営利活動法人 水守の郷・七ケ宿	体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～	宮城	300	300	
A9	特定非営利活動法人 SCR	自然にふれよう 山のがっこう	宮城	300	300	
A10	特定非営利活動法人 森林との共生を考える会	仮称「日本の森林の未来は森林活用・木材利用にある」	宮城	800	800	
A11	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2020	山形	200	200	
A12	一般社団法人 子育てネットワーク ままもり	木のおもちゃ広場の開催	茨城	800	0	期間延長1年，事業内容
A13	特定非営利活動法人 やみぞの森	地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業	茨城	800	800	事業内容
A14	特定非営利活動法人 オオタカ保護基金	サシバの里の「野遊びようちえん」	栃木	250	0	未提出
A15	ぐんま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校	群馬	350	350	事業内容
A16	倉渕ヤマアジサイの会	ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティアの育成	群馬	400	400	事業内容
A17	埼玉県立浦和第一女子高等学校麗風会	「生物多様性のある里山の森づくり」	埼玉	500	500	期間延長；R3,12まで
A18	特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第５回）	千葉	400	200	期間延長；R3,12まで
A19	一般社団法人 全国林業改良普及協会	森林・林業に関する普及活動理解促進プログラム	東京	400	118	310
A20	特定非営利活動法人 農都会議	地域型バイオマスの熱利用普及、熱需要等調査及び技術研修	東京	750	746	
A21	特定非営利法人 森びとプロジェクト委員会	日光ふるさとの森づくり	東京	850	0	名称変更，期間延長；R4,6まで
A22	一般社団法人 産業環境管理協会	森林・水の生物多様性及び生態系サービスに関する普及啓発活動	東京	600	600	
A23	International Society of Nature and Forest Medicine	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	800	0	期間延長1年
A24	公益財団法人 オイスカ	健全な海岸林を将来に残すための啓発活動	東京	1,000	1,000	期間延長1年
A25	特定非営利活動法人 森づくりフォーラム	初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業	東京	900	788	
A26	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林ESD）の推進	東京	600	597	
A27	「森づくり政策」市民研究会	森林社会学会創設のための連続講座運営事業	東京	800	800	
A28	一般社団法人 TOBUSA	「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム	東京	500	500	
A29	特定非営利活動法人 自然文化誌研究会	身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育	東京	400	0	期間延長1年
A30	石けんビレッジ	石けんを通して人や水環境を守るための啓蒙活動	東京	100	100	
A31	一般社団法人 全国森林レクリエーション協会	幼児教育等と森林インストラクターのマッチングシステムに関するフォーラムの開催	東京	600	600	
A32	特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク	都市部における若者による森林環境教育の実践	東京	550	550	期間延長R3.12まで事業内容

A33	一般社団法人 木のいえ一番振興協会	木のいえデザイン×耐久性Ⅱシンポジュウム（仮称）の開催	東京	1,000	0	事業辞退
A34	NPO 法人 くにたち農園の会	身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう	東京	450	450	
A35	「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	シンポジウム「グローバル森林新時代－森林減少ゼロ・SDGs・循環型社会を目指して－」	東京	650	650	事業内容
A36	一般社団法人 全国森の循環推進協議会	「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り	神奈川	1,000	771	
A37	一般社団法人 文化遺産を未来につなぐ森づくり会議	「木造文化遺産補修用材の持続的な確保について」	神奈川	650	0	事業辞退
A38	一般社団法人 神奈川県建築士会	第２回 地域の木材活用シンポジウム	神奈川	650	0	
A39	里山銀杏峰を愛する会	命の水を育む銀杏峰を癒しの森に	福井	250	250	
A40	奥河口湖長崎山さくらの里公園づくり協議会	奥河口湖の生態系保全と持続可能な観光を体験する親子向け自然観察会	山梨	300	275	
A41	木育全国生産者協議会	ユネスコ遺産にも認定された「和食」における「木づかい」についての調査・普及事業	長野	800	0	期間延長；R4,3まで
A42	NPO 法人 調和の響き エコツーリズムネットワーク	持続可能な地域資源・地域社会の実現に向けて“財産区が管理・運営する財産区有林について考える－長野県茅野市を例として”	長野	400	0	内容変更
A43	特定非営利活動法人 F.O.P	山が育てた命･先人の希望を受け継ぎ､いかそう。	長野	350	350	
A44	公益社団法人 静岡県林業会議所	小枝アートづくりで森と木が大好きになるプロジェクト	静岡	500	500	
A45	梨の木里山づくりの会	梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育プログラム	愛知	200	200	
A46	特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	小学校授業での森林体験学習	愛知	600	495	
A47	公益社団法人 日本山岳会東海支部	猿投の森音楽祭 2020「猿投の森を体験しよう」	愛知	550	0	中止
A48	松阪地区青和会	松阪フェス木バル 2020	三重	800	0	中止
A49	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	3	
A50	やまぐに（林業女子会＠京都）	木育 森の恵み発信プロジェクト	京都	500	500	
A51	一般社団法人 森のようちえんどろんこ園	森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』	京都	200	200	
A52	きららの森のいえ	森のようちえんがまきおこす「能勢の森の守人を育てるプロジェクト」	大阪	750	750	
A53	NPO 法人 サウンドウッズ	地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業	兵庫	750	750	web 会議
A54	奈良教育大学附属中学校	森林生態系から考える ESD ワークショップ～憩いの場学校林の活用を通して地域課題を考える～	奈良	700	592	
A55	森のようちえん ウイズ・ナチュラ	森のようちえん×行政と自治体× SDGs	奈良	550	492	
A56	一般社団法人 紀の国森社	森づくり！子どもたちと地域住民がワンチーム	和歌山	400	0	未提出
A57	森のようちえん全国交流フォーラム in しまね実行委員会	しまね自然子育てセミナー	島根	1,000	750	web 会議
A58	特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	森林を活用したプレーパーク活動	島根	250	209	
A59	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進	島根	1,000	1,000	事業内容
A60	おかやま木育クラブ	おかやま木育活動（木工・自然クラフト体験・森林環境学習）	岡山	600	23	
A61	NPO 法人 倭文の郷	里山保全の普及啓発事業	岡山	300	300	
A62	特定非営利活動法人 ひろしま自然学校	森の妖精くらぶ～親子で森の体験～	広島	200	0	事業内容．期間延長1年
A63	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	650	0	未提出
A64	とくしま木づかい県民会議	「とくしま木づかいフェア 2020」の開催	徳島	750	750	
A65	四国の森づくりネットワーク	将来木施業の理解を深めるためのシンポジウムと現地研修会	愛媛	800	0	期間延長１年
A66	海ギャラ Chill Out 実行委員会	海ギャラ Chill Out ～竜串に東大から遍路小屋が旅して来る～	高知	700	700	
A67	ふくおか森づくりネットワーク	オンライン連続講座「生き物豊かな森づくりを目指して」	福岡	600	322	事業内容、金額

A68	平榎復興委員会	2017年九州北部豪雨後の景観づくりによるコミュニティ再生	福岡	800	800	
A69	特定非営利活動法人 森林をつくろう	森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ	佐賀	800	241	金額変更，未提出
A70	特定非営利活動法人 とす市民活動ネットワーク	人と森をつなぐ木材利用 と木育事業	佐賀	600	0	未提出
A71	九州森林インストラクター会	森と水を学ぶ面白塾	熊本	300	269	
A72	NPO法人 九州森林ネットワーク	第25回九州森林フォーラムin熊本県小国町～森林を守り、活かすために：市町村による森林行政の可能性と悩みを共有しよう～	熊本	650	650	YouTube配信
A73	スマイリー	観察会を通じて森への理解を深めよう！	鹿児島	450	397	
A74	NPO法人 こどものけんちくがっこう	産学連携による横断的な森林環境教育	鹿児島	750	750	Oline教育
A75	特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク	女性目線の森林セラピー事業	鹿児島	450	411	
A76	鹿児島県森林ボランティア連絡会	R2年度森林ボランティアの日活動in「馬事公苑の森」	鹿児島	800	800	
A77	特定非営利活動法人 ひばり倶楽部	母子家庭の親子の森林体験パート２	鹿児島	350	350	
A78	特定非営利活動法人 薩摩ワンダー村	SDGsを学び体験してみよう	鹿児島	400	0	未提出
A79	特定非営利活動法人 NPOエキスパートバンク	「守る・楽しむ・創る・育てる」森の体験	鹿児島	400	400	
A80	特定非営利活動法人 もりびと	元気な森の農山村を育てる事業	鹿児島	600	600	

調査研究事業　7件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額(千円)	実行額(千円)	備考
B1	全国社会教育職員養成研究連絡協議会	森林ESD指導者に求められる教育的力量の可視化と評価及び養成プログラムへの活用に係る実証的研究	東京	1,000	1,000	
B2	東京大学未来ビジョン研究センター　ライフスタイルデザイン研究ユニット	健康経営における森林サービスの活用：企業研修における森林の持つ複合的な効果についての研究	東京	700	0	期間延長1年
B3	一般財団法人 林業経済研究所	穂木調達も含めた林業用苗木生産工程におけるボトルネックの把握―宮崎県を事例に―	東京	800	800	
B4	木と建築で創造する共生社会実践研究会	「SDGs達成に向けた『木と建築で創造する共生社会』実践ガイドブック」（仮称）作成事業	東京	550	0	期間延長1年：金額330
B5	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	700	0	未提出
B6	串原森の健康診断実行委員会	くしはら森の健康診断	岐阜	150	0	未提出
B7	諸県の下刈りを楽にする会	防草麻シートによる防草効果及び敷設功定調査	宮崎	500	500	未提出

活動基盤整備事業　15件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額(千円)	実行額(千円)	備考
C1	学校法人 尚絅学院	森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」	宮城	450	450	
C2	特定非営利活動法人 Peace Field Japan	大学生を対象とした森林環境教育プログラム	東京	300	297	
C3	特定非営利活動法人 山の自然学クラブ	宮城県沿岸部の在来植物を活用した屋敷林と沿岸植生の再生活動	東京	900	0	事業期間1年延長
C4	子ども樹木博士認定活動推進協議会	「子ども樹木博士」のネットワーク化による森林環境教育の推進	東京	800	800	
C5	上智大学大学院 地球環境研究科	「フォレスティング･ベース」としての「ソフィアの森」の整備	東京	500	0	期間3.6.30-3.12.31
C6	早稲田大学 地域・地域間研究機構	能登半島の中山間地域における住民グループと都市住民の連携による地域活性化・グリーンビジネスのモデル構築	東京	600	0	事業期間1年延長
C7	モリダス	安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業	東京	600	600	
C8	特定非営利活動法人 まめってぇ鬼無里	きのこを育てて森とつながろう！里山と人をつなぐ「鬼無里・原木きのこファンクラブ」	長野	550	550	

C9	ＴＧＣ繋	緑と水の森林ファンド	静岡	300	0	未提出
C10	奈良県森林ボランティア連絡協議会	陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川	奈良	450	402	
C11	公益社団法人 徳島森林づくり推進機構	「FAB とくしま」を活用した「緑のインフルエンサー」養成事業	徳島	1,000	0	事業期間１年延長
C12	とくしま森林づくり県民会議	徳島県森林づくりリーダー養成講座	徳島	600	600	
C13	情報交流館ネットワーク	令和２年度　森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	597	
C14	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎	800	800	事業内容の変更
C15	特定非営利活動法人 たんぽぽ	子どもリーダー企画の自然体験事業	鹿児島	500	462	

国際交流事業　３件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）	備考
D1	蒼いウランバートル技術支援実行委員	蒼いウランバートル緑化技術等交流促進事業	北海道	700	0	事業期間１年延長
D2	一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	国際セミナー「森林火災と地球温暖化－燃える森から地球の未来を守れるか」（仮題）開催	東京	850	0	事業期間１年延長
D3	熱帯林行動ネットワーク	気候変動対応と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での森林減少阻止と住民土地権尊重支援の意義を伝えるセミナー実施	東京	600	600	事業期間21/8 まで延長

令和元年度「緑と水の森林ファンド」公募事業　（事業期間延長分）

普及啓発事業　7件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）
A26	International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	1,000	1,000
A27	特定非営利活動法人 森づくりフォーラム	初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業	東京	900	450
A32	一般社団法人 木のいえ一番振興協会	健康と木材・木造施設を考えるシンポジュウム（仮称）の開催	東京	1,000	1,000
A35	NPO法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟	乳幼児親子のための森でいっぱいあそぼう	東京 新規	400	400
A55	大阪森林インストラクター会	箕面国有林勝尾寺園地「箕面ふれあいの森」における森林ESD促進に向けた実践活動～ガイドマップ作成と環境教育プログラムの実施～	大阪 新規	250	250
A63	特定非営利活動法人 コアラッチ	森とともにSDGs	島根 新規	500	500
A69	特定非営利活動法人 ふくつ子どもステーション すてっぷ	五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業	福岡	650	330

調査研究事業　6件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）
B1	筑波大学生命環境系	民有林における森林管理のリスクマネジメントに関する調査研究	茨城 新規	400	400
B5	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	650	650
B9	富山福祉短期大学 幼児教育学科	森のようちえんによる森林環境教育・自然保育の教育効果とその検証	富山 新規	350	350
B12	銀林の恵み林活プロジェクト実行委員会	「島根の未来の森林の担い手はここに！」作成事業	島根 新規	700	655
B13	鹿児島大学農学部	市町村が主導する森林・林業教育の推進体制に関する調査研究	鹿児島	650	649
B14	鹿児島大学 農学部 森林計画学研究室	スマート林業実現のための要素技術開発に関する調査・研究	鹿児島 新規	400	308

活動基盤整備事業　4件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）
C6	NPO法人 木づかい子育てネットワーク	木と森の子育て実践とその支援を担うボランティアの養成	東京	800	800
C11	ぎふ森 遊びと育ち ネットワーク	ぎふ森 遊びと育ち 交流会	岐阜 新規	200	200
C13	びわ湖の森のようちえん 滋賀森のようちえんネットワーク	「びわ湖の森と自然を活用した保育・幼児教育」基盤整備事業	滋賀 新規	500	190
C14	一般社団法人 芦生もりびと協会	芦生をフィールドとした森林環境教育の実施・定着に向けた学社融合型推進体制の構築～由良川流域の小学校での活用をめざして～	京都 新規	600	459

国際交流事業　1件

番号	申 請 者	事　業　名	都道府県	採択額（千円）	実行額（千円）
D1	地球・人間環境フォーラム	連続セミナー「森林減少と地球温暖化・生物多様性」の開催及び温暖化防止に資する森林保全の在り方に関する情報収集	東京	850	850

令　和　２　年　度

「 緑と水の森林ファンド 」

公 募 事 業 募 集 要 領

公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-４ 砂防会館別館（Ｂ棟５Ｆ）

TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

令和２年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成２４年１２月「国際森林デー」の制定、平成２５年１１月「国連持続可能な開発のための教育１０年（ＥＳＤ）」世界会議等の意義、平成２７年９月の国連サミットで採択された１７の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生１００年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

〔　重点項目の設定　〕

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った４分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

≪重点項目≫

1　「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及啓発

2　地域材の利用促進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化

3　リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援

4　学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成

5　森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

［１］助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成１０年法律第７号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア　規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員の構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ　営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

［２］助成対象事業

1　普及啓発

(1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発

(2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

(3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
(4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用推進に関する普及啓発

2　調査研究

(1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
(2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
(3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
(4) 地域材・山村資源の有効活用等山村地域活性化に関する調査研究

3　活動基盤の整備

(1) 森林 ESD（森のようちえんを含む）など森林を活用した環境教育等の青少年の育成に関するもの
(2) 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等
(3) 森林づくり活動を通した農山村と都市住民等との交流促進

4　国際交流

(1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
(2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記［１］、［２］に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

①　専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
②　他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
③　事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
④　事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
⑤　事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

［３］事業期間

令和２年７月１日から令和３年６月３０日まで

［４］助成対象経費

（１）助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項　　目	区　　分	摘　　要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝　金　等	外部からの招請者に限る。 （旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。）
調　査　研　究　費	労　賃　等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会　　場　　費	借　上　料	設営費を含む。
事　　務　　費	用　品　費	
	印　刷　費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通　信　費	
	そ　の　他	
資　　材　　費	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
森林づくり活動等のボランティア活動	受入れ施設費	公共施設等を宿舎として一括借上げる場合の宿泊費
	交　通　費	事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等）
	保　険　料	ボランティア等傷害保険料

（２）助成の対象とならないもの
①食糧等飲食費。
②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。
③森林ボランティア活動の　ア　労賃
イ　ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費
ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

［５］助成金の限度

団体１００万円、個人７０万円

［６］応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、［様式１］「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ郵送して下さい。

［送付先］公益社団法人　国土緑化推進機構　基金業務部あて
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（Ｂ棟 5Ｆ）
TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

［７］募集期間

令和２年２月１日から令和２年３月１５日まで（消印有効）とします。

［８］助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、７月上旬申請者に［様式２］により通知します。

［９］実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙１」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了後２ヶ月以内に［様式３］の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙２：報告要旨」を当機構に提出して下さい。なお、[別紙２：報告要旨]は、報告集として取りまとめ公表致しますので、電子データでの提出もお願いする予定です。

［１０］領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の２決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

［１１］助成金の交付

(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認めた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。
(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の１／２以内の額を［様式４］により、概算請求をすることができます。

「緑と水の森林ファンド」公募事業　報告集　Vol.12

令和４年 ３月発行

発行　公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093　東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館
TEL.03-6362-8457　FAX.03-3264-3974
電子メールアドレス：info@green.or.jp
URL：http://www.green.or.jp

緑と水の森林ファンド

第 25 回九州森林フォーラム in 熊本県小国町～森林を守り、活かすために：市町村による森林行政の可能性と悩みを共有しよう～（熊本県　小国町）
NPO 法人 九州森林ネットワーク

公益社団法人　国土緑化推進機構